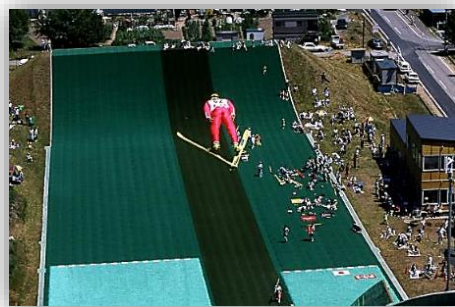


「農業未来都市創造」

「合宿の聖地創造」



士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略



北海道士別市

目 次

第1章 人口ビジョン

1. 人口動向分析	
(1) 人口動向分析	1
① 総人口の推移と将来推計	1
② 年齢3区分別人口の推移と将来推計	2
③ 出生・死亡、転入・転出の推移	3
(2) 人口移動分析	4
① 年齢階級別の人口移動の状況	4
② 地域別人口移動の状況	5
(3) 合計特殊出生率の推移	7
(4) 婚姻率の推移	8
(5) 雇用や就労等に関する分析	9
① 産業別就業者数及び特化係数	9
② 農業産出額	10
③ 製造業及び卸売業・小売業	11
2. 将来人口推計	
(1) 将来人口推計	12
① 社人研推計準拠、日本創成会議推計準拠及び市独自推計 との総人口の比較	12
② 人口減少段階の分析	13
(2) 将来人口に及ぼす自然増減・社会増減の影響度	14
(3) 老年人口比率の変化	15
(4) 人口の変化が地域の将来に与える影響	16
3. 人口の将来展望	
(1) 目指すべき将来の方向	16
(2) 人口の将来展望	17
① 人口推計の考え方	17
② 将来人口の推計	18
③ 高齢化率の推移と長期的な見通し	19

第2章 総合戦略

1. 基本的な考え方

(1) 位置・地勢	20
(2) 沿革	20
(3) 気象	21
(4) まちづくり	21
(5) 総合戦略の趣旨	23
(6) 総合戦略の位置づけ	23
(7) 計画期間	24
(8) 計画人口	24

2. 構 想

(1) 農業未来都市創造	24
(2) 合宿の聖地創造	26

3. 重点プロジェクト

(1) 農業未来都市創造事業	27
① やさしい農業農村づくり	27
② おいしい農業農村づくり	28
③ がんばる農業農村づくり	29
(2) 合宿の聖地創造事業	30
① やさしい合宿地づくり	30
② おいしい合宿地づくり	30
③ がんばる合宿地づくり	31
(3) 7つの「K」の分野への波及効果	32
① 教育	32
② 子育て	32
③ 健康	32
④ 雇用	33
⑤ 交流	33
⑥ 観光	33
⑦ 環境	34
(4) 重点プロジェクトによる数値目標	34
(5) その他	35

4. 主な施策と重要業績評価指標(K P I)	
(1) 農業未来都市創造事業	35
(2) 合宿の聖地創造事業	37
5. P D C Aサイクル	39
6. 全体イメージ	39

第3章 資 料

1. 市民アンケートの結果	
(1) 全体（一般・子育て世代）の部	42
(2) 高校生の部	55
2. 各種データ	
(1) 人口推計の概要	63
(2) 交流人口の内訳	64
(3) 各施策に関連する重要業績評価指標(KPI)の年度別計画	65
(4) 各施策に関連する実績表	67
(5) 士別市の気象概況	69
(6) 人口・世帯	70
(7) 年齢構成の変化	70
(8) 耕地面積・農家世帯・農家人口の推移	71
(9) 年度別農業産出額・農家戸数	71
(10) 乳用牛飼養戸数及び1戸あたりの平均飼養頭数の推移	72
(11) 生乳生産量及び乳用牛の飼養頭数の推移	72
(12) めん羊の飼養頭数及び戸数の推移	73
(13) 卸売・小売業販売額	73
(14) 製造品出荷額等	74
(15) 産業別就業人口	74
(16) 合宿受入状況	75
(17) 海外チームの合宿受入状況	75
(18) 士別市で合宿を行ったチームの主な成績(2014年度)	76
(19) 士別市で合宿を行った「2015世界陸上」マラソン代表選手	76
(20) 過去に士別市で合宿した主な夏季オリンピック選手	77
(21) 過去に士別市で合宿した主な冬季オリンピック選手	78

第1章 人口ビジョン

1. 人口動向分析

過去から現在に至る人口の推移を把握し、その背景を分析することにより、講ずべき施策の検討材料を得ることを目的として、時系列による人口動向や年齢階級別の人口移動分析を行います。

(1) 人口動向分析

人口の推移を把握し、自然増減と社会増減の要因とに分解して、それぞれがどのように影響してきたか等を分析します。

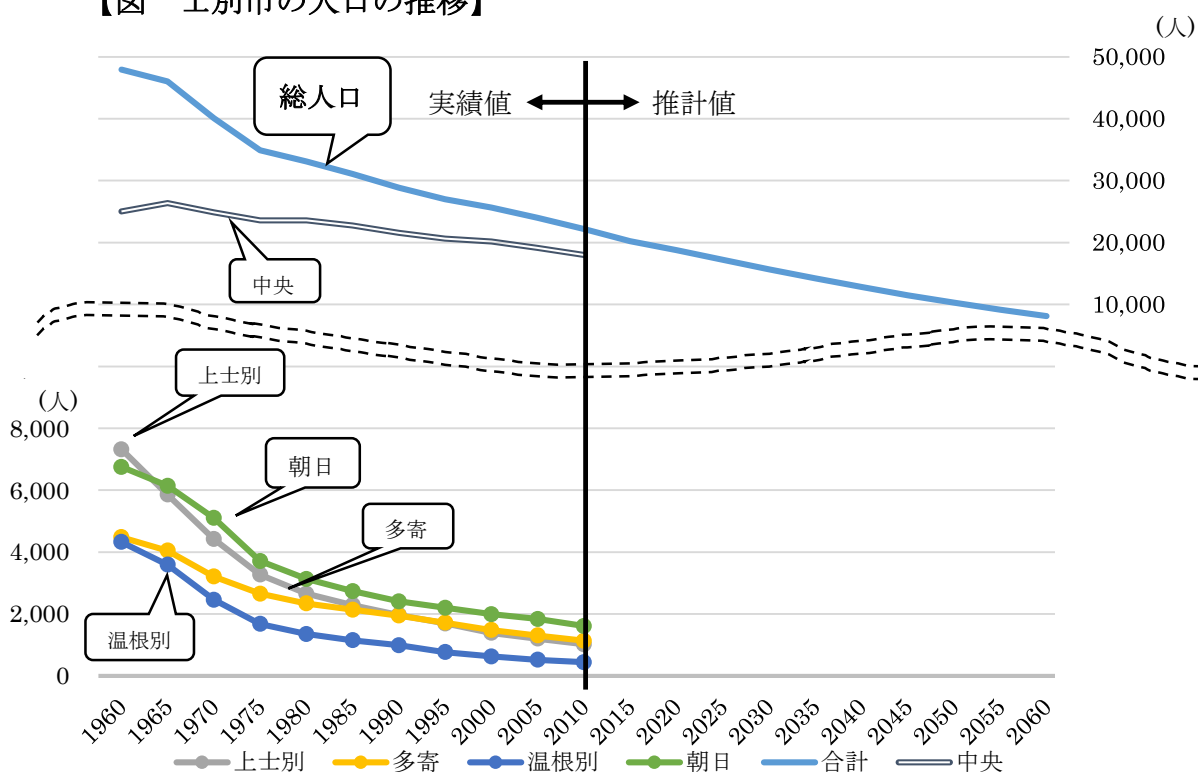
① 総人口の推移と将来推計

士別市の人口は1960年から減少傾向にあり、1960年と比べ2010年は25,739人減少し、21,787人となっています。

特に、人口の推移を地区別にみると、中央地区の人口減少は緩やかに推移していますが、上士別地区、多寄地区、温根別地区、朝日地区の人口減少は急激に進んできています。

国立社会保障人口問題研究所（社人研）の推計によれば、今後、人口は急速に減少を続け、2060年には、8,110人になるものと推計されています。

【図 士別市の人口の推移】



（資料）士別市統計書（データは各年9月）より作成

※平成17年（合併）以前の総人口には、士別市・朝日町の合算

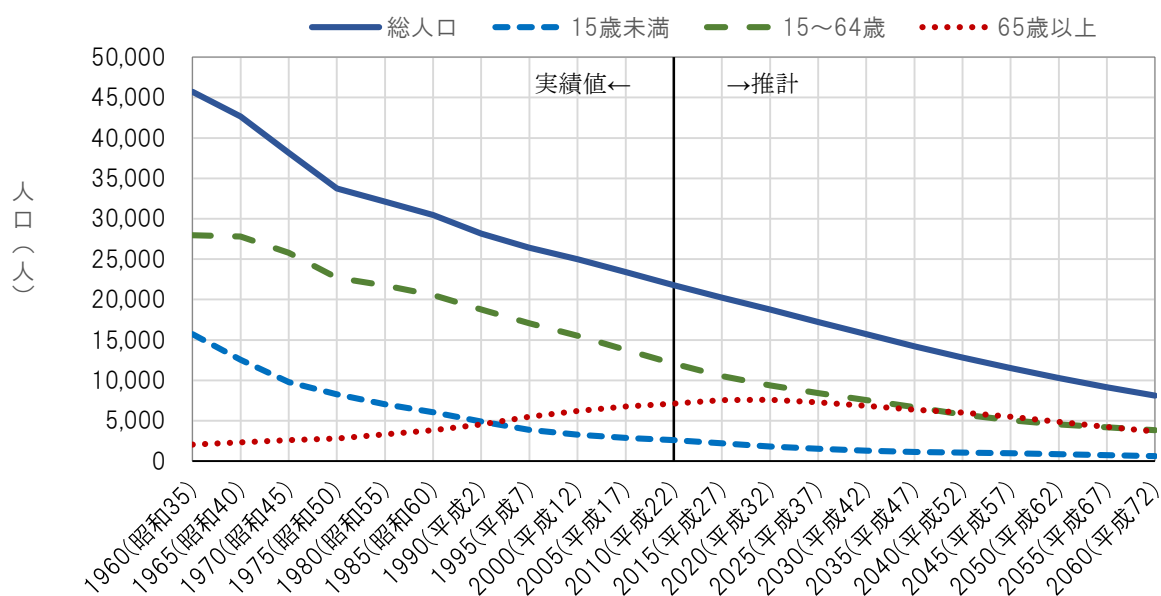
②年齢3区分別人口の推移と将来推計

生産年齢人口（15～64歳）は、1960年以降、減少を続けており、2010年の50年間で約15千人（△56.8%）減少しています。

年少人口（0～14歳）は、現在まで減少が続いており、1995年には老年人口を下回っています。

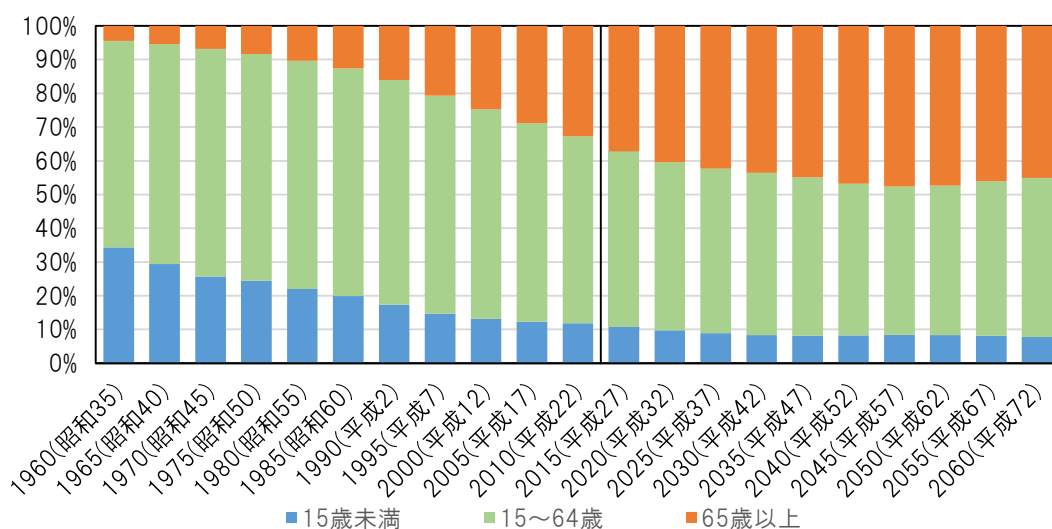
老年人口（65歳以上）は、平均余命が延びたことから、一貫して増加を続けています。

【図 総人口・年齢3区分別人口の推移】



〈資料〉 国立社会保障・人口問題研究所より作成

【図 年齢3区分別人口比率】



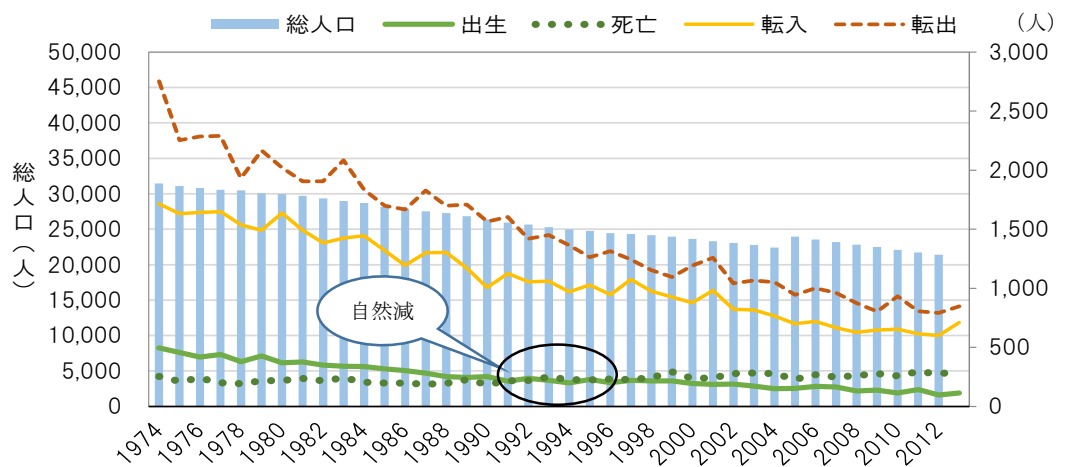
〈資料〉 国立社会保障・人口問題研究所より作成

③ 出生・死亡、転入・転出の推移

自然増減（出生数－死亡数）については、出生率の低下・母親世代人口の減少などの影響で出生数が減り続ける一方、平均余命が延びてはいるものの、1993年には死亡数が出生数を上回り「自然減」となっています。

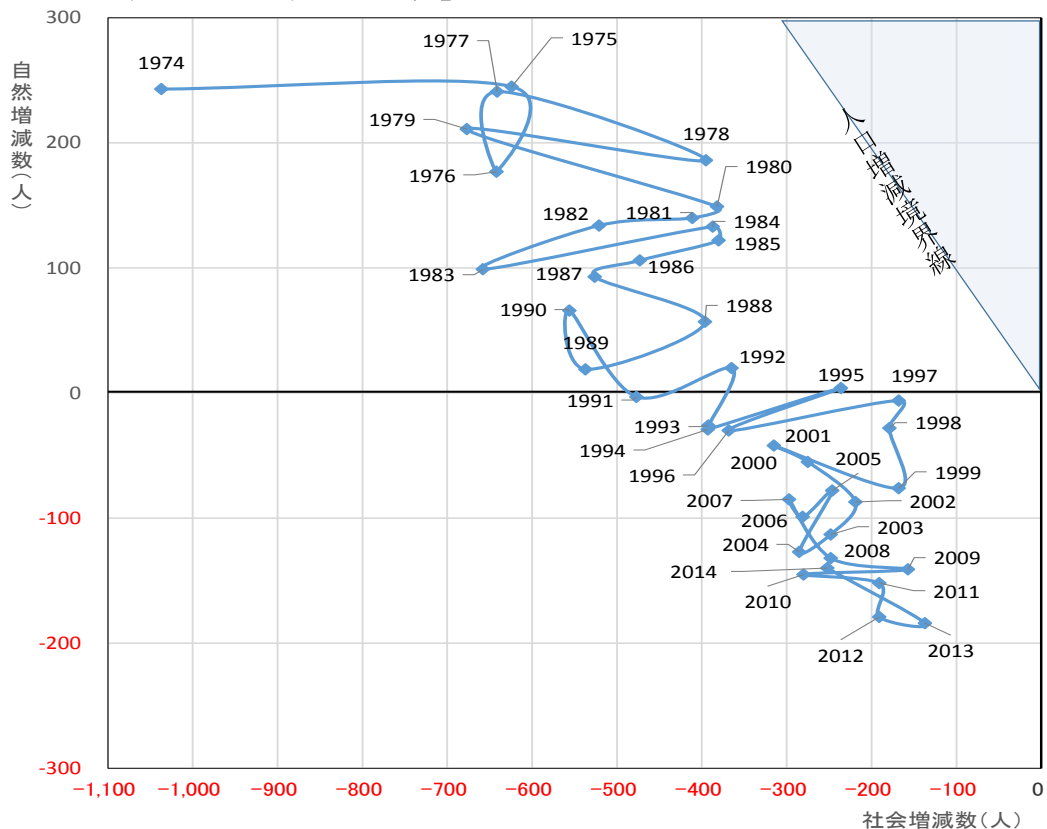
社会増減（転入数－転出数）については、本市には、高校卒業後の進学先がないことや就職先が少ないことから転出超過の状態となっています。中でも、高度経済成長期、バブル期、リーマンショックの時期に転出超過が起こっています。全体的に、人口減少が急激かつ継続的に続いています。

【図 出生・死亡数、転入・転出数の推移



〈資料〉 士別市統計書より作成

【図 自然増減と社会増減の影響】



(2) 人口移動分析

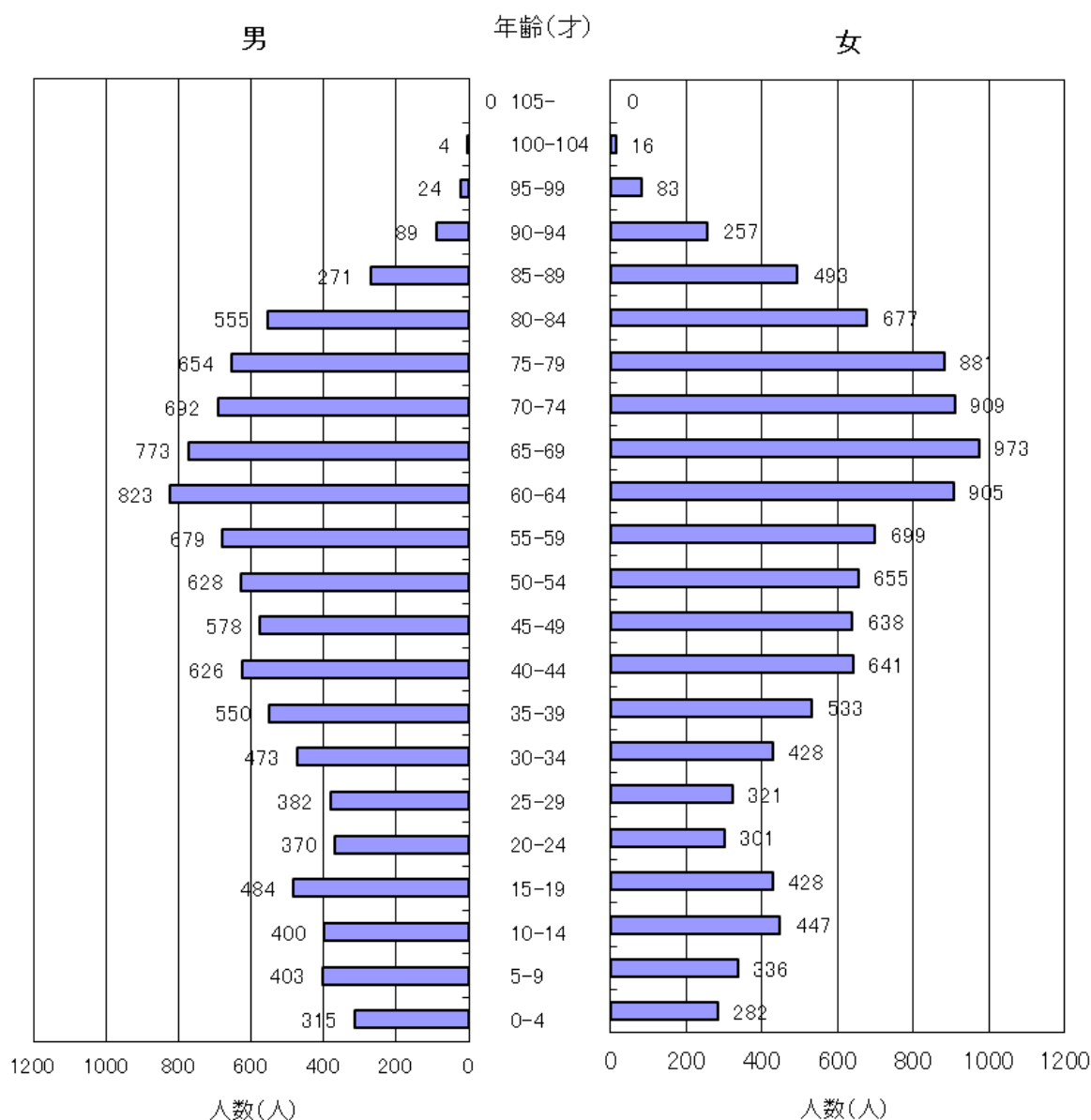
性別・5歳階級別人口の差から純移動数を推計し、人口移動の背景を分析します。

① 年齢階級別の人口移動の状況

年齢別人口については、少子高齢化が顕著に表れており、「団塊の世代」と言われる60～69歳が多くなっています。

特徴としては、20～24歳がやや少なくなっており、進学・就職に伴い、札幌市や東京圏等への転出超過が起きていることが要因と考えられます。

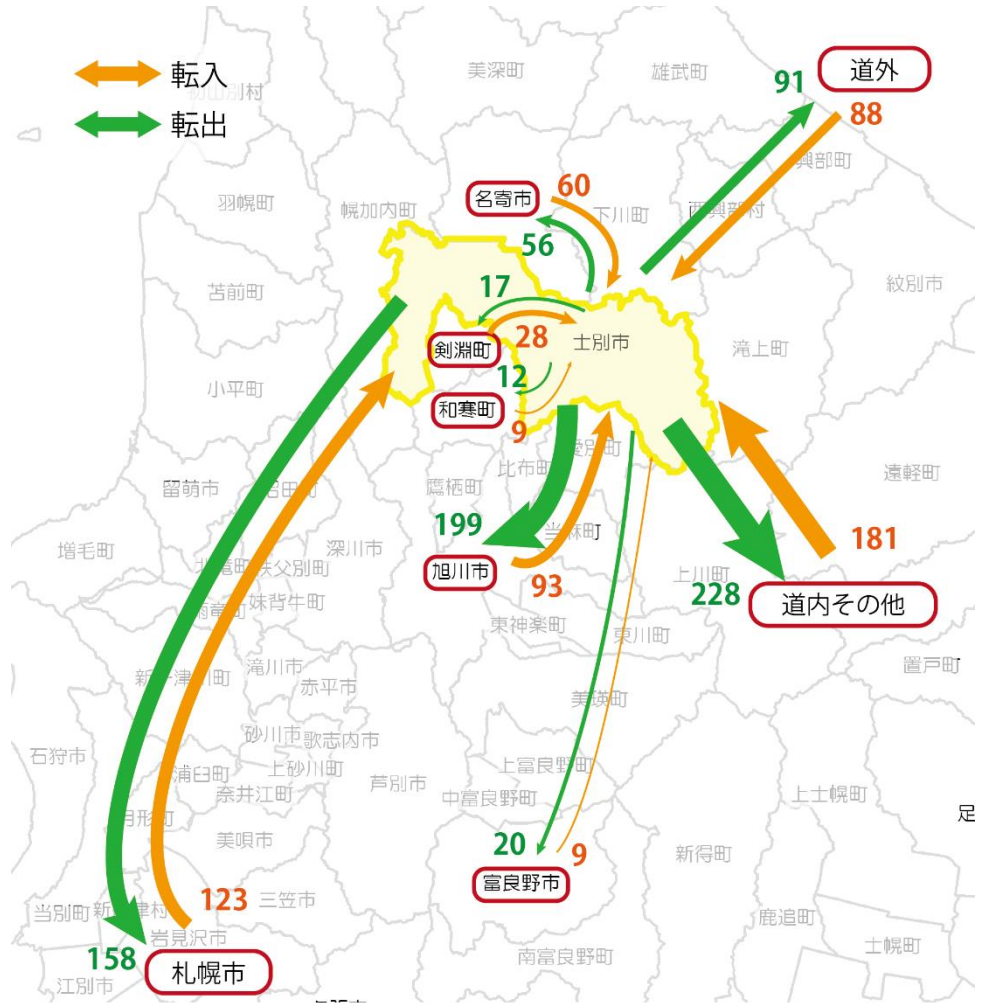
【図 年齢別人口（5歳階級別）】



(資料) 士別市統計書 (平成 26 年 12 月末現在) より作成

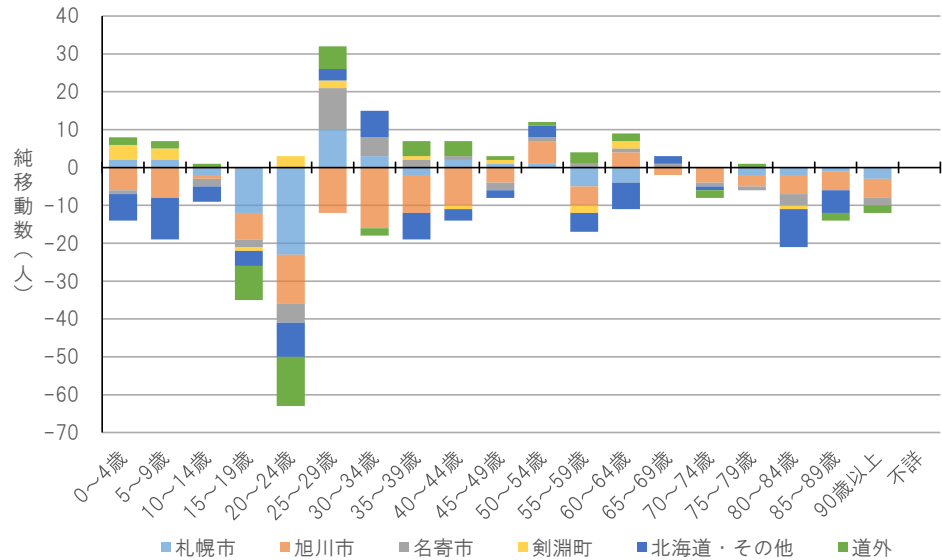
②地域別人口移動の状況

【図 2012(平成24)年の年齢階級別純移動数】



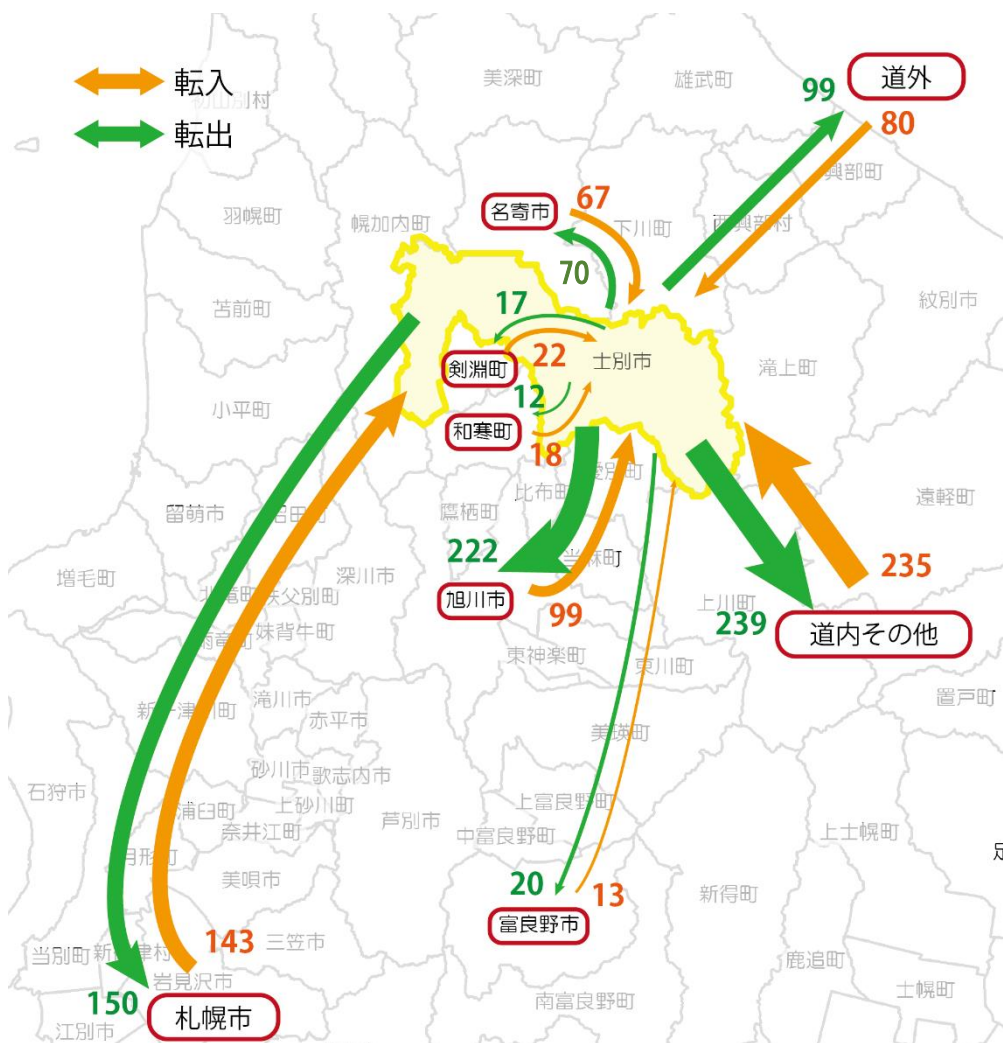
(資料)住民基本台帳より作成

【図 2012(平成24)年の社会動態図】



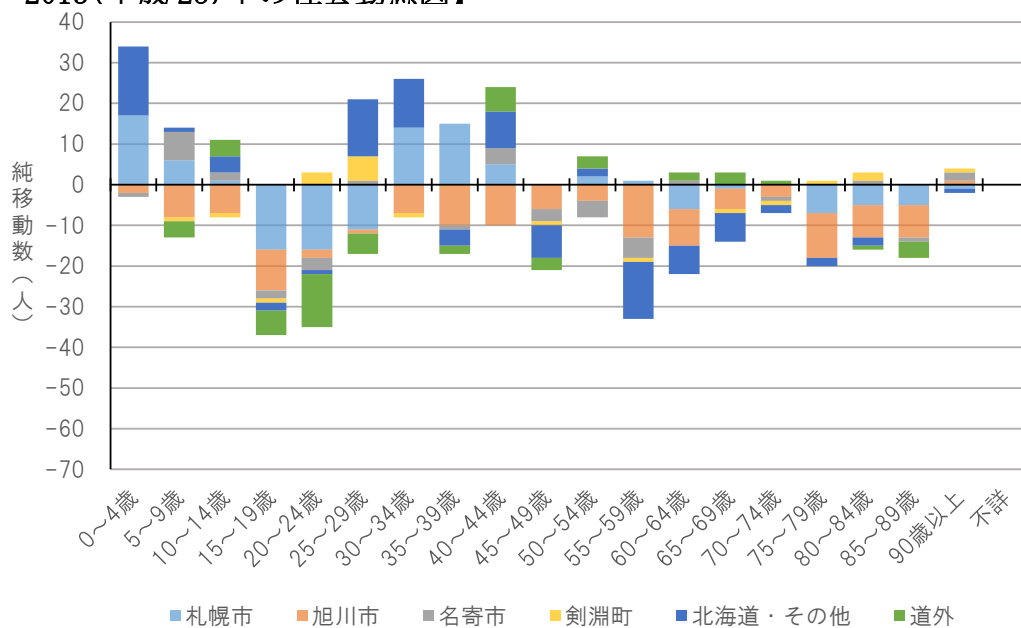
(資料)住民基本台帳より作成

【図 2013(平成25)年の年齢階級別純移動数】



〈資料〉住民基本台帳より作成

【図 2013(平成25)年の社会動態図】

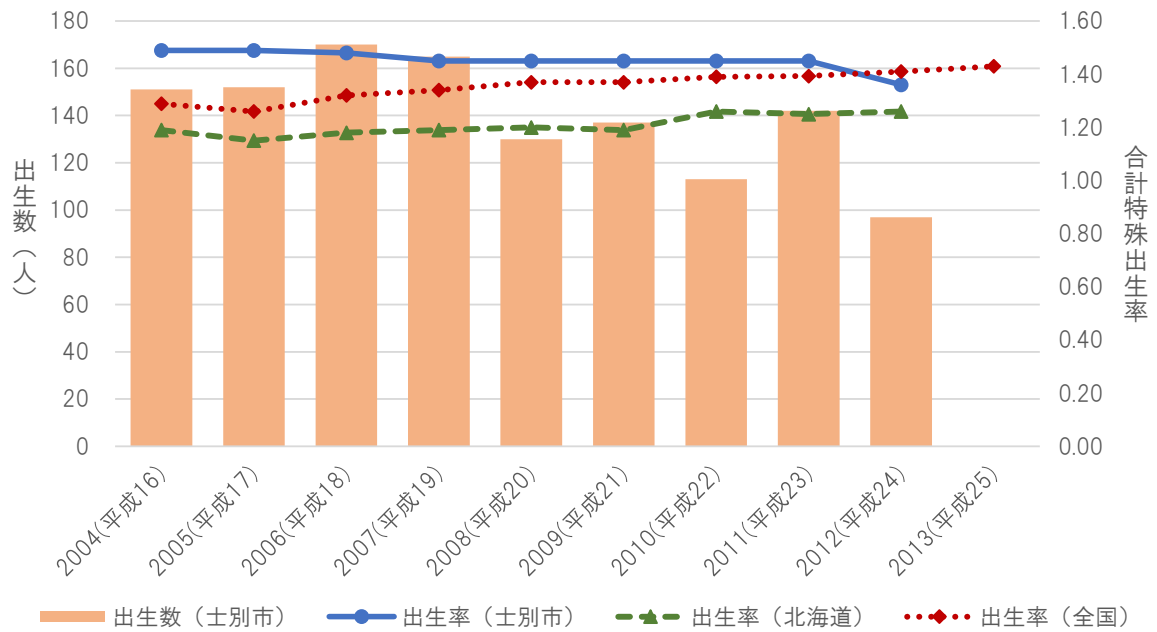


〈資料〉住民基本台帳より作成

(3) 合計特殊出生率の推移

人口を維持していくための出生数の目安としての合計特殊出生率は 2.07 となっており、全国の目標としては合計特殊出生率が 1.80 という数値が挙げられています。士別市は、2011 年までは、合計特殊出生率が 1.40 以上の実績で推移し、全国平均も上回る値でしたが、2012 年に 1.36 に減少し、全国平均を下回る状態となっています。

【図 士別市の出生数と合計特殊出生率の推移】

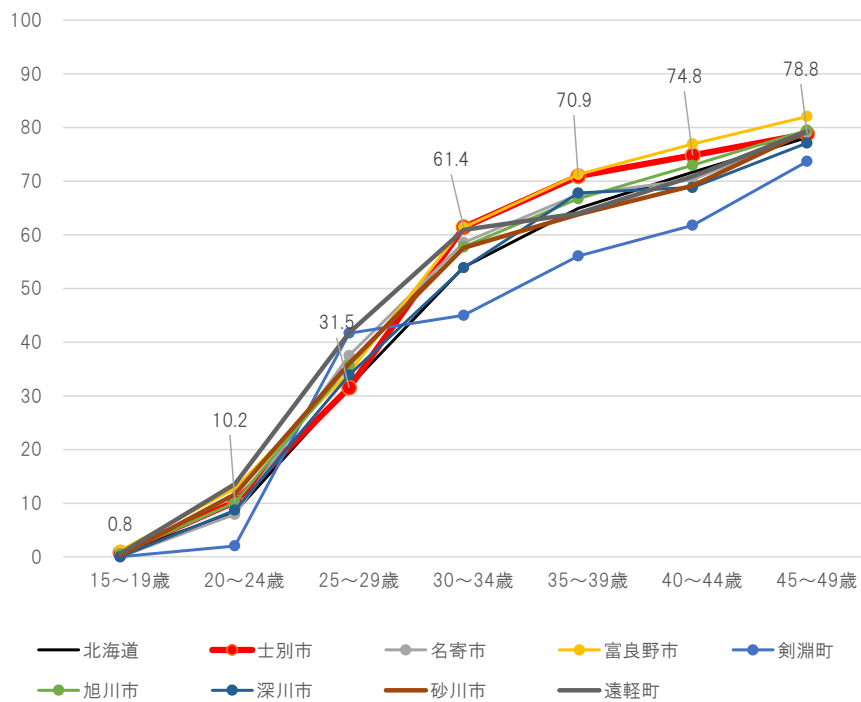


〈資料〉道北地域保健情報年報、政府統計人口動態調査より作成

(4) 婚姻率の推移

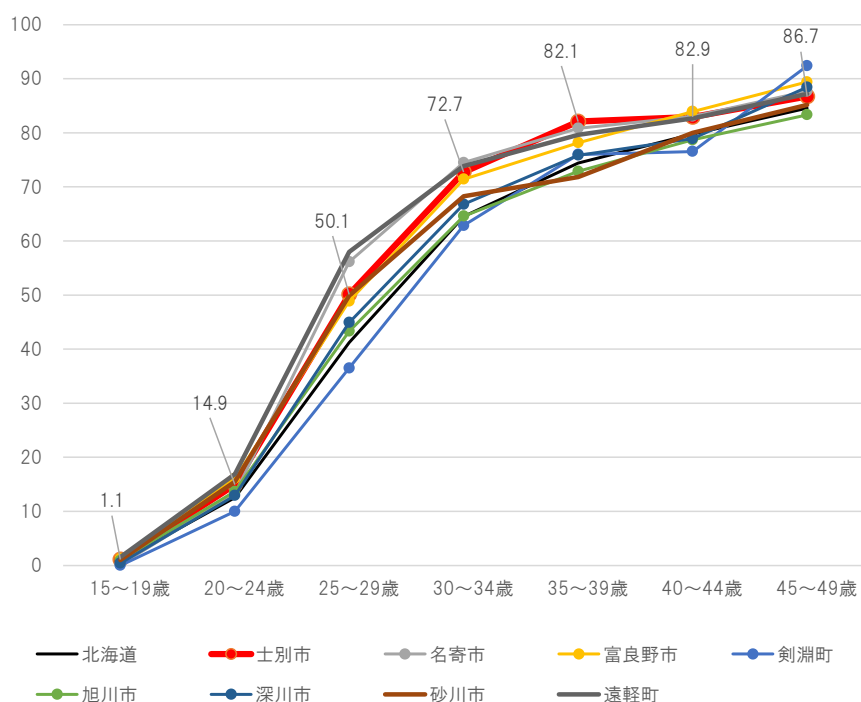
婚姻率については、北海道の平均と比較して、男女共にやや高い割合になっており、特に、男性では30～34歳、女性では、25歳以上の年齢層が高くなっています。

【図 年齢階級別婚姻率（＝100％－未婚率）（男性）】



〈資料〉平成22年国勢調査より作成

【図 年齢階級別婚姻率（＝100％－未婚率）（女性）】



〈資料〉平成22年国勢調査より作成

(5) 雇用や就労等に関する分析

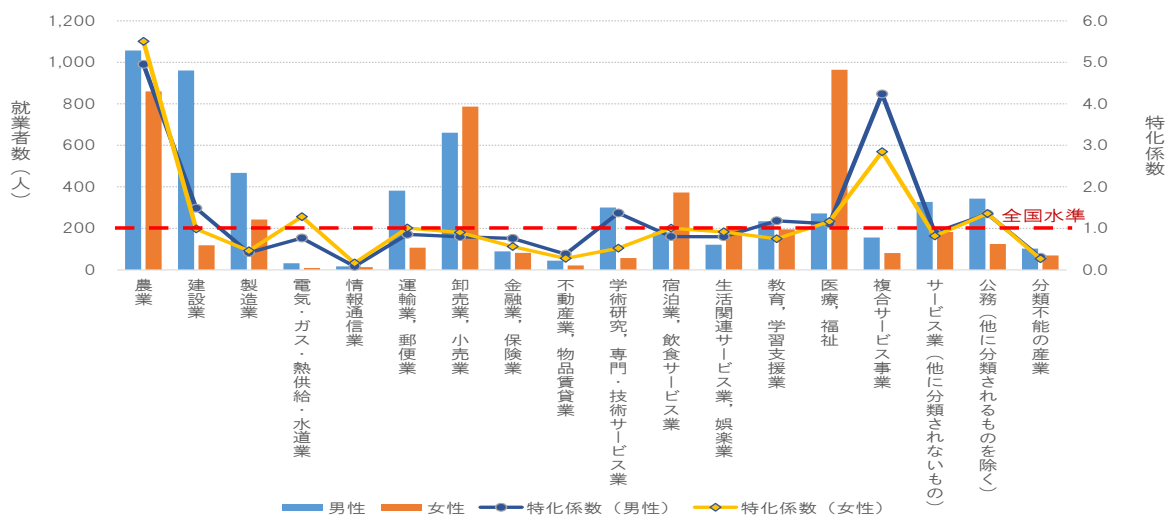
① 産業別就業者数及び特化係数

本市の産業構造の特徴として、基幹産業である農業の就業者数が男女とも多く、産業別就業者数に関する特化係数も、農業 4.0 以上と男女とも極めて高くなっています。

就業者数順に見ると、男性は農業、製造業、卸売業・小売業となっており、女性は医療・福祉、農業、卸売業・小売業となっています。

一方、情報通信業、不動産・物品賃貸業、製造業などは、特化係数が低い状況です。

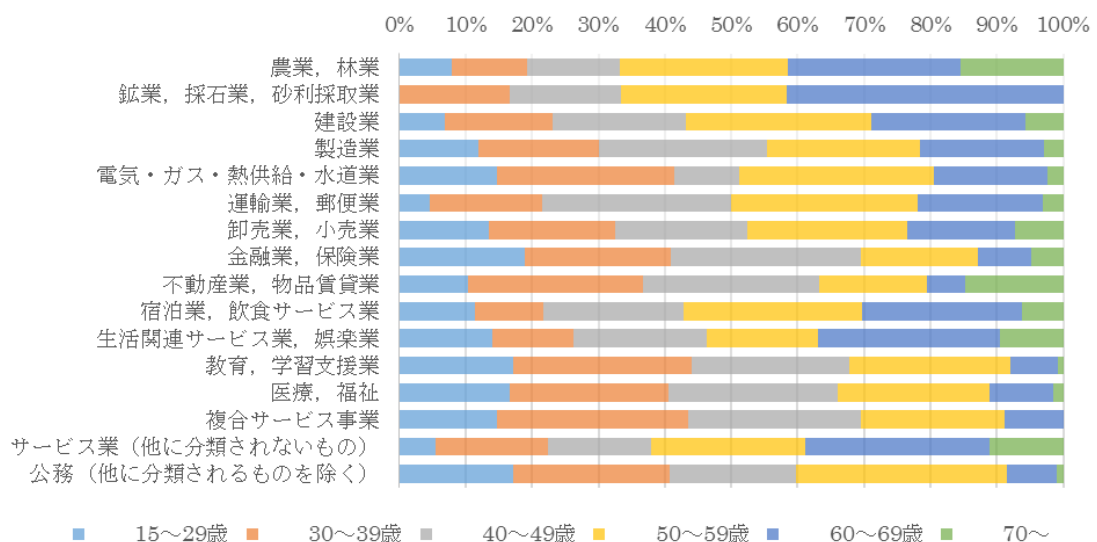
【図 男女別・産業別就業者数と特化係数（全国比）】



〈資料〉平成 22 年国勢調査より作成
 (特化係数=土別市の X 産業の就業者比率/全国の X 産業の就業者比率)

特化係数の高い農業については、約 41%が 60 歳以上で、50 歳代を加えると 66%以上となり、高齢化が顕著となっています。今後高齢化の進行により、急速に農業者数が減少すると推測されます。

【図 年齢階級別産業人口の状況】

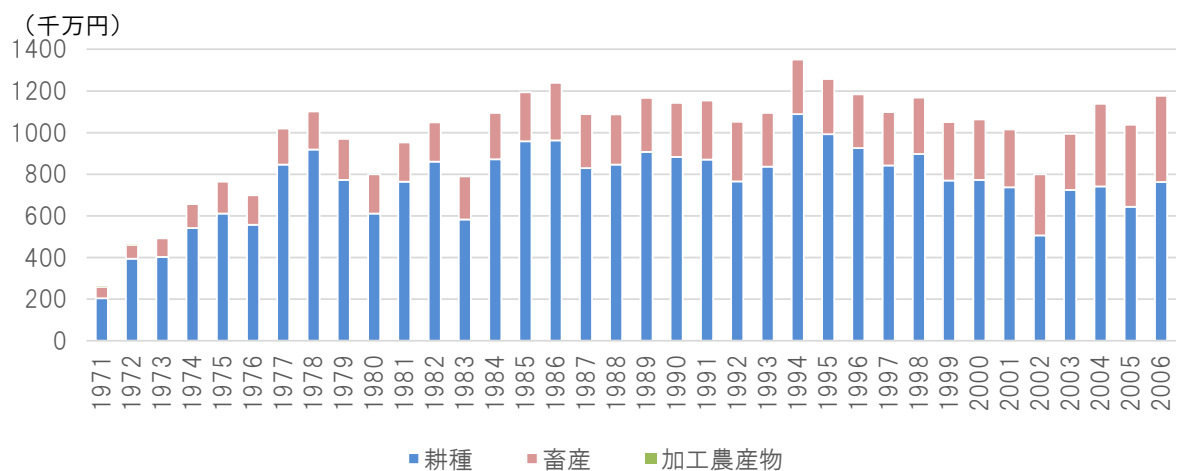


② 農業産出額

士別市の主要産業である農業について、農業産出額の推移をみると、耕種については、1994年をピークに減少傾向にあります。一方、畜産については、漸増傾向にあり、酪農経営の効率化、近代化の取り組みなどの影響が考えられます。

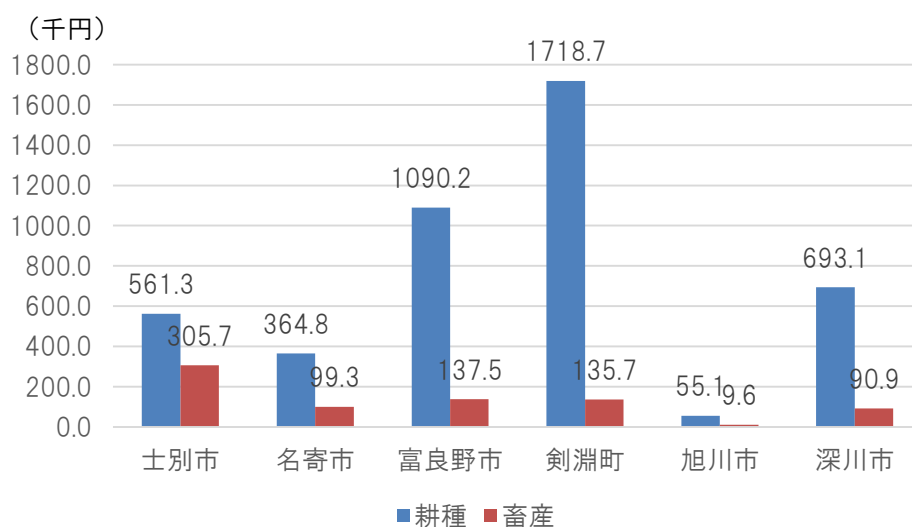
近隣市町との比較（労働人口1人当たり）においても、畜産は突出しており、士別市を特徴づける産業のひとつであると考えられます。

【図 農業産出額】



〈資料〉総務省統計局（市町村別統計は平成18年まで）より作成

【図 農業産出額（千円）（労働力人口1人当たり）に関する近隣都市比較】

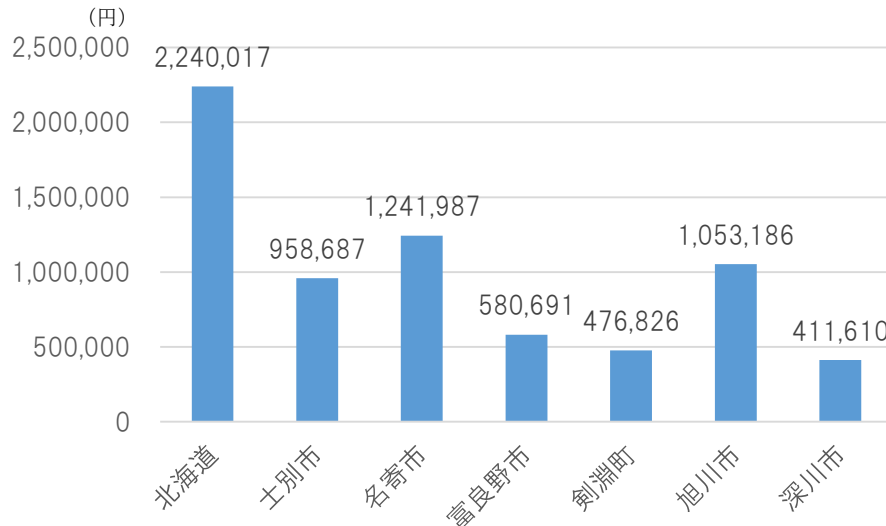


〈資料〉総務省統計局（市町村別統計は平成18年まで）より作成

③ 製造業及び卸売業・小売業

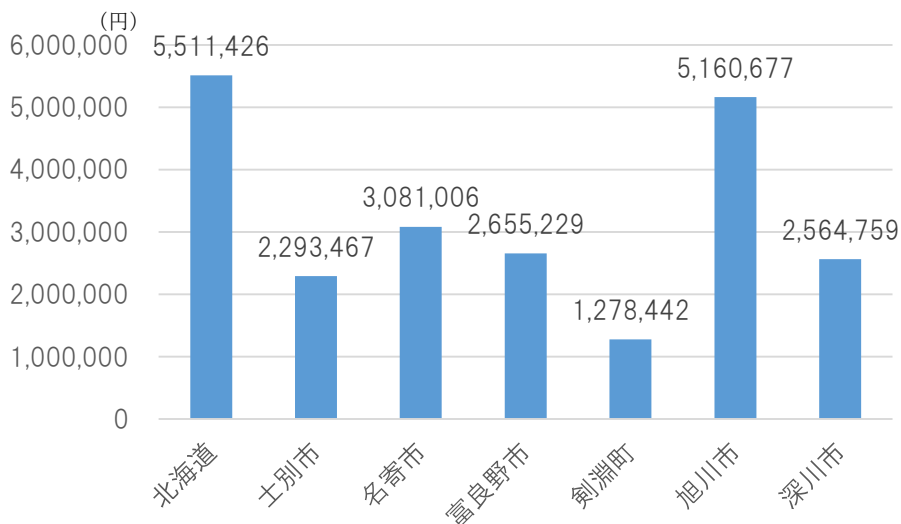
製造業においては、旭川市と同等の製造品出荷額（労働人口1人当り）である一方、卸売業・小売業においては、年間商品販売額（労働人口1人当り）が近隣市町に比べ低く、市内における消費量の規模が小さい状況にあることが伺えます。

【図 製造品出荷額（円）（労働力人口1人当り）に関する近隣都市比較】



〈資料〉平成24年経済センサスより作成

図 年間商品販売額（円）（労働力人口1人当り）に関する近隣都市比較



〈資料〉平成24年経済センサスより作成

2. 将来人口推計

社人研の「日本の地域別将来推計人口(平成 25 年 3 月推計)」、日本創生会議の地域別将来人口推計を活用し、将来の人口に及ぼす出生や移動の影響等について分析を行います。

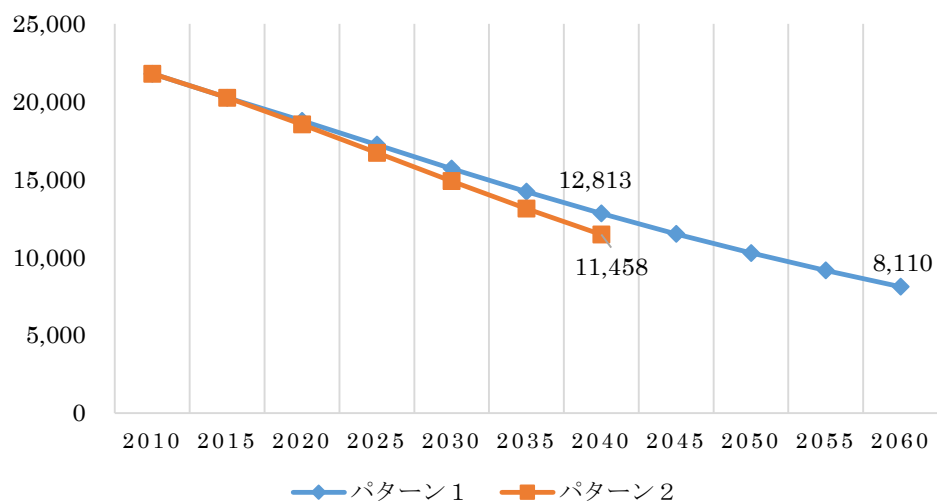
(1) 将来人口推計

将来人口を見通すための基礎作業として、一定の推計方式によって将来人口を推計します。

① 社人研推計準拠（パターン 1）及び日本創生会議推計準拠（パターン 2）との総人口の比較

2040 年の総人口は、パターン 1 は 12,813 人、パターン 2 は 11,458 人となっております。

【図 総人口の比較（パターン 1・パターン 2）】



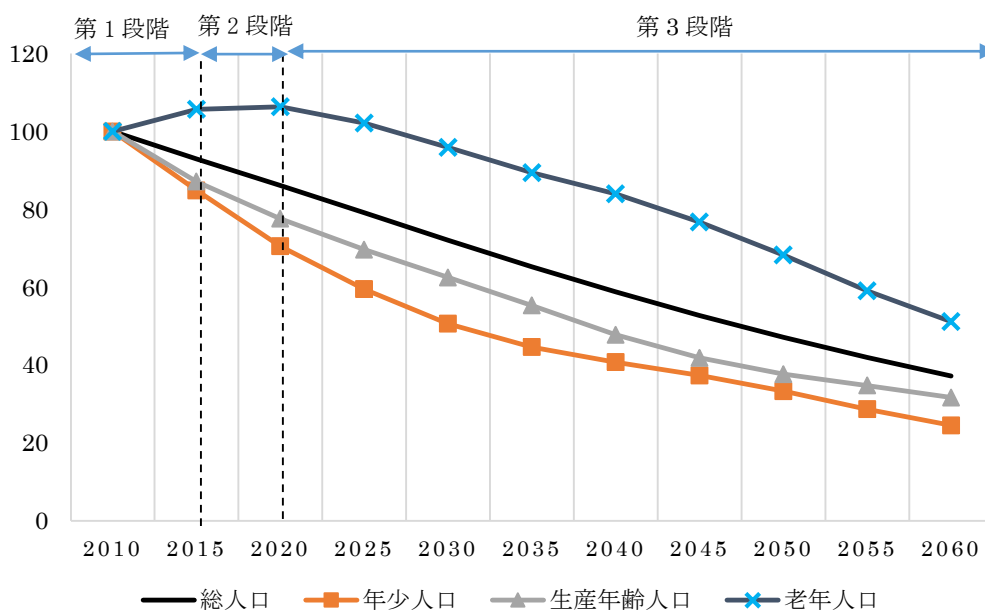
パターン 1：国立社会保障人口問題研究所（社人研）推計準拠で、2040（平成 52 年）年までの自然増減、社会増減の傾向が継続すると仮定し、2060 年（平成 72 年）まで推計した。

パターン 2：日本創成会議推計準拠で、全国の移動総数が概ね一定水準であると仮定し、2040 年（平成 52 年）まで推計した。

②人口減少段階の分析

パターン1（社人研推計準拠）によると、2010年の人口を100とした場合、2015年までは、老年人口が増加・維持で推移する「第1段階」であり、2015～2020年までは、老年人口が維持・微減で推移する「第2段階」、2020年以降は、老年人口も減少する「第3段階」に移ると推計されています。

【図 人口減少段階の分析】



パターン1の推計に基づき本市の人口減少段階を推移すると、2015年までは「第1段階」に該当し、2020年までは「第2段階」、それ以降は「第3段階」に入ると推測されます。

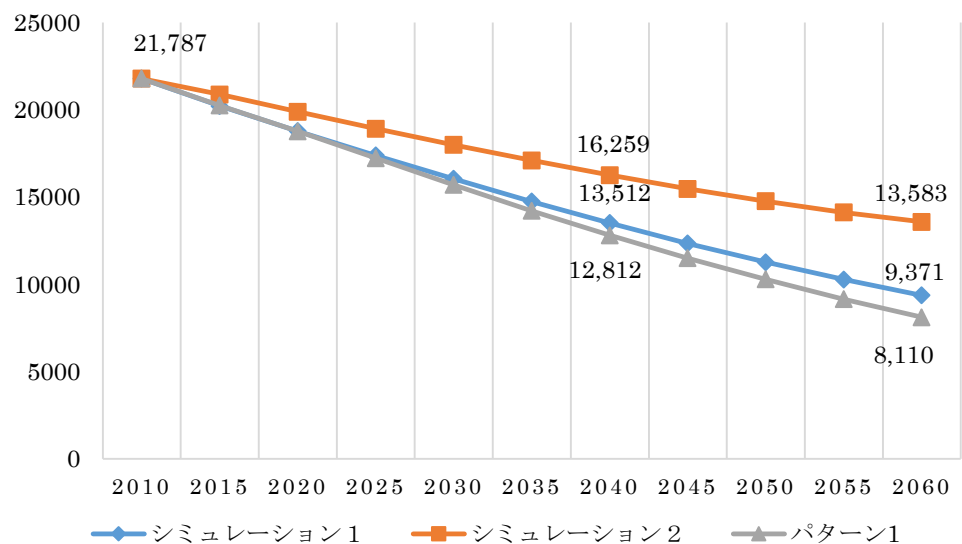
	2010年	2040年	2010年を100とした場合の2040年の指数	人口減少段階
総数	21,787人	12,813人	58	3
老年人口	7,134人	5,991人	83	
生産年齢人口	12,069人	5,768人	47	
年少人口	2,584人	1,054人	40	

(2) 将来人口に及ぼす自然増減・社会増減の影響度

総人口の推計として、本市の合計特殊出生率は、2012年において1.36ですが、パターン1（社人研推計準拠）において、合計特殊出生率が2040年までに人口増減しない水準である人口置換水準2.1まで上昇（+0.74）し、維持推移すると仮定した場合（シミュレーション1）、2040年においては13,512人、2060年においては9,371人の推計となっています。

また、合計特殊出生率が2040年までに人口増減しない水準である人口置換水準2.1まで上昇（+0.74）し、人口移動（純移動率）がゼロで維持推移すると仮定した場合（シミュレーション2）、2040年においては16,259人、2060年においては13,583人の推計となっています。

【図 自然増減、社会増減の影響度の分析①】



シミュレーション1：パターン1（社人研推計準拠）において、合計特殊出生率が平成42（2030）年までに人口増減しない水準である人口置換水準（2.1）まで上昇し、維持推移すると仮定。

シミュレーション2：シミュレーション1、かつ移動（純移動率）がゼロで維持推移すると仮定。

本市においては、自然増減の影響度が「3」、社会増減の影響度が「4」となっており、出生率の上昇につながる施策及び人口の社会増をもたらす施策に適切に取り組むことが効果的であると考えられます。

分類	計算方法	影響度
自然増減の影響度	シミュレーション1の2040年推計人口=13,512人 パターン1の2040年推計人口=12,813人 ➡ 13,512人/12,813人=105.5%	3
社会増減の影響度	シミュレーション2の2040年推計人口=16,259人 シミュレーション1の2040年推計人口=13,512人 ➡ 16,259人/13,512人=120.3%	4

※自然増減の影響度・・・上記計算により得た数値に応じて5段階整理

【1：100%未満 2：100～105% 3：105～110% 4：110～115% 5：115%以上】

社会増減の影響度・・・上記計算により得た数値に応じて5段階整理

【1：100%未満 2：100～110% 3：110～120% 4：120～130% 5：130%以上】

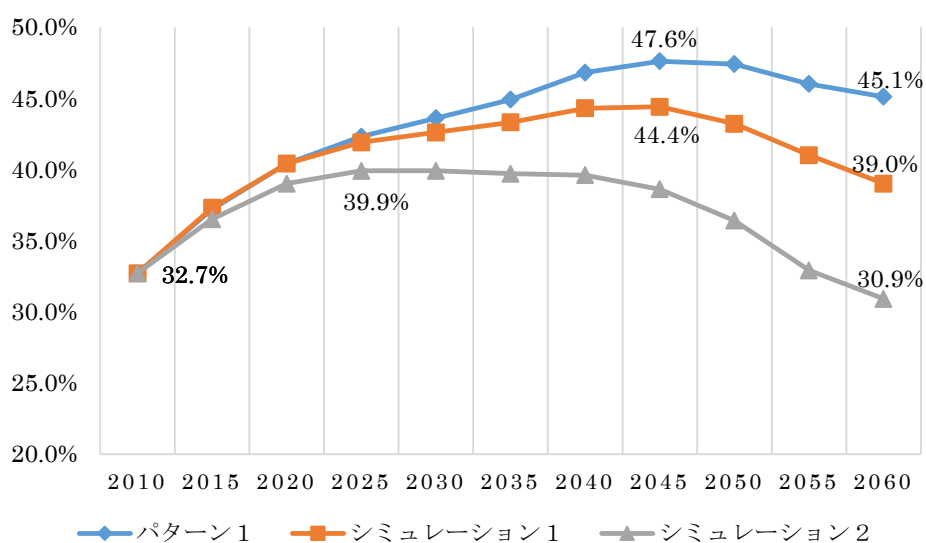
(3) 老年人口比率の変化

パターン1については、2045年まで老年人口比率は上昇を続け、その後、減少しますが、2060年まで急激な変化はありません。

一方、シミュレーション1については、合計特殊出生率が人口置換水準まで上昇するとの仮定から、2045年まで穏やかに上昇し、その後、減少します。

また、シミュレーション2については、人口構造の高齢化抑制の効果が2025年頃現れ始め、その後、低下しています

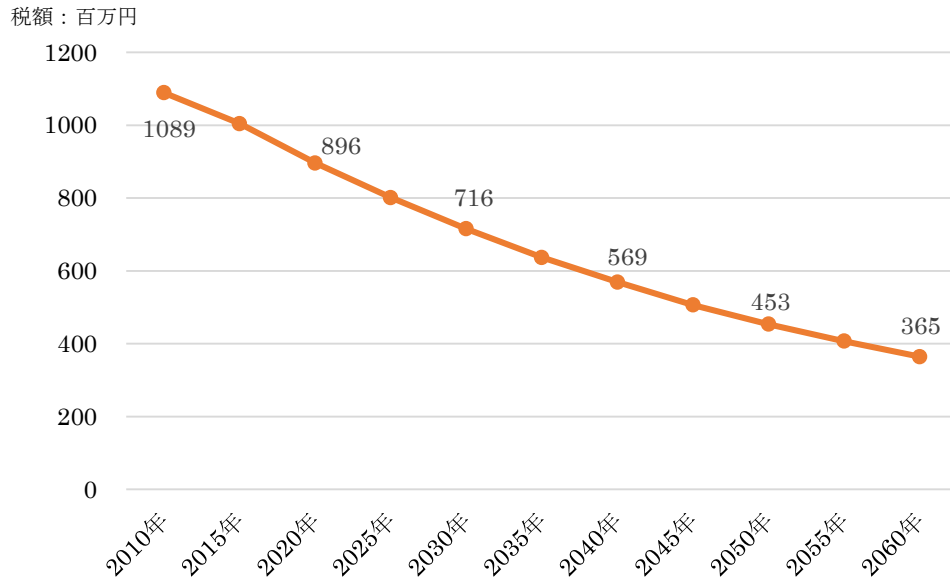
【図 老年人口比率の長期推計①】



(4) 人口の変化が地域の将来に与える影響

人口減少社会にもたらす人口構造の変化は、市の財源に大きな影響を及ぼします。生産年齢人口が減ってしまうことで、市税が減少します。

【図 個人市民税の推計】



3. 人口の将来展望

人口の現状分析で把握した課題等を踏まえ、目指すべき将来の方向を示し、自然増減や社会増減に関する仮定を置いて、総人口や性別・年齢3区分別人口等を展望します。

(1) 目指すべき将来の方向

人口の現状と課題を整理し、人口に関して目指すべき将来の方向性を提示する。

① 交流人口増加による地域経済の活性化

本市は、これまでスポーツ合宿、農業体験、試験研究、地域間交流など交流人口の拡大に取り組んでおり、さらに本市の魅力をより高め、積極的に対外的にアピールし、国内外からの合宿などを積極的に受け入れることで、更なる交流人口の増加を図り、地域の活性化を図ります。

② 7つの「K」による誇りあるまちづくり

「農業未来都市」「合宿の聖地」を創造することで、基幹産業である農業を発展させるため研修施設や人材確保を進め、あわせて優れた農産物

を活用し6次産業化を振興すること、子供たちがトップアスリートとの交流を通じて、健康で心豊かに育むこと、合宿者を受け入れることで宿泊業や飲食業などの経済効果が大きいことなど、7つの「K」による効果をもたらし、誇りあるまちづくりを目指します。

③日本の食糧基地としての農業振興

基幹産業である農業の担い手等の育成・確保や生産性の優れた営農を可能とする環境整備、競争力のある産地づくり、6次産業化による販売力の強化、IT農業などに取り組み、若者にとっても魅力ある農業の実現を目指します。

④子育て環境の充実による出生率向上

「子育て日本一のまち」をキャッチフレーズに各種の支援を実施していますが、それに加え、結婚、妊娠、出産、子育て、仕事と育児などの各段階に応じた切れ目のない対策を進め、安心して結婚・出産・子育てできる環境づくりに向けて取り組みます。

⑤健康づくりで健康寿命の伸展

「健康長寿推進計画」を策定し、「健康長寿日本一のまち」を目標に取り組んでいますが、自らの健康意欲を高めるとともに、健康増進のための事業、生活習慣病の予防など健康寿命の更なる延伸を図ります。

⑥スポーツのまち、農業のまちにふさわしい環境の創造

基幹産業である農業を支える担い手の確保・育成を図るため、新規就農者の確保や就農に必要な研修施設の整備に努めるとともに、合宿の聖地としてスポーツ施設の改善や機器の更新など、環境整備に取り組む必要があります。

(2) 人口の将来展望

目指すべき将来の方向を踏まえ、国の長期ビジョン及び本市の人口動向や分析などを考慮し、本市が将来目指すべき将来人口を展望します。

①人口推計の考え方

・合計特殊出生率

現在の出生率 1.36 (2012年) が、国の長期ビジョンと同様、2020年に1.50に、2030年には1.80に、2040年には2.1まで上昇させることを目指します。

・純移動率

社人研の推計人口を基礎として、地元若年層が地域で就業する施策や15歳から24歳までの層及び55歳以上の層の転入促進、転出抑制を図る施策などの効果を踏まえ、仮定値を設定し、将来人口を推計します。

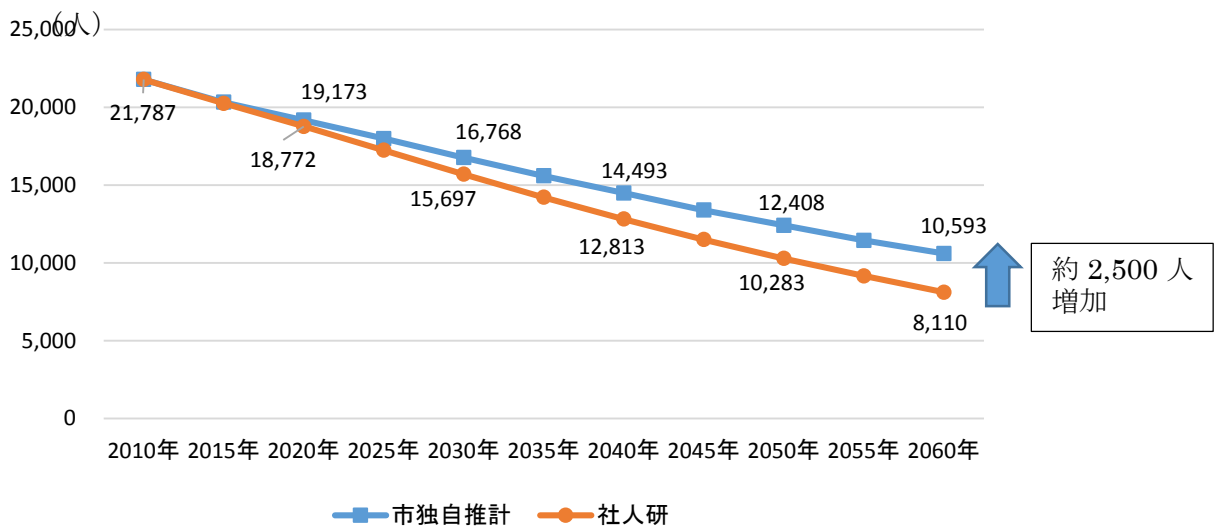
・生残率

生活習慣病の予防など健康余命の延伸を図る施策により、60歳以上の仮定値を設定し、将来人口を推計します。

②将来人口の推計

将来人口について、①の仮定で推計した場合、2030年は16,768人、2040年は14,493人、2060年は10,593人となり、社人研推計(8,110人)と比較し、約2,500人上回る推計となります。

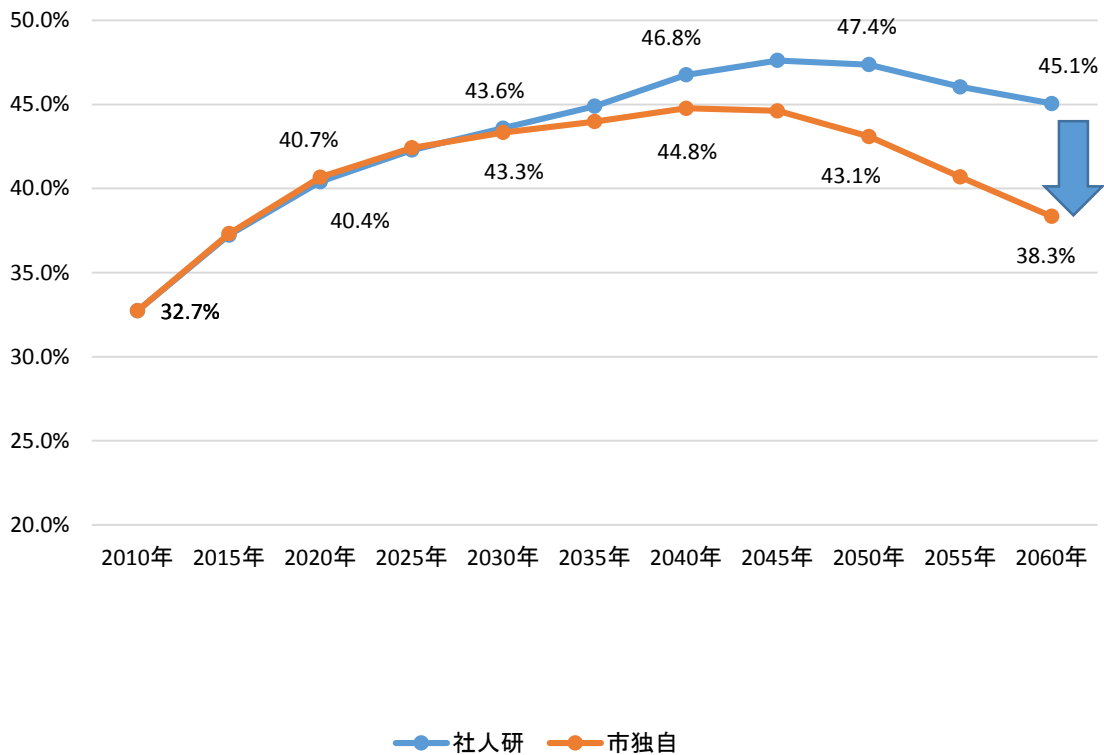
目標人口	2019年：19,500人
	2040年：15,000人
	2060年：11,000人



	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口	21,787	20,325	19,173	17,984	16,768	15,594	14,493	13,391	12,408	11,440	10,593
0～14歳	2,584	2,170	1,853	1,720	1,647	1,656	1,633	1,629	1,531	1,402	1,298
	(11.9%)	(10.7%)	(9.7%)	(9.6%)	(9.8%)	(10.6%)	(11.3%)	(12.2%)	(12.3%)	(12.3%)	(12.3%)
15～64歳	12,069	10,570	9,520	8,636	7,855	7,080	6,371	5,787	5,530	5,384	5,233
	(55.4%)	(52.0%)	(49.7%)	(48.0%)	(46.8%)	(45.4%)	(44.0%)	(43.2%)	(44.6%)	(47.1%)	(49.4%)
65歳以上	7,134	7,585	7,800	7,628	7,266	6,858	6,489	5,975	5,347	4,654	4,062
	(32.7%)	(37.3%)	(40.7%)	(42.4%)	(43.3%)	(44.0%)	(44.8%)	(44.6%)	(43.1%)	(40.7%)	(38.3%)

③ 高齢化率の推移と長期的な見通し

社人研の推計によると、本市の高齢化率は、2060年には45.1%まで上昇する見通しですが、市の施策による効果が着実に反映され、合計特殊出生率、純移動率及び生残率が改善されれば、2040年の44.8%をピークに2060年には38.3%まで低下すると見込まれます。



第2章 総合戦略

1. 基本的な考え方

(1) 位置・地勢

本市は、北海道北部の中央に位置し、道立自然公園「天塩岳」をはじめとする山々に囲まれ、北海道第2の大河「天塩川」の源流域にある水と緑ゆたかな田園都市です。

交通は、J R宗谷本線や北海道縦貫自動車道をはじめ、周辺都市とのネットワークが良好な条件にあり、道北拠点空港である旭川空港まで車で約1時間、北海道の中心都市である札幌市までは、車で約2時間半、J Rでは約2時間でアクセスできます。



(2) 沿革

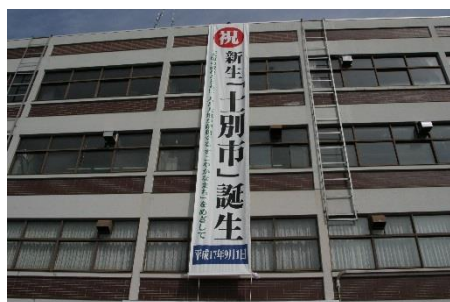
本市開拓の歴史は、天塩川流域の豊富な水と肥沃な大地や緑の山々など、豊かな自然に恵まれる中で、北海道最後の屯田兵をはじめとする先人たちの開拓精神とたゆまぬ努力のもと、農林業を基幹産業として発展してきました。

明治32(1899)年に開拓の鋤がおろされた旧「士別市」は、昭和29(1954)年に当時の士別町・上士別村・多寄村・温根別村の1町3村が合併し、道内20番目の市として誕生しました。

一方、明治38(1905)年に開拓が始まった旧「朝日町」は、昭和24(1949)年に上士別村から分村独立し、昭和37(1962)年には町制を施行しました。

以降、両市町はそれぞれに行政運営を進めてきましたが、分権型社会への移行や人口の減少と少子高齢化の進行、さらには多様化する住民ニーズ

への対応といった時代背景の変化のもと、人的・財政的基盤の強化が可能な合併効果を最大限に生かしながら、住みよい地域社会の構築を目指して、平成17年9月1日、新生「士別市」を誕生させ、互いの地域の特性を生かしながら新たな歴史を刻んでいます。



(3) 気象

気候は、上川北部の盆地にあるため、四季の変化がはっきりとした内陸性気候で、5月から9月上旬までは比較的高温多照に恵まれ、気温の日較差が大きく、年較差も大きくなっています。

また、積雪寒冷な豪雪地帯でもあり、まちを約半年にわたって白く覆う雪は、平地でも1m、山間部では2mを超えます。なお、平成26年の最高気温は36.3℃、最低気温はマイナス31.2℃で、年間平均気温は6.2℃となっています。また、年間日照時間は、平成26年で1,667.7時間、降水量は1,142.5mmとなっています。

(4) まちづくり

本市では、基幹産業である「農業」の振興をはじめ、地域の特性や資源を生かし、これまで「サフォーク羊」「合宿」「自動車等試験研究」「生涯学習」「水とみどり」などの様々な取り組みが進められてきました。

これらは、まちづくりの柱として、市勢の発展に大きく寄与してきたことはもとより、広く内外に「まちのイメージ」として定着し、わがまちの財産として成長しています。

長年にわたって培われてきたこれらの個性を、今後とも継続して発展させていくことは、本市のイメージに直結する「まちの顔」づくりとともに、地域の活性化に大きな効果をもたらす極めて重要な取り組みです。

市民アンケートにおいても、多くの市民が「住みやすい」と答えており、これからも住み続けたいと考えている結果になっています。

ただ、教育や福祉、子育て分野での満足度は高いものの、仕事、新規就業や後継者対策、農業体験や商業関係の満足度は低く、今後は医療体制や福祉施設の充実を図る一方で、雇用の拡大や農業、商業の振興を図ることが求められる結果になっています。

【農業のまち士別】

基幹産業として、水稻・畑作・野菜・酪農・畜産といった多様な農業がバランス良く営まれています。経済の国際化に伴う農産物価格の低迷、後継者不足による農家戸数の減少、高齢化の進行と労働力不足といった環境の変化に対応するため、「土づくり」「農村づくり」をキーワードに農地集約による大規模圃場化や機械化、ICT農業



ビート収穫

などの経営規模拡大・効率化・安定化、ファームコントラクターの導入、サフォークラムブランドの浸透や6次産業化の推進といった付加価値の創出などに積極的に取り組んでいます。

【合宿の里土別】

夏季の冷涼で爽やかな気候のもと、陸上やノルディックスキー種目をはじめとしたスポーツ、演劇や吹奏楽をはじめとした文化活動などの分野で、オリンピック金メダリストや実業団の選手といった我が国のトップアスリートをはじめ多くの人々が合宿を行っています。トレーニング施設の拡充など、受入態勢の整備を図るとともに、合宿者との交流などを通して市民のスポーツ振興も行いながら、ホスピタリティにあふれた「合宿の里づくり」を推進しています。

【サフォークランド土別】

羊を顔としたまちづくり運動は、四半世紀を超える市民運動として、まちの活性化やイメージづくりに大きく貢献してきており、地場産業としての展開や生産体制の拡充をはじめ、食と観光の連携など、「サフォークランド」としての総合的な取り組みを進めています。



サフォーク羊

【自動車等試験研究のまち土別】

積雪寒冷な自然条件や風土のもと、トヨタ自動車とヤマハ発動機は通年、ダイハツ工業、ブリヂストンは冬季を中心に、このほかにも自動車関連の企業が試験研究を行っており、試験研究の円滑な実施に対する支援や年間3万人にも及ぶ来訪者の受入態勢の充実など、「試験研究のまち」としての対応に努めています。



東洋一の自動車試験場

【生涯学習のまち士別】

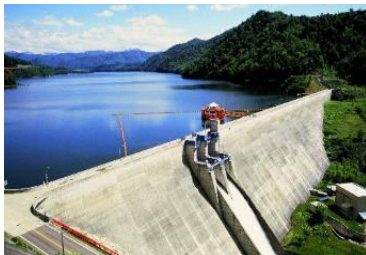
士別市人づくり・まちづくり推進計画のもとに、生涯学習のまちづくりを進めており、心豊かで充実した市民生活を創造していくため、一人ひとりが学ぶ意欲にあふれ、学んだ成果をまちづくりに生かすシステムづくりに取り組んでいます。



市民の手による文化活動

【水とみどりの里士別】

道立自然公園に指定されている天塩岳をはじめ、岩尾内湖、天塩川、市域の75%を占める森林など、本市には恵まれた自然があふれており、これらのすばらしい財産を保全し、将来にしっかりと継承していく「水とみどりの里」づくりを進めています。

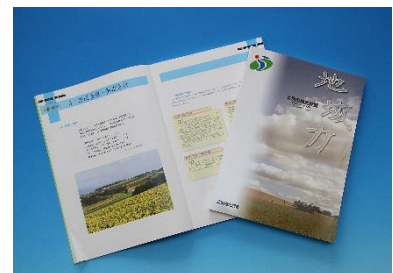


天塩川水源「岩尾内ダム」

(5) 総合戦略の趣旨

本総合戦略は、我が国の社会経済情勢や社会構造が大きく変化する中であって、士別市が次の時代に向けてさらなる発展を遂げ、このまちで暮らすことへの誇りと愛着を醸成するため、地域の特色や独自性を生かした戦略を推進することで、持続可能なまちづくりの方向性と施策をまとめたものです。

戦略の推進にあたっては、市民、地域、団体、企業、行政など市全体が主体となるものです。



(6) 総合戦略の位置づけ

現在の総合計画は合併後に策定され、その期間は平成 20 年度から平成 29 年度までの 10 年間となっています。

総合計画においては、「市民の力で自立したまちを築く仕組みづくり」「ぬ

くもりで支え合うすこやかな地域づくり」「個性と活みなぎる産業と交流の場づくり」「やすらぎとうるおいあふれる生活環境づくり」「心のゆたかさで生きる力を育む人づくり」など、市民参画、行政、福祉、保健医療、産業、観光や交流、防災、生活環境、教育など、あらゆる分野での方向性と施策が展開されています。

また、平成 30 年度からの総合計画については、現在策定に向けて策定手法や期間などが検討されており、これからの本市の最上位計画として極めて重要な計画になってきます。

そこで、本総合戦略については、これまで本市が取り組んできた先駆性、独自性、地域性、将来性等を考慮し、本市総合計画の重点プロジェクトに掲げている「はつらつ産業プロジェクト」の中から「農業振興」、「こだわり交流プロジェクト」の中から「合宿の里」に照準を絞り、この 2 つの柱を推進することで本市の振興発展に寄与する計画とし、次期総合計画にもこの戦略の推進を反映させていくものとします。

(7) 計画期間

2015 年度(平成 27 年度)から 2019 年度(平成 31 年度)までの 5 年間とします。

(8) 計画人口

人口ビジョンにおける将来展望を踏まえ、計画期間内での取り組み成果を考慮し、19,500 人とします。

2. 構 想

(1) 農業未来都市創造

本市では、開拓以来、豊かな水と肥沃な大地のもとに、稲作、畑作・野菜、酪農・畜産とバランスのとれた農業が展開されており、我が国の食糧基地としての役割を担いながら、本市経済を牽引する産業として発展してきました。

しかしながら近年は、農畜産物価格の低迷や農家戸数及び農家人口の減少、農業従事者の高齢化などにより、生産構造が脆弱化する中で、「農業・農村」の活力低下が懸念されています。



特に、農家戸数や農家人口の減少は、農業生産に必要な農村環境や地域コミュニティの維持にも影響を与えることにつながるなど、大きな転換期を迎えており、その対策が急務となっています。

一方では、消費者の食品に対する安全意識も高まり、「安全・安心」な農産物の生産に努めるとともに、引き続き、食糧自給率の向上に貢献できるよう、広い視野を持つての農業振興を進めていく必要があります。

農業を基幹産業とする本市にとっては、農業の振興なくして地域の振興は実現しないとの観点から、地域振興の柱としてこれまでも様々な施策の展開に努めてきたところであり、特に、農業従事者の育成確保が喫緊の課題となっています。

農家戸数と人口の減少に伴い、農地の集積化も進む中で、本市の農業・農村が持続的に発展していくためには、TPPなどの課題もある中、国際競争や地域間競争に対抗できる足腰の強い経営基盤を確立することが必要であり、農業の原点である「土づくり」を基本に、安全・安心で良質な農畜産物の生産に努めることも重要であり、今後においても、これまで本市の農業を牽引してきた農業者の所得向上を目指すことが必要になっています。

これらのことを念頭に、地方創生事業を推進するにあたっては、「農業未来都市創造」を戦略に据えることで、担い手の確保と安定的な経営体の育成をより一層進め、広く他の産業との連携により、新規就農者の育成確保はもとより、女性が活躍する農業の展開や農業後継者、既存農業者の振興を図ることで、活力ある農村を構築し、地域経済の振興、さらには雇用の拡大につながるよう、そして「農業都市」としての誇りにつながる取り組みを進めます。

現在、本市では、後継者育成確保に関して、民間事業者の取り組みも成果を上げつつあり、さらには、農地の大型化に伴うICT農業の調査研究も行われるなど、北海道内の先進地としての評価も高まっています。



農業学習

この取り組みを今後一層推進することで、北海道における一つのモデルとなり、北・北海道中央圏定住自立圏、さらには北海道全体での取り組みに広がることを期待するものです。

また、「農業」を通じて、「教育」「子育て」「健康」「雇用」「交流」「観光」「環境」(7つの「K」)など幅広い分野にその効果が波及するよう、戦略を構築します。

(2) 合宿の聖地創造

本市は昭和 52 年の順天堂大学陸上部の合宿を契機に、「合宿の里」として、年間を通じ多様な合宿の受け入れができるよう、受入態勢の強化や施設の整備を長年にわたって努めてきており、多くのオリンピック選手や日本代表選手、実業団、大学等の合宿が行われるなど、北海道、さらには日本における先駆けとして多くの実績を残しています。

特に、官民連携の組織である「合宿の里士別推進協議会」を中心に、情報の発信や収集を行いながら、新たな団体の招致に努めるとともに、市民意識の高揚や理解、さらには市民スポーツや文化活動の活性化にも努めており、地域活性化の大きな柱として、その振興に取り組んでいます。



グリーンスポーツ
ランニングコース

しかしながら、本市の状況は、人口減少や少子高齢化傾向が引き続き進行しており、総合計画に掲げる「人と大地が躍動するすこやかなまち」を実現するためには、都市機能の整備や生活環境づくりを進めることはもちろんのこと、教育、雇用、健康、子育て、環境などのさらなる発展を期すとともに、いわゆる交流人口を確保する取り組みが重要と考えます。

今次、地方創生事業を推進するにあたっては、「合宿の聖地創造」を戦略に据えることで、スポーツ合宿に関連する地域資源を再認識するとともに、農業や観光、商工業などとの強い連携により合宿者の拡大を図り、産業の振興や雇用の拡大につなげることで、「行ってみたい」「住んでみたい」「住となるまちづくりを目指すものです。



クロスカントリー大会

そして、本市のこうした取り組みが北海道における一つのモデルとなり、北・北海道中央圏定住自立圏、さらには北海道全体での取り組みに広がるよう、北海道や他の市町村とも連携し推進します。

また、「合宿」は第 3 次産業のみならず、農業や製造などの第 1 次産業や第 2 次産業にも波及する効果を有しており、加えて「教育」「子育て」「健康」「雇用」「交流」「観光」「環境」(7つの「K」) など幅広い分野に「合宿」を通じた効果が波及するよう戦略を構築します。



サマーコンバインド大会

さらに、2020年の「東京オリンピック競技大会」「東京パラリンピック競技大会」の開催は、これまで本市が積み上げてきた経験と実績を大いに発揮できる絶好の機会でもあり、本市の課題でもある各種施設や宿泊環境を時代のニーズに合致したものに充実していくとともに、日本選手をはじめ各国の選手が持てる力を十

分に発揮し、充実した大会となるよう地方都市ならではのあたたかい受入態勢を整備します。

特に、大きな課題である「宿泊施設」については、年間を通じた合宿の招致を図りながら収容能力の向上を目指すとともに、後継者の確保や新規参入を促すことが重要です。



スポーツ合宿センター
「土別イン翠月」



朝日地区交流施設
「和が舎」

3. 重点プロジェクト

(1) 農業未来都市創造事業

① やさしい農業農村づくり

- ・新規就農及び体験農業受入態勢の整備

農家人口や世帯数が減少傾向にあり、これに伴う一戸あたりの耕作面積も拡大する中で、農業が魅力ある産業として、そこに従事する後継者を育成確保していくことや女性が活躍する農業の確立、さらには新規就農を促すことは極めて重要です。

このために、稲作、畑作・野菜、酪農・畜産の分野の確固たる研修制度を確立するとともに、営農活動や生活面での支援を行う体制づくりをJAなどの関係機関や農業者、地域との連携により進めます。

市外からの新規参入者の受入にあたっては、多様な人材が農業や地域活動に参画すること

が活力ある農村づくりにつながることから、多世代にわたる体験移住の取り組みを促進するほか、あわせて空き家の活用を推進します。



農業研修

- ・農村景観の維持保全

農業が有する環境保全機能は、低炭素社会構築の上で重要な役割を果たしています。農業人口の減少に伴い、耕作放棄地の発生が懸念される中で、豊かな農村景観を維持していくためにも、耕作放棄地の抑止に努めます。



- ・体験学習の推進

農業を基幹産業とする本市にとって、市民の農業に対する理解を深めることは重要な課題です。農業が有する様々な機能や役割と歴史、農業と気候風土、生産される農産物と地域経済の関係等を学ぶことで、「食」の大切さへの理解を深める農業体験学習を推進します。



体験農業

さらには、都市部の住民の農業に対する理解を深めるためにも、体験農業である「グリーンツーリズム」の振興に努めます。

② おいしい農業農村づくり

- ・食育の推進
- ・地場農畜産物の活用と販路拡大

健康で文化的な生活を送ることは私たちにとってかけがえのないテーマです。特に、健康な心と体を創ることはあらゆる人々の願いであり、そのためにはその基本となる「食」が重要な役割を担います。

現在、国際化や科学技術の進展とともに、食の安全性が大きな関心事になっており、安全安心な食糧の大切さが求められています。

農業の大切さと農村に対する市民の理解を深めるため、食育及び地産地消を推進します。



本市の農産物は、農業の基本である「土づくり」とこれまでの経験に基づく確かな技術によって生産されており、作物の本来の機能を有していることから、本市農畜産物に対する理解をさらに深め、その活用や販路を拡大するよう努めます。

また、6次産業化は、本市の基幹産業である農業のさらなる発展の上で、そして地域の資源活用、雇用の創出、郷土への愛着心を醸成する上で極めて有効な取り組みであることから、一層の推進を図ることが重要です。



日本最北の製糖工場

③ がんばる農業農村づくり

・新しい農業への挑戦

農畜産物の国際競争や地域間競争、そして農地集積化による耕作面積の拡大に対応し、収益性の高い効率的な経営基盤を確立していくためには、より効率的な農業を実現していくことが強く求められています。

本市では、「国営農地再編整備事業」により、圃場の大型化が進められるとともに、GPS等を活用したICT農業の導入に向けた調査研究も進められており、この体系の確立を目指すとともに、経営規模拡大に対応する法人化への取り組みを支援します。

また、新たな農畜産物の生産に向けた調査研究も必要です。



ICT農業

・研修施設等の整備充実

新規就農者、農業後継者、既存農業者等が安心して研修が受けられ、時代のニーズにあった営農を実現していくためにも施設の整備は不可欠です。

稲作、畑作・野菜、畜産・酪農など、幅広い分野の研修が行うことができる施設整備の実現に向け検討を進めます。



ディリーサポート士別
「TMRセンター」

(2) 合宿の聖地創造事業

① やさしい合宿地づくり

・受入態勢の充実

厳しいトレーニングを積む選手等が、安心して、心通う環境で時間を過ごせるよう、そして国際化にも対応できるよう「外国語研修」を行うなど、士別ならではの「おもてなしの心」を一層醸成します。

また、これまで築き上げてきた人脈を今後ともなお一層大切にしながら、関係機関や団体などとの絆を深めるとともに、2020 東京オリンピック・東京パラリンピック競技大会に向け、日本全体で成功に導くため、地方都市として市民あがての支援を推進します。



オリンピックデーラン

・PR活動の充実

優れた合宿地として内外へ広くPR活動を実施するため、ホームページやSNSの活用をはじめ、多国語対応パンフレット作成、合宿招致活動などを積極的に展開します。

また、PR活動においては、本市にゆかりのある選手等の協力を得ることも重要です。



合宿招致活動

・スポーツコミュニティの創造

「健康スポーツ都市宣言」を踏まえ、市民が健康で明るい生活を送ることができる地域コミュニティの創出に努めます。

加えて、雄大で清潔な自然環境をこれまで同様に守り育てるとともに、市民の環境保全意識の啓発に努めます。

② おいしい合宿地づくり

・合宿に対応したメニューの開発

選手等が摂取しなければならない栄養は競技別に違うこと、あるいは各チーム等には栄養士などが同伴しているケースも多いことから、それぞれの要望に対応できる態勢を整えるとともに、スポーツに特化したメニューを提供し、市民なども楽しむことができる「合宿地メニュー」を開発します。



合宿中の食事

- ・土別ならではの食事の提供

本市の優れた安全安心な農畜産物や加工品を最大限活用しながら、健康づくりをはじめスポーツ等に適した食を実現します。

③ がんばる合宿地づくり

- ・各種イベントの充実

第29回を数える「土別ハーフマラソン大会」をはじめ「ホクレンデスタンスチャレンジ」「オリンピックデーラン」さらには「サマージャンプ大会」「コンバインド大会」など、これまでの歴史や実績をもとに「合宿の聖地」として、土別らしさを発揮しながら一層進化させ、参加者にとって意義あるイベントとなるよう努めます。



土別ハーフマラソン大会

- ・スポーツ施設等の整備充実

今後、より一層合宿の振興を図っていくためには、その基礎となる各種施設の整備充実も重要な要素です。



陸上競技場

これまでも多くのオリンピック代表選手などに利用されてきた陸上競技場やジャンプ台をはじめとする施設の充実を図ることはもちろんのこと、時代のニーズに合致した施設の整備充実を推進します。

特に、2020 東京オリンピック・東京パラリンピックの開催に伴い、これまで多くのオリンピック選手や海外チームの直前合宿を受け入れてきた本市の果たす役割は一層大きくなることから、より効果的な合宿が可能となるよう施設整備を進めていくとともに、より効果的な活用に努める必要があります。



サマージャンプ台



低酸素トレーニングルーム

(3) 7つの「K」の分野への波及効果

① 教育

「農業のまち士別」「合宿の里士別」で学ぶ児童生徒が、基幹産業である農業の本質を学ぶことで士別が世界的に、国内的に果たす役割を認識し、スポーツを通じフェアプレーの精神や仲間との絆を深めること



農業学習

などで心豊かに成長することに努めます。

特に、若い世代のまちづくりへの参画を促し、ふるさとの魅力を再認識、再発見することで、「ふるさと士別」に対する愛郷心の醸成を図ります。

② 子育て

「農業のまち」「合宿のまち」として先駆性、独自性を発揮したまちづくりを進めることで、このまちで子育てすることに対する自信と誇りを醸成します。

市民アンケートの結果からも、将来は2～3人の子どもを希望する割合も高く、「子育て日本一」を目指す取り組みとも連動し、安心して医療を受けられる環境づくりを図ります。



子育て環境の充実

③ 健康

安全安心な農畜産物を生産する環境の中で食育に関する意識を高め



サフォークジム

るとともに、「健康・スポーツ都市宣言」のまちに住む市民が尚一層スポーツ意識を高めることで、いつまでも健康な心と体を保持し、豊かな生活を送ることができる「健康長寿日本一」のまちづくりを進めます。

④ 雇用

優れた農産物の流通を一層促進するとともに、その食材等の活用により地域経済に好循環をもたらすとともに、新規就農者をはじめ農業従事者の増加や6次産業化の推進によって本市経済の振興と雇用の創出を促します。

また、合宿などによる交流人口の増加により、宿泊業や飲食業をはじめ地域経済の活性化を促し、「スポーツのまち」として第1次・第2次産業への波及効果を図ることで雇用を創出します。

市内高校生に対するアンケートからも、市内での就職を希望する人は一定数いるものの、実態としてはそのほとんどが市外での就職となっており、市内で就職できる環境をハローワークをはじめとする関係機関や高校との連携のもとで創出することが必要になっています。



高校生による商品開発

⑤ 交流

学校教育での研修や企業内の社員研修で農業を体験するケースが増加しており、この受け入れ態勢の充実を図ります。

さらに、「サフォークランド」を訪れる観光客、「自動車試験研究」で訪れるビジネスマン、「合宿」を訪れる選手など、「地域間交流や国際交流」の受け入れを促進します。

多様な人材交流が進むことで、地域文化の向上と社会教育の推進を図ります。



香港トライアスロンチームと「交流サイクリング」

⑥ 観光



士別市観光の核「サフォーク羊」

体験観光の代名詞ともいえる「グリーンツーリズム」を普及すること、及び地元農畜産物を活用した特色ある食事の提供や特産品の販売等を観光振興と連動させます。

また、合宿を契機に、士別独自のホスピタリティをなお一層向上させます。

⑦ 環境

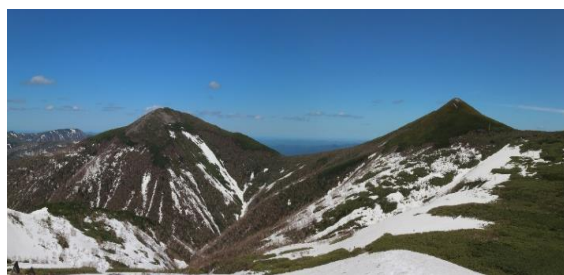
市民の多くが本市の自然環境を高く評価しており、今後も農業が有する国土保全や水資源の涵養機能を保持し、合宿に重要な豊かな自然環境を守るため、地域の環境保全意識の高揚に努めます。

また、環境センターでの環境教育の推進を図ります。

さらには、低炭素社会の実現に向け、エコカーや燃料電池車(F C V)、小型電気自動車の導入を推進するとともに、水素社会への取り組みをはじめ新エネルギーについての調査研究をします。



電気自動車の導入



道立自然公園「天塩岳」

(4) 重点プロジェクトによる数値目標

2つの重点プロジェクトにより、地域特性を生かした地域解決を目指します。

また、2019年度における数値目標は次のとおり定めます。

項目	目標数値	実績	
合計特殊出生率	1.5	(2012年度)	1.36
有効求人倍率	(常用)1.2倍	(2014年度)	1.18倍
高校卒業者地元就職率	50%	(2014年度)	35.3%
健康な高齢者率 (高齢者のうち介護認定を受けていない人の割合)	85%	(2014年度)	82.5%
交流人口	456,700人	(2014年度)	398,824人

(5) その他

今次総合戦略については、今後の本市の振興発展の方策について、本市の特色を生かしたものとするため、「農業」「合宿」に絞って計画しているが、人口減少対策、地域経済の活性化を図っていくためには、子育てを支援する「子育て日本一」に関する施策、健康長寿を図る「健康長寿日本一」に関する施策をはじめとする医療福祉政策や雇用の場を創出するための「企業誘致」などの視点も市政運営の上では欠くことのできない重要な要素です。

今後においても、農業以外の産業の振興を図ることも含め、総合的に人口減少対策と地域経済振興のための施策を展開しなければなりません。

4. 主な施策と重要業績評価指標（KPI）

(1) 農業未来都市創造事業

「やさしい農業農村」「おいしい農業農村」「がんばる農業農村」をめざし、各種事業を推進することで「農業未来都市」を創造します。

また、2019年度までの重要業績評価指標(延)を次のとおり定めます。

事業名		やさしい農業農村づくり事業
小事業名	事業内容	重要業績評価指標(KPI)
地域資源を活用した学校教育推進事業	総合的な学習の時間を活用し、小学生が農業についての体験や学習を行うことで、農業への理解を深めるとともに、愛郷心の醸成を図る。	農業学習履修時間 延 205時間
農業未来都市構想策定事業	農業後継者や新規参入者が円滑に研修できる体制を整備し、本市農業の振興発展に期するため、本市としてのシステム構築と将来ビジョンを策定する。	新規就農者 延 45人
農業農村担い手支援事業	担い手の近代的経営感覚を養うとともに、経営規模拡大に向けた支援を行う。	
しべつ農村塾運営事業	地域の農業者や関係者とともに農業のあり方を研修する。	
グリーンパートナー推進事業	農業関係団体が連携し、「農業後継者配偶者対策」を実施する。	

移住促進事業	大都市圏からの移住者及び体験移住者増加を図る。特に、農業の新規就農者の移住者の増加を目指す。	移住体験者 延 3,600人
サフォーク種羊振興事業	羊飼養者の定着化と経営の安定を図るため、飼養管理及び種雄導入の支援を行う。	新規飼養者 延 6戸 飼養頭数(繁殖雌) 800頭
農業体験受入事業	修学旅行や企業等の研修のための農業体験を受け入れる。	体験者受入 延 1,700人
6次産業ネットワーク推進事業	本市の優れた農畜産物等を活用し、生産加工・流通を活性化するための体制づくりを行う。	支援数 延 7件 新規販路開拓 延 7件

《おいしい農業農村づくり》

事業名	おいしい農業農村づくり事業
-----	---------------

小事業名	事業内容	重要業績評価指標(KPI)
ふるさと給食事業	地元の優れた農産物等を活用し、小中学校の給食において食することで農業への理解を深める。	給食実施回数 延 38回
6次産業ネットワーク推進事業(再掲)	本市の優れた農畜産物等を活用し、生産加工・流通を活性化するための体制づくりを行う。	支援数 延 7件(再掲) 新規販路開拓 延 7件(再掲)

《がんばる農業農村づくり》

事業名	がんばる農業農村づくり事業
-----	---------------

小事業名	事業内容	重要業績評価指標(KPI)
ICT農業推進事業	作業の効率化、安定化を図り、経営規模の拡大をめざしICT化を推進するための研修を実施する。	研修参加者 延 750人
安全安心農業ふれあい事業	地場農産物の消費拡大を図り、地産地消を推進するためイベントを開催する。	参加者数 延 90,700人
農業研修施設整備事業	新規就農に向けた研修及び農業体験が可能な施設の整備を行う。	新規就農者 延 45人(再掲) 体験者受入 延 1,700人(再掲)

(2)合宿の聖地創造事業

「やさしい合宿地」「おいしい合宿地」「がんばる合宿地」を目指し、各種事業を推進することで「合宿の聖地」を創造します。

また、2019年度までの重要業績評価指標(延)を次のとおり定めます。

《やさしい合宿地づくり》

事業名		合宿の里士別ステップアッププラン事業
小事業名	事業内容	重要業績評価指標 (KPI)
合宿招致活動事業(海外)	一層の合宿者の増加を図るため、また2020年東京オリンピック・パラリンピックを見据え、海外からの合宿の招致活動を展開する。	合宿者数 延 115,000人 新規招致チーム数 延 16チーム ナショナルチーム招致数 延 15チーム 海外チーム招致数 延 8チーム
外国語研修事業	海外からの合宿者のおもてなしに資するため外国語研修を実施する。	
合宿招致イベント開催事業	合宿の里士別を内外に発信し、合宿者増加を図るため、PRイベントを開催する。	
多国語対応招致パンフ作成事業	合宿者の増加を図るため、国内外に向けてのPRパンフを作成する。	
外国語併記案内看板作製事業	本市で合宿する海外選手にもやさしい案内看板を設置する。	
合宿の聖地構想策定事業	より充実した環境で合宿できるよう、「合宿の聖地」をめざす将来ビジョンを策定する。	

事業名		スポーツ合宿推進事業
小事業名	事業内容	重要業績評価指標 (KPI)
合宿招致活動事業(国内)	一層の合宿者の増加を図るため国内の大学、実業団、中央競技団体へ招致活動を展開する。	合宿者数 延 115,000人(再掲) 新規招致チーム数 延 16チーム(再掲) スポーツ教室参加者 延 1,800人
合宿受入れ事業	合宿選手受入にあたっての送迎をはじめ、市民との交流を促進する。	
合宿の里推進協議会補助金	官民一体となった合宿推進を行う体制を整備する。	
ランニング教室開催事業	合宿中の選手によるランニング教室やオリンピックデーランのスポーツ教室などを通じ、市民の競技力の向上を図る。	

《おいしい合宿地づくり》

事業名	合宿の里土別ステップアッププラン事業
-----	--------------------

小事業名	事業内容	重要業績評価指標 (KPI)
合宿選手対応メニュー開発事業	合宿選手向けに地元農産物等を活用した土別ならではのメニューを開発する。	新規メニュー開発 延 15品目

《がんばる合宿地づくり》

事業名	合宿の里土別ステップアッププラン事業
-----	--------------------

小事業名	事業内容	重要業績評価指標 (KPI)
低酸素室整備事業(朝日地区)	競技力の向上をめざし、各種機器や器具、設備等を整備することで、合宿地としての魅力向上を図る。	合宿者数 延 115,000人(再掲) 新規招致チーム数 延 16チーム(再掲)
林道クロカンコース整備事業		
陸上競技運営システム整備事業		
運動施設整備機器更新事業		
ウェイトリフティング器具整備更新事業		
スポーツイベント開催事業	合宿の聖地としてのイベントの進化を図り、参加者のにとって意義あるものとする。	イベント参加者 延 25,000人
トレーニングセンター整備事業	あらゆるスポーツの基礎となるウエイトトレーニングやランニングが可能な施設を整備する。	合宿者数 延 115,000人(再掲) 新規招致チーム数 延 16チーム(再掲)

事業名	スポーツ合宿センター整備事業
-----	----------------

小事業名	事業内容	重要業績評価指標 (KPI)
無線LAN構築事業	合宿者のための宿泊環境を整備し利便性を向上する。	合宿者数 延 115,000人(再掲) 新規招致チーム数 延 16チーム(再掲)
洋室照明整備事業		
井水装置整備事業		
循環ポンプ整備事業		
宿泊室バリアフリー化事業	障がい者スポーツの振興と2020東京オリンピック・パラリンピックを見据え、宿泊室のバリアフリー化を図る。	障がい者スポーツの 合宿者数 延 94人

事業名	朝日地域交流センター整備事業
-----	----------------

小事業名	事業内容	重要業績評価指標 (KPI)
施設修繕事業	合宿者のための宿泊環境を整備し利便性を向上する。	合宿者数 延 115,000人(再掲)
エアコン・カーテン整備事業		

5. PDCAサイクル

この総合戦略は、市民、地域、団体、企業、行政など市全体で情報を共有しながら推進する戦略とします。

また、その計画策定(Plan)、推進(Do)、点検・評価(Check)、改善(Action)については、計画期間に設定した目標(KPI)を達成するため、市民をはじめ企業・団体、行政等が情報を共有し、様々な意見を反映しながら管理サイクルを構築し、進捗等を管理することとします。

(1) 計画策定(Plan)

総合戦略は、これまでの本市のまちづくりの実績を踏まえ、市民や市内各団体等との意見交換を基本にしながら現状と課題を整理し、総合戦略としてまとめます。

(2) 推進(Do)

総合戦略の推進にあたっては、それぞれの分野において関連する地域や団体、企業、行政が連携して推進するとともに、情報を共有し、積極的な情報発信に努めます。

また、「選択と集中」を基本に、事業の優先順位を明確化しながら実効性を確保します。

(3) 点検・評価(Check)

各事業の進捗状況、効果等を点検し、加えて重要業績評価指標(KPI)の確認作業を進めます。

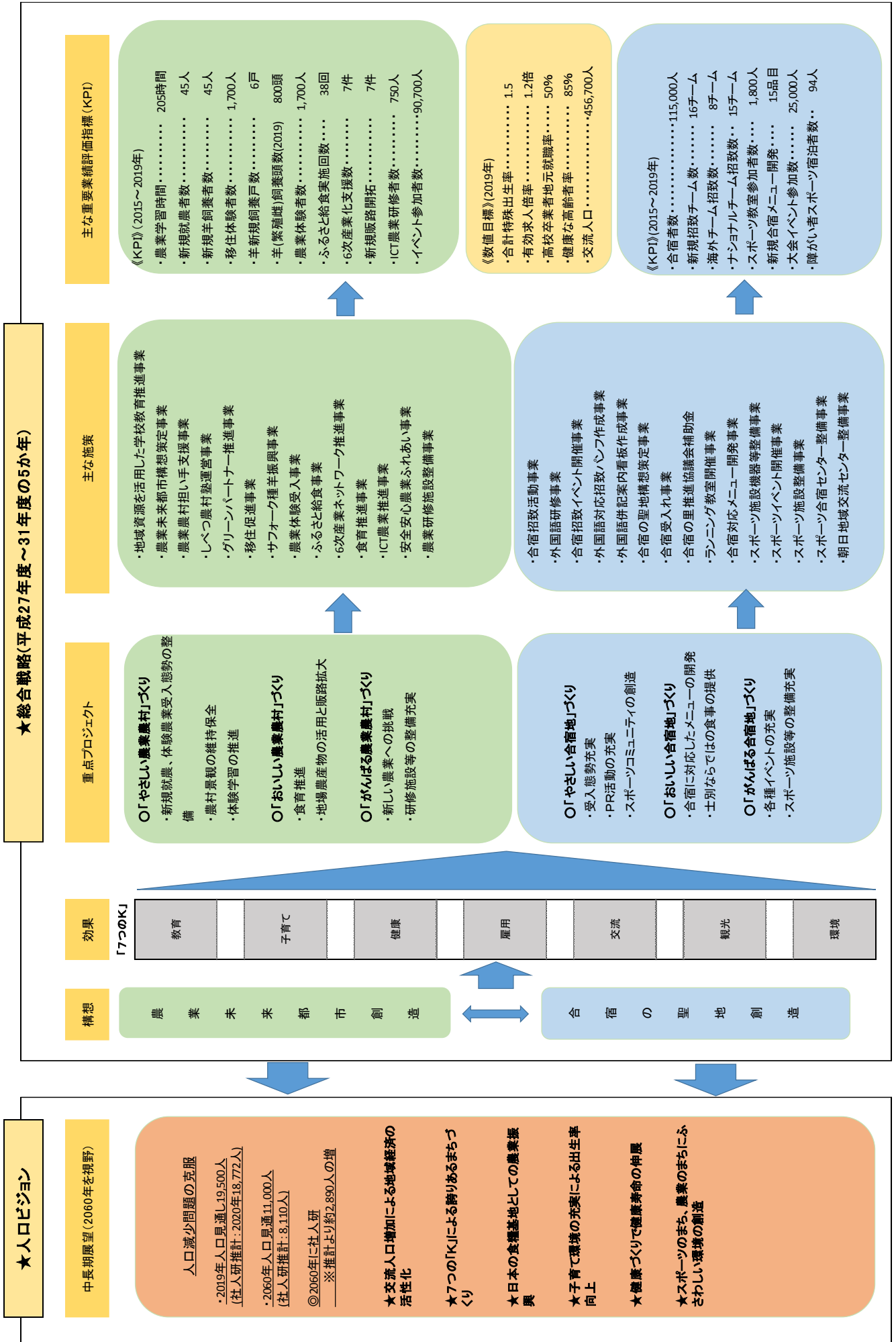
(4) 改善(Action)

点検・評価の結果をもとに、その検証結果を踏まえた施策の見直しを行うとともに、必要に応じて総合戦略の改訂を行います。

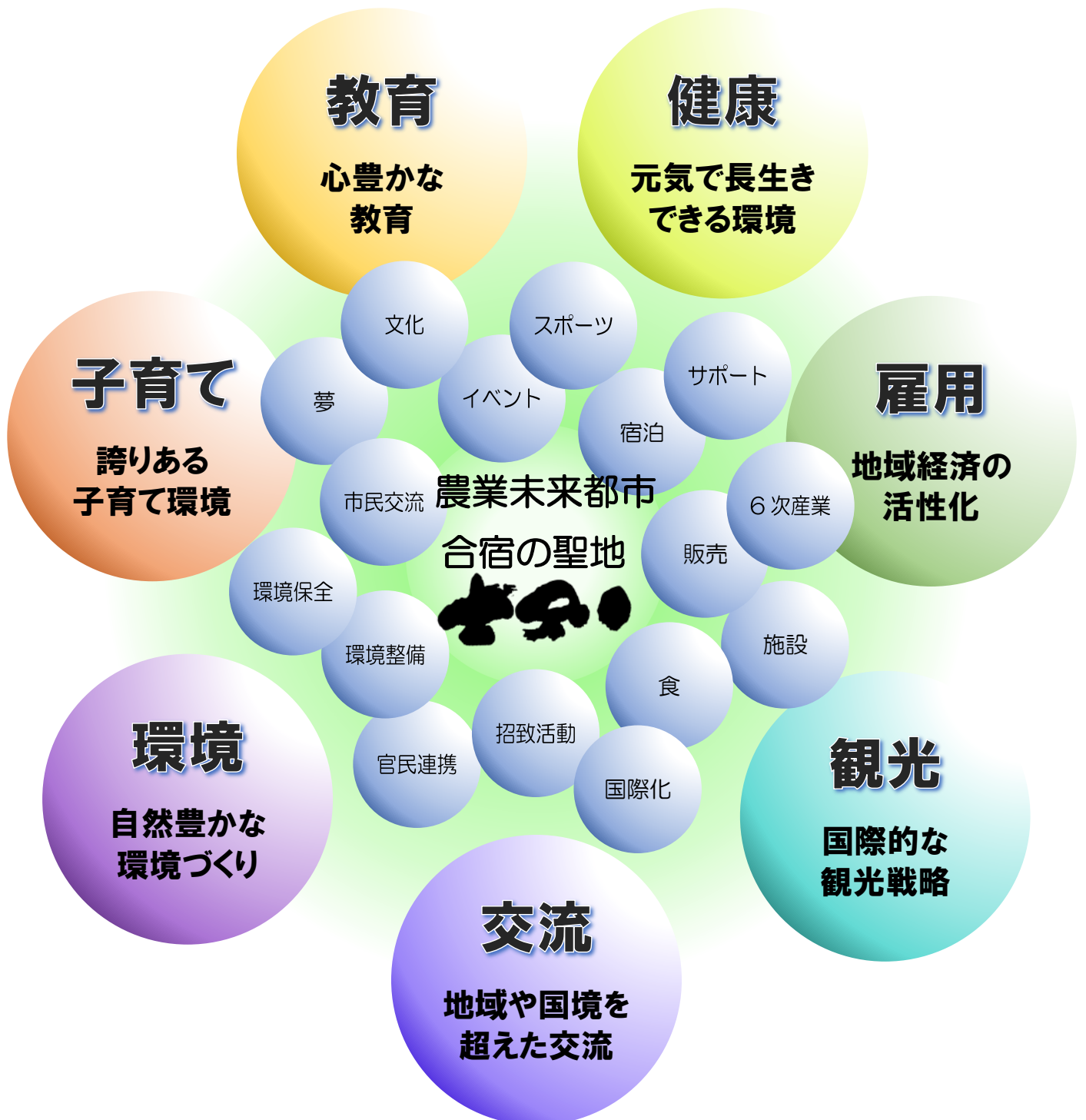
6. 全体イメージ

この総合戦略の全体イメージは次の図のとおりです。

士別市「まち・ひと・しごと創生総合戦略(人口ビジョン・総合戦略)」の全体イメージ



士別ならではの地方創生



第3章 資 料

1. 市民アンケートの結果

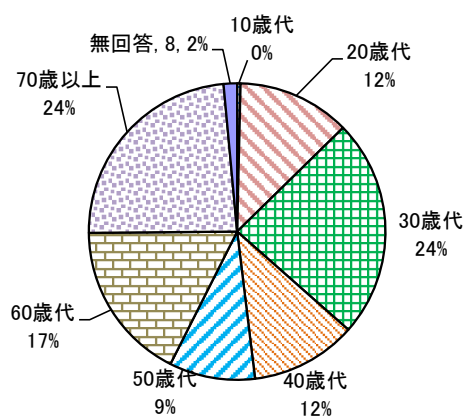
- ・調査目的
 - 高 校 生：卒業後の市内定住意向や就職に関する希望等を把握することを目的
 - 18～39歳：結婚、出産、子育てに関すること、希望する子供の数を把握することを目的
 - 40歳以上：まちづくりに関する市民満足度や士別市の特徴などを把握することを目的
- ・調査対象 士別市在住の「一般市民」
士別市内の「高校1,2,3年生」
- ・抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
 - 高校生 423人
 - 18～39歳までの男女 900人
 - 40歳以上の男女 960人
- ・調査期間 平成27年6月20日～8月7日
- ・調査方法 郵送及び高校に配布・回収

区分	配布数	回収数	回収率
高校生	423	423	100.0%
18～39歳	900	207	23.0%
40歳以上	960	338	35.3%

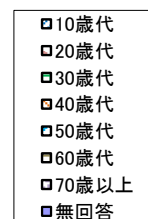
(1) 全体(一般・子育て世代)の部

回答者数 545 全体(一般+子育て)

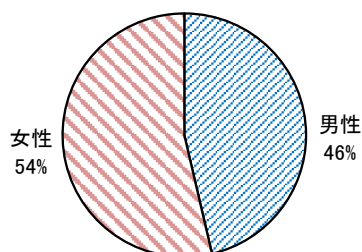
問1. 性別・年齢をお答えください。
年齢



N=545
平均年齢: 52.1歳



性別

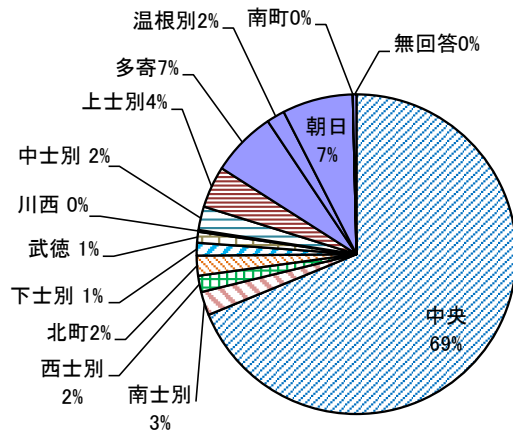


N=545



問2. 居住地域(地区名)についてお答えください。(1つ)

N=545

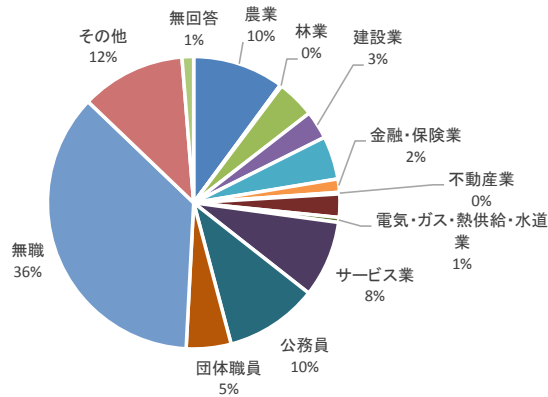


- 中央 □南士別 □西士別
- 北町 □下士別 □武徳
- 川西 □中士別 □上士別
- 多寄 □温根別 □朝日
- 南町 □無回答

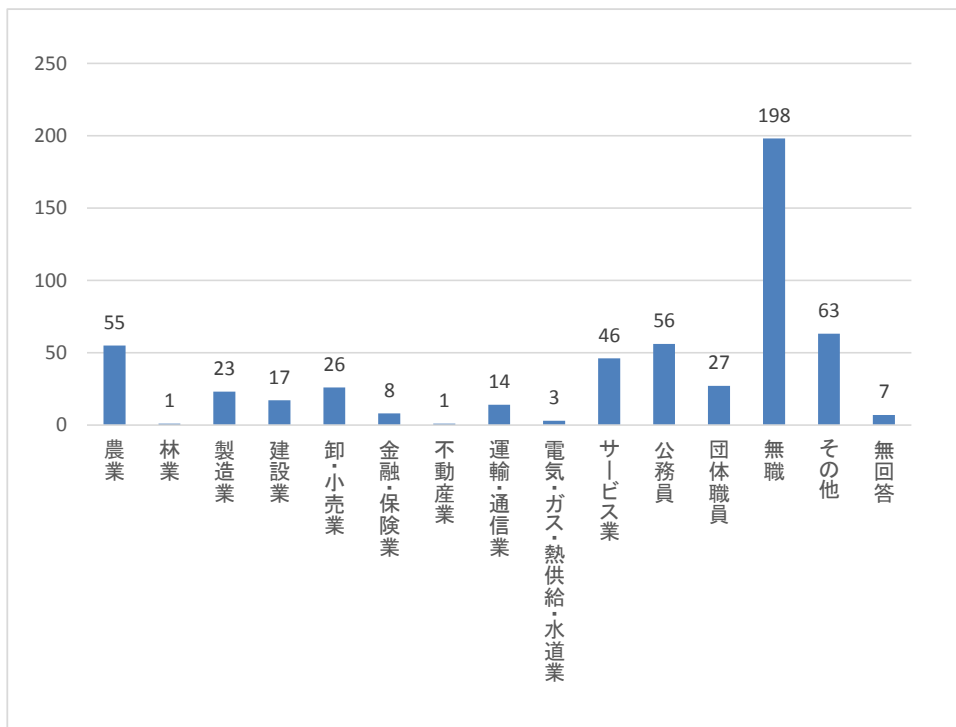
※「朝日」は選択肢以外の記入が多かったため追加

問3. ご職業についてお答えください。(1つ)

N=545

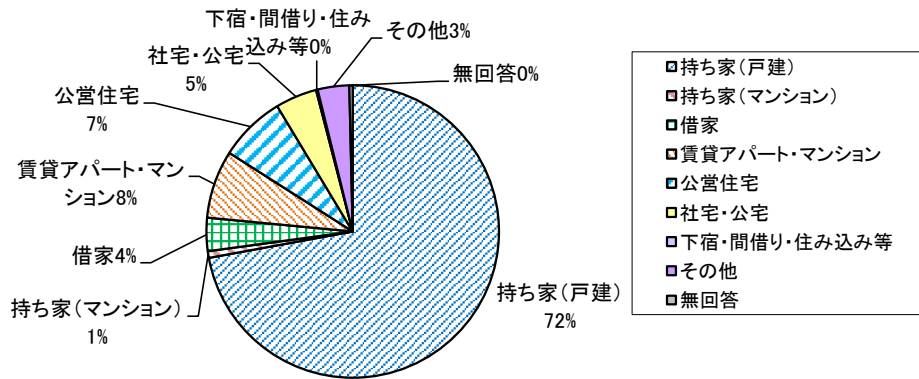


- 農業
- 林業
- 製造業
- 建設業
- 卸・小売業
- 金融・保険業
- 不動産業
- 運輸・通信業
- 電気・ガス・熱供給・水道業
- サービス業
- 公務員
- 団体職員
- 無職
- その他
- 無回答



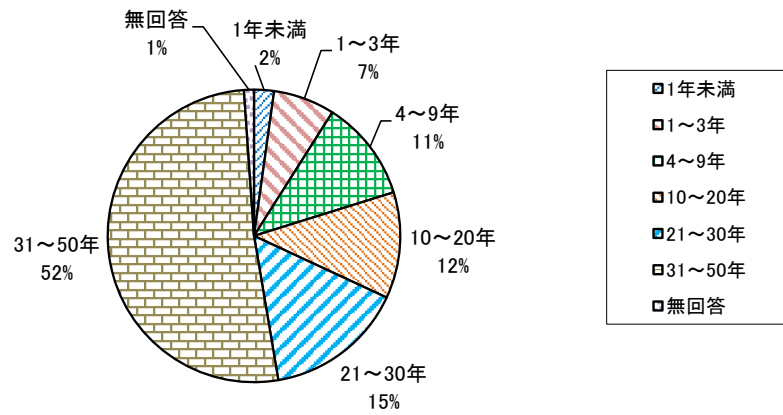
問4. 居住形態(住居種別)についてお答えください。(1つ)

N=545



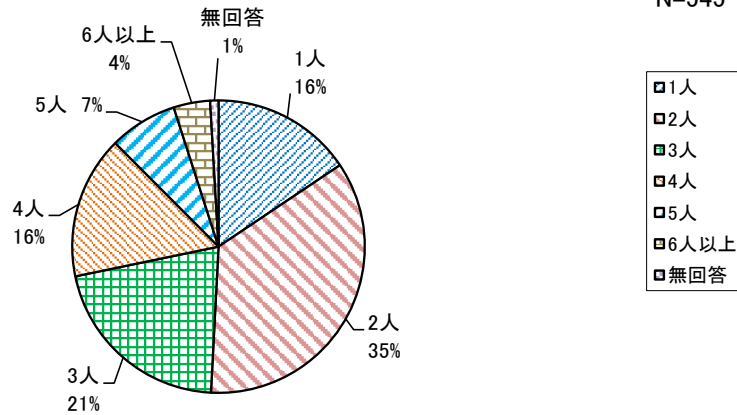
問5. 現在の士別市区域内での通算居住年数をお答えください。(1つ)

N=545



問6. 世帯構成(あなた自身を含めての世帯人数)について、お答えください。(1つ)

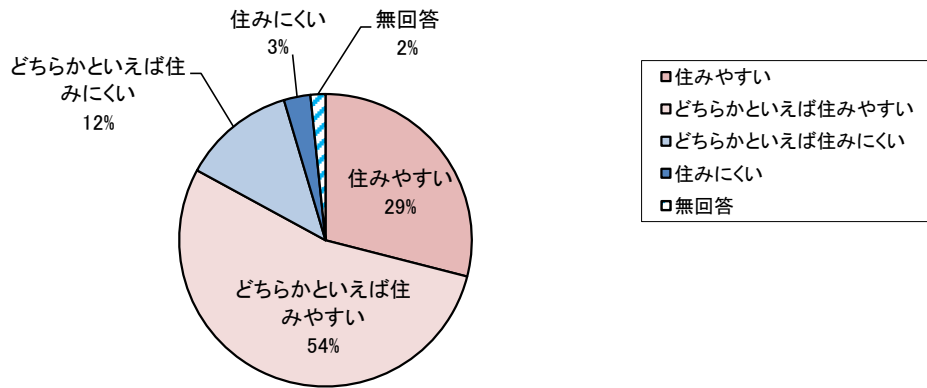
N=545



■士別市の住み心地について■

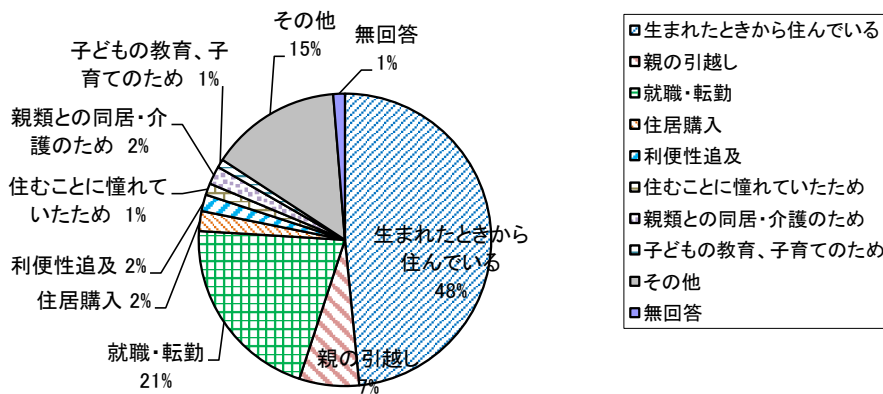
問7. あなたにとって士別市は住みやすいまちですか。(1つ)

N=545



問8. 士別市に居住したきっかけをお答えください。(1つ)

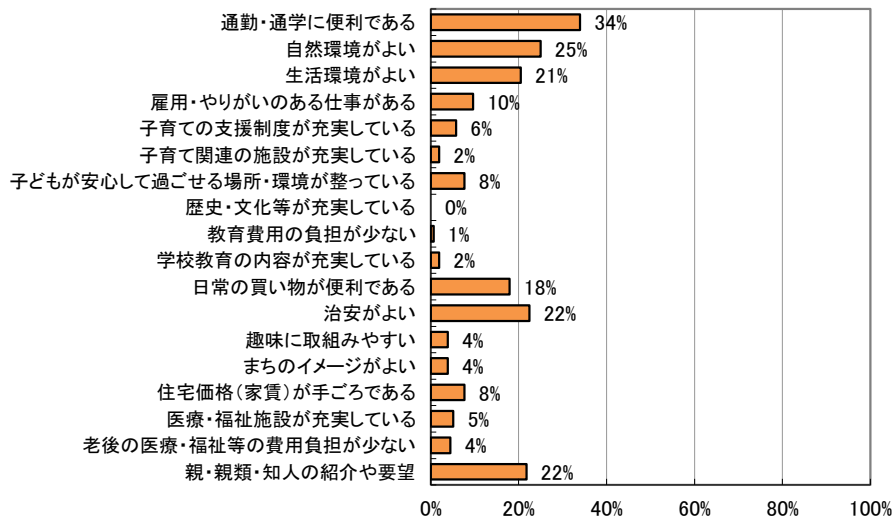
N=545



※問8で、2～6と答えた方のみ

問9. 士別市での居住を後押しした要因をお答えください。(3つまで)

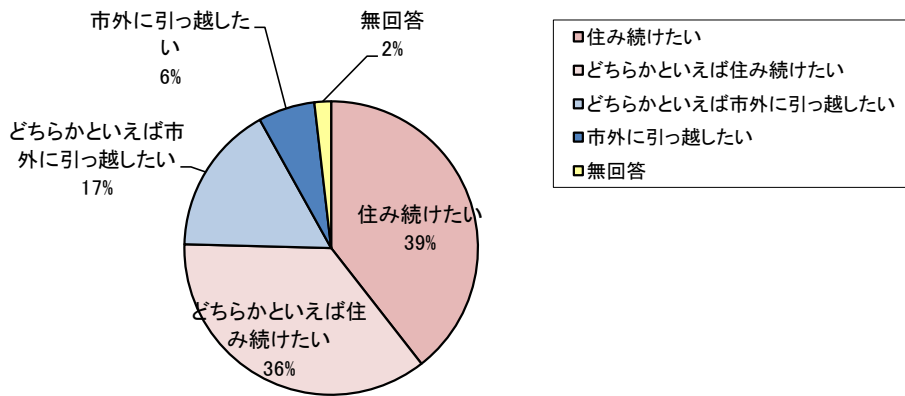
N=156



■今後の士別市での居住意向について■

問10. あなたは、これからも士別市に住み続けたいですか。(1つ)

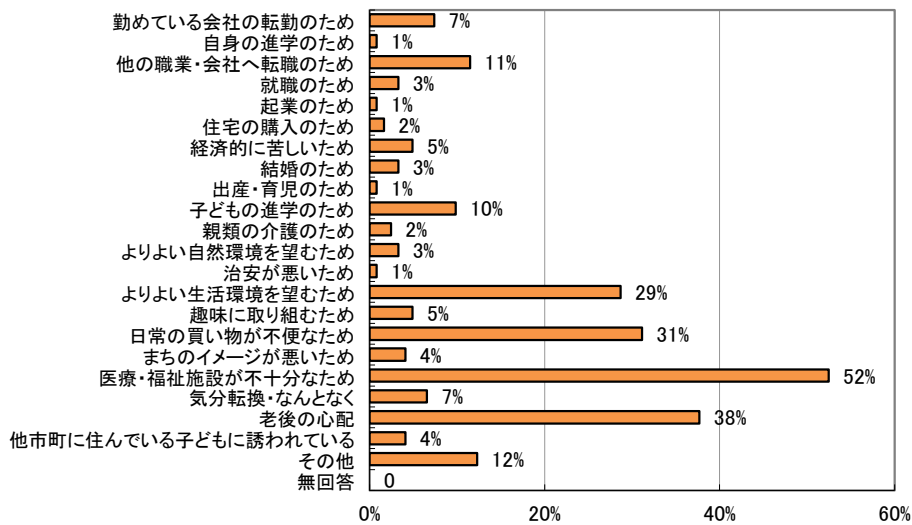
N=545



※問10で、3~4と答えた方のみ

問11. あなたが引っ越したいと思う理由は何ですか。(3つまで)

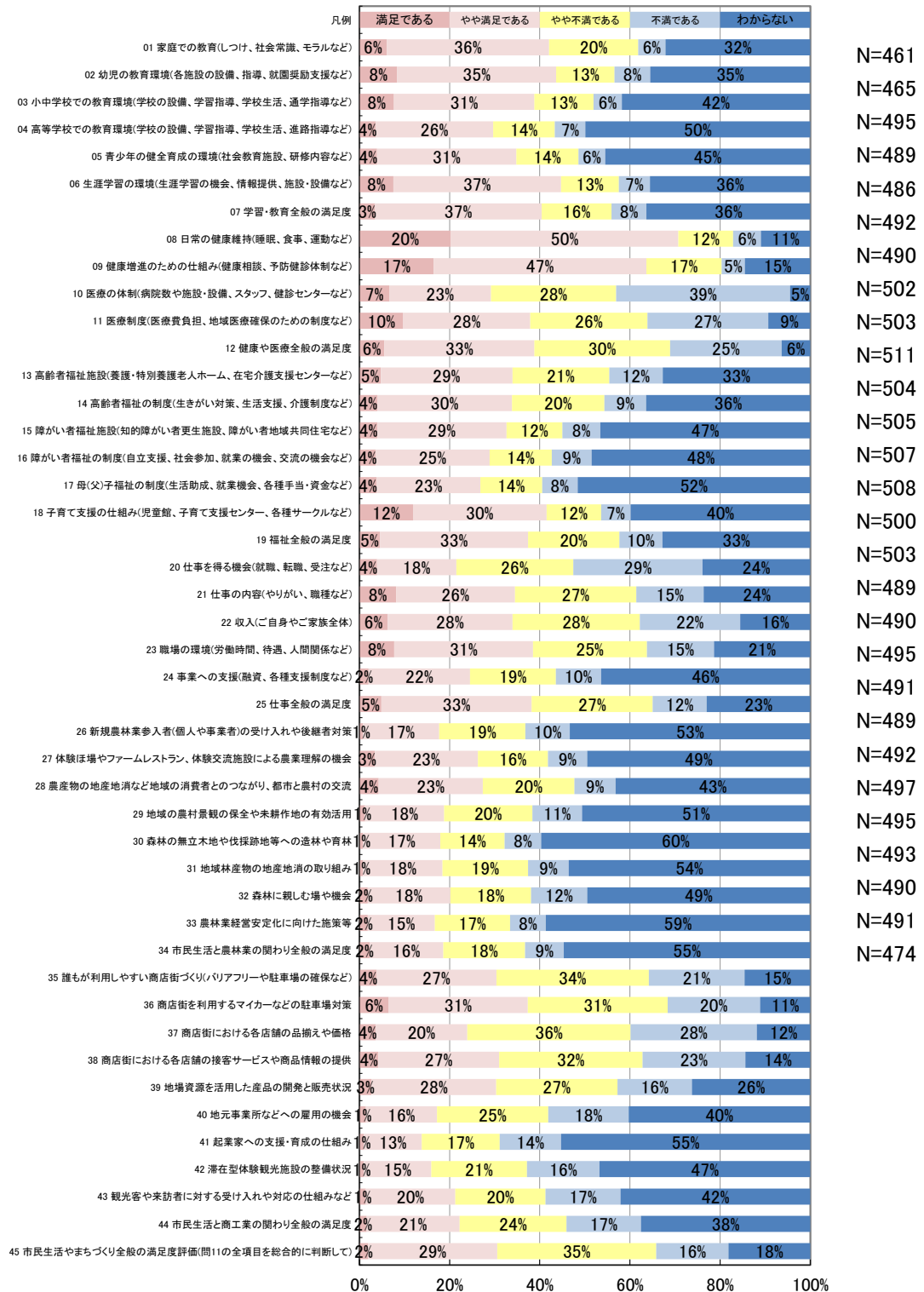
N=122



■市民生活やまちづくりに関する満足度について■

問12. 土別市で進めているまちづくりの各分野の内容について、現在どのくらい満足していますか。それぞれの項目につき1つずつ○をつけてください。

【満足度】

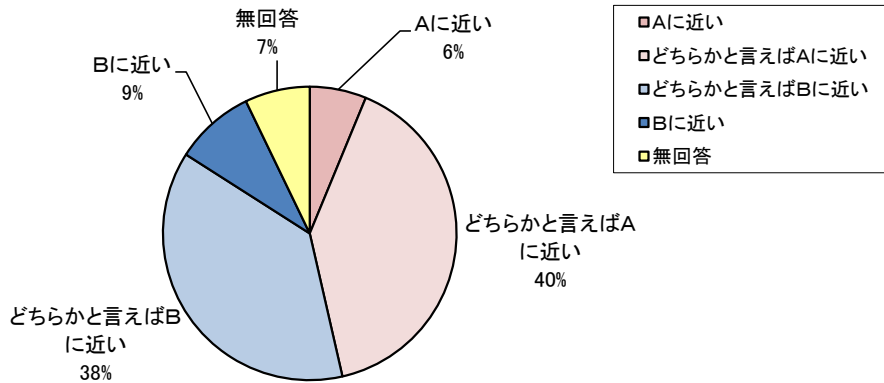


■ 公共的サービスの水準について ■

問13. あなたは、市の財政が厳しい中で、市民サービスの水準についてどのようにお考えですか。項目ごとに考え方に近い1から4までの中から1つだけ選んで、番号を○で囲んでください。

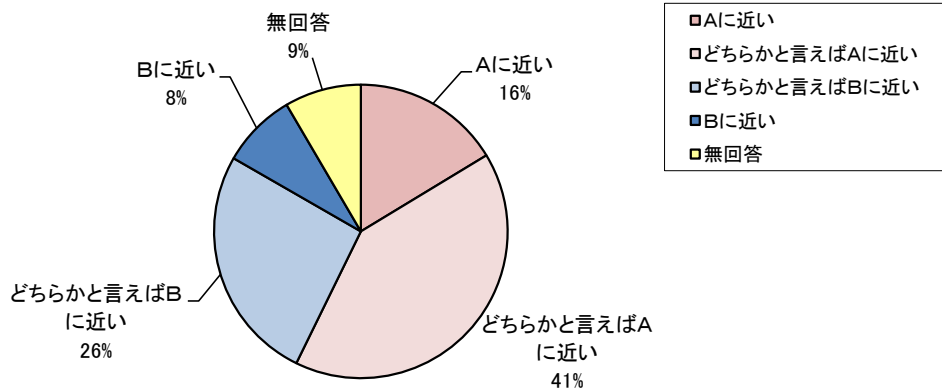
- A サービスの水準を維持するためには、自己負担が増えても止むを得ない
 B 自己負担はできないので、サービスの水準が低下しても止むを得ない

N=545



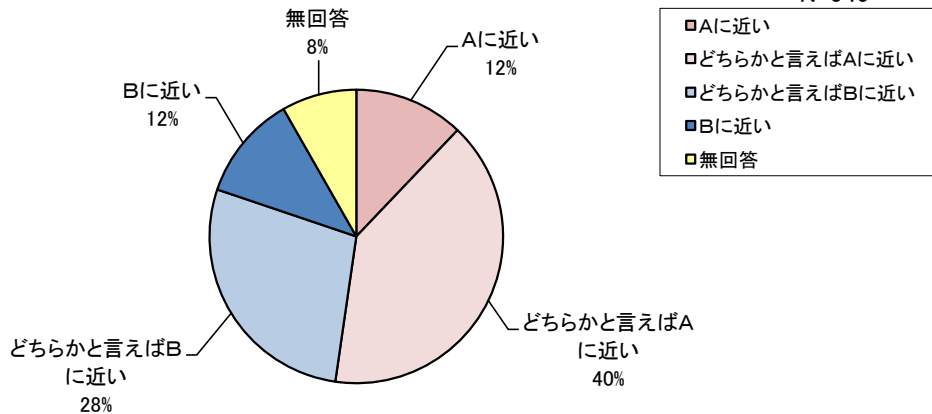
- A サービス水準に高低をつける場合は、施策の違い(種類・分野など)により優先度をつけるべきだ
 B サービス水準の高低は、全ての施策にわたって一律に行うべきだ

N=545



- A 行政と市民が協働で役割分担をし、ともにサービスを担うのが望ましい
 B 市民が協働でサービスを担うのは、仕事や生活があるので難しい

N=545



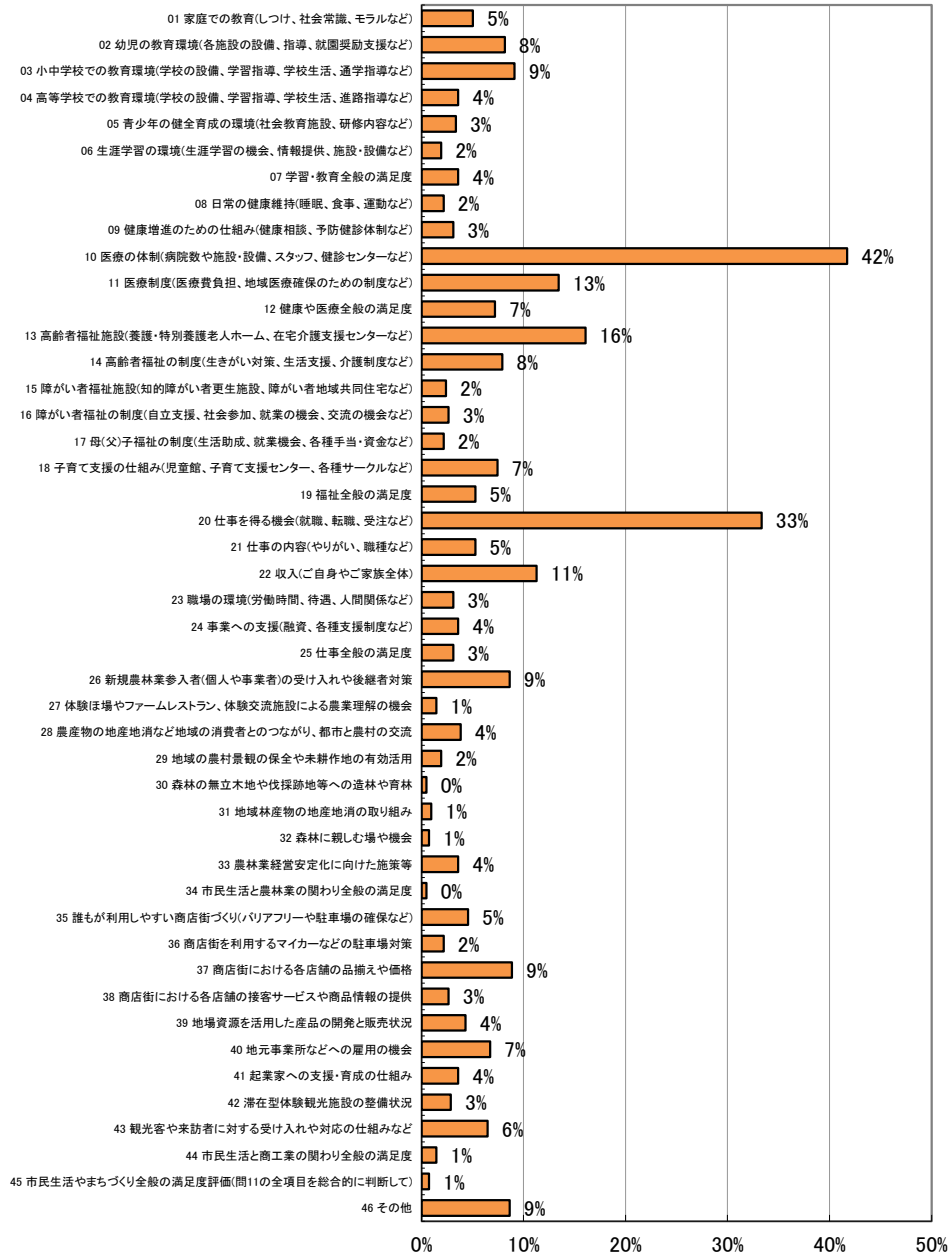
6.今後の士別市のまちづくりについてお答えください。

問14. 本市の人口の現状と将来の姿を踏まえ、安定した人口構造を保ち、将来に亘って活力ある地域社会を実現することが重要です。

そのために、特に重要であると思う取り組みを、問12の設問(01～45)から選択して、当てはまる番号でお答えください。(3つまで)

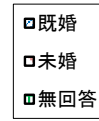
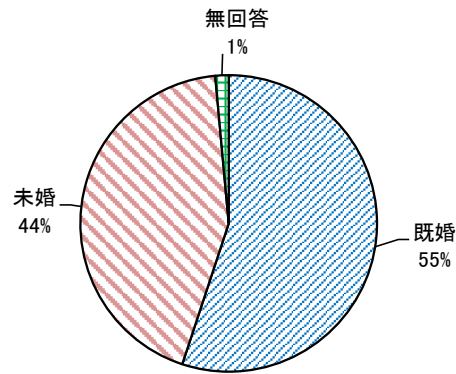
問12の設問(01～45)以外にも重要と考えられる取り組みがある場合は、番号欄に「46」とご記入の上、その他欄にご自由にご記入ください。

N=417



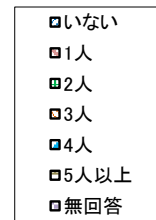
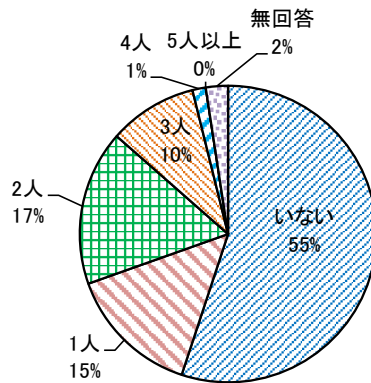
■子育て環境等について■
 問16. あなたは、ご結婚されていますか。

N=207



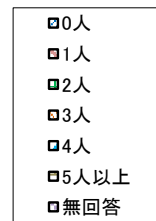
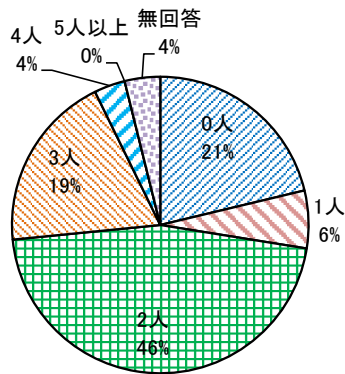
問17. あなたは、お子さんがいらっしゃいますか。(1つ)

N=207
 平均人数: 0.9人

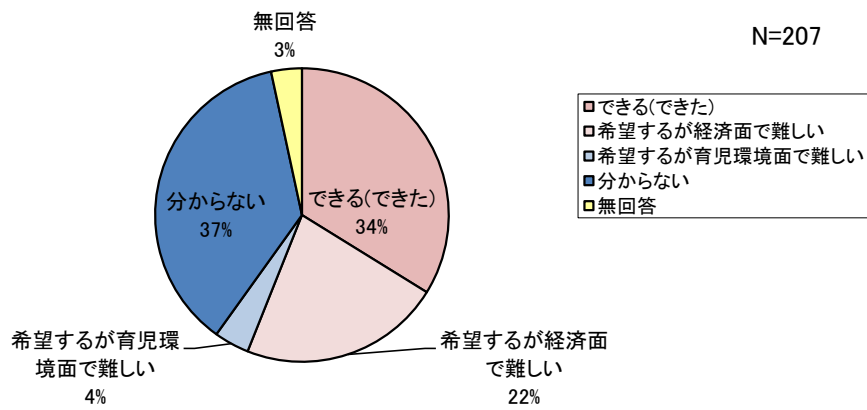


問18. 将来、希望する子どもの人数は何人ですか(1つ)

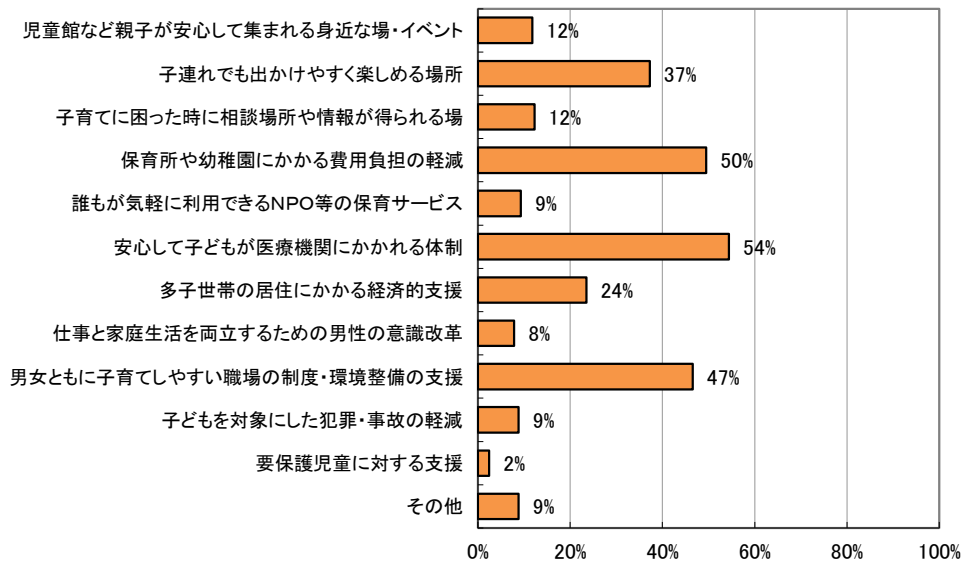
N=207
 平均人数: 1.8人



問19. あなたは、将来、希望の子どもの人数をかなえることができますか。(1つ)

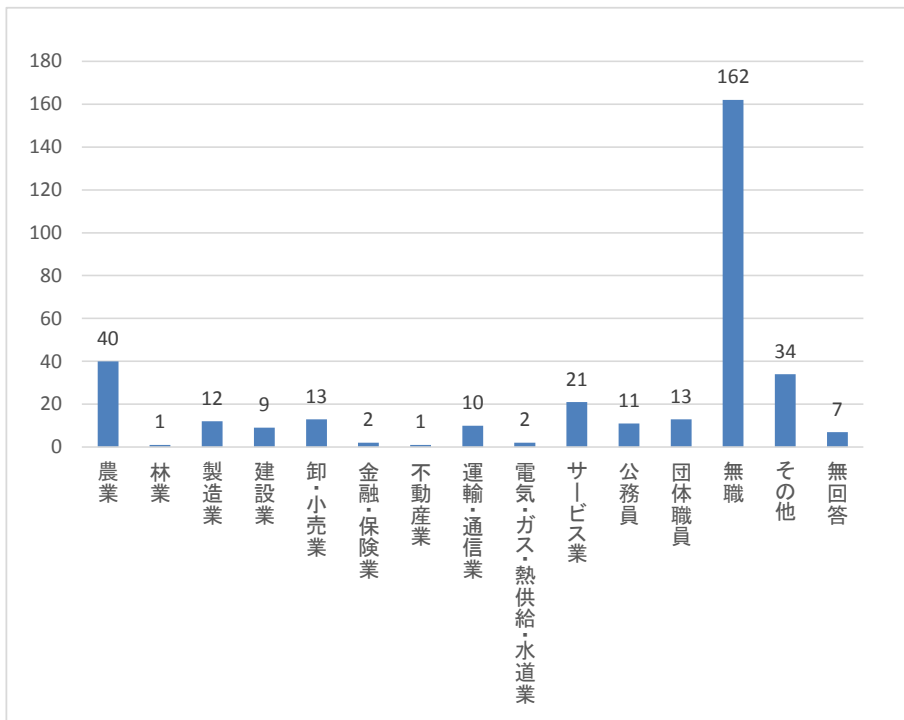
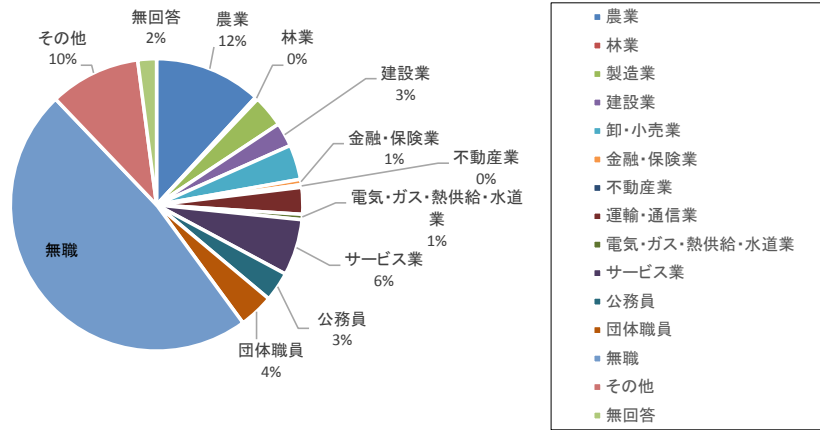


問20. 本市において、子どもを産み育てやすくするには何が必要とお考えですか。(3つまで)
N=204



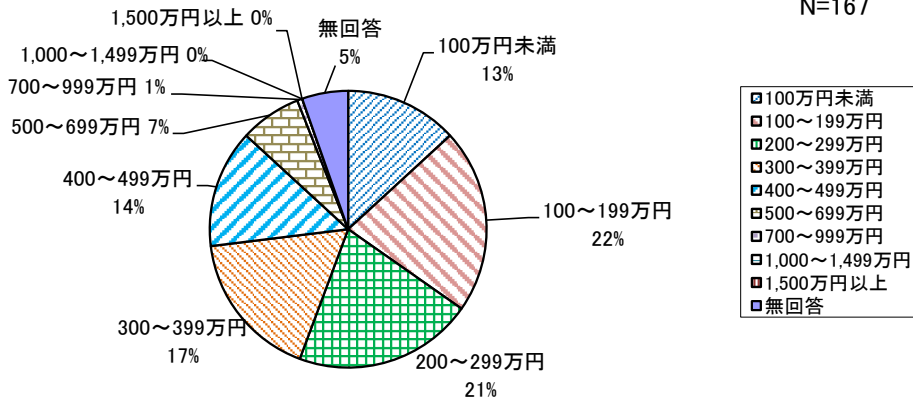
問 3. ご職業についてお答えください。(子育て世代のみ)

N=331

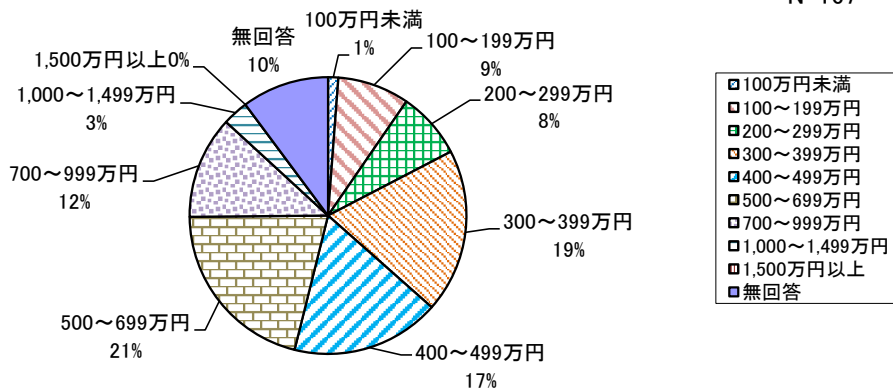


※就業されている方のみ(問3で、1～12と答えた方)
 問21. 概ねの年収を教えてください。
 問21-1. あなた自身(1つ)

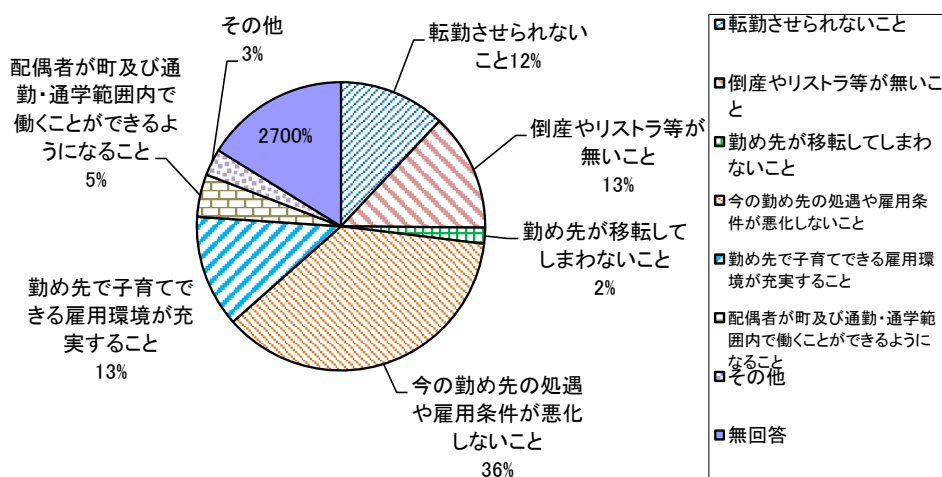
N=167



問21-2. 配偶者などを含めた世帯年収額(家計として一体的に考える額)(1つ)
 N=167

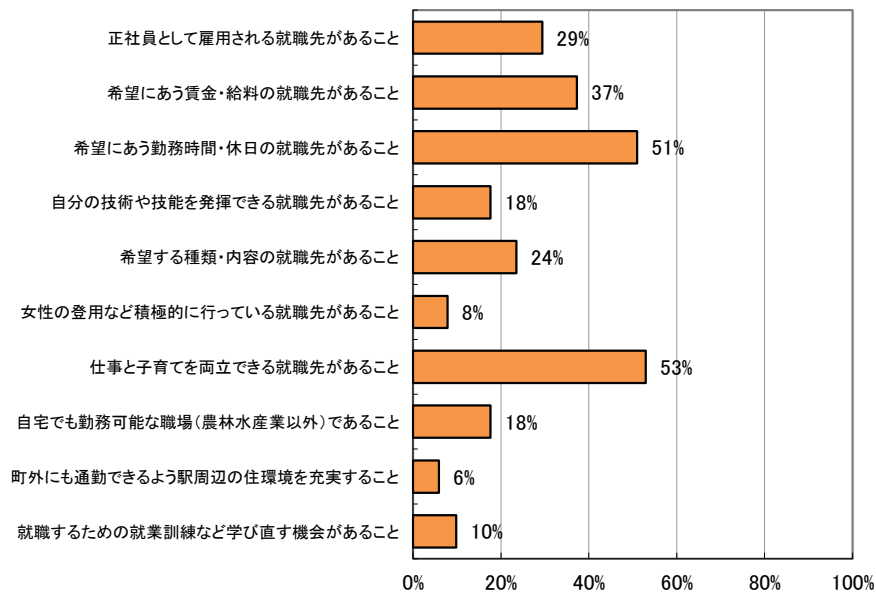


※就業されている方のみ(問3で、1～12と答えた方)
 問22. 仕事の面からみて、あなたが本市に定住するために必要な条件とは何ですか。(1つ)
 N=167



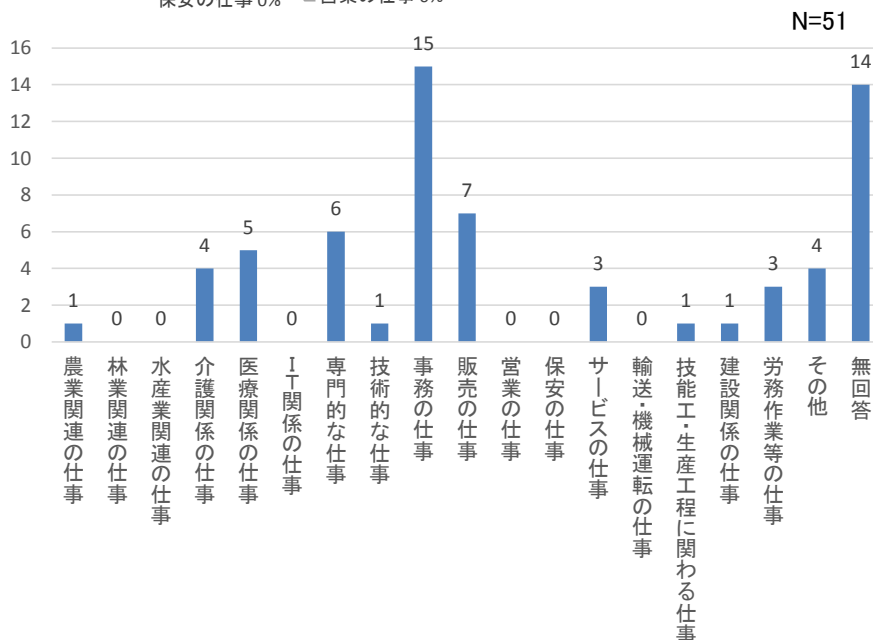
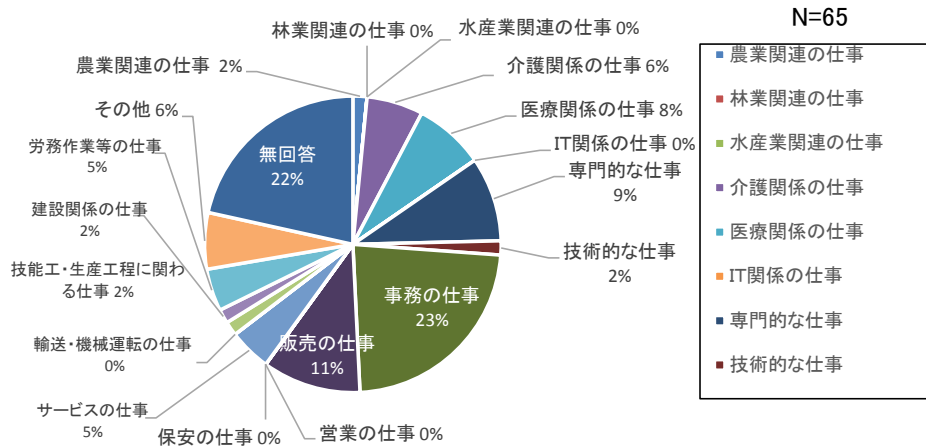
※就業されていない方のみ(問3で、13~14と答えた方)

問23. 仕事の面からみて、あなたが本市に住み続けるために必要な取り組みは何ですか。(3つまで)
N=51



※就業されていない方のみ(問3で、13~14と答えた方)

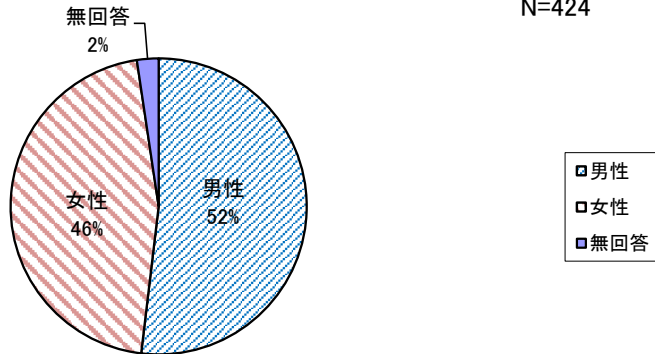
問24. 学校の勉強を生かせる、自分の技術や技能を發揮できる、希望する種類・内容の就職先とは、どの様な業態のことだとお考えですか。(1つ)
N=65



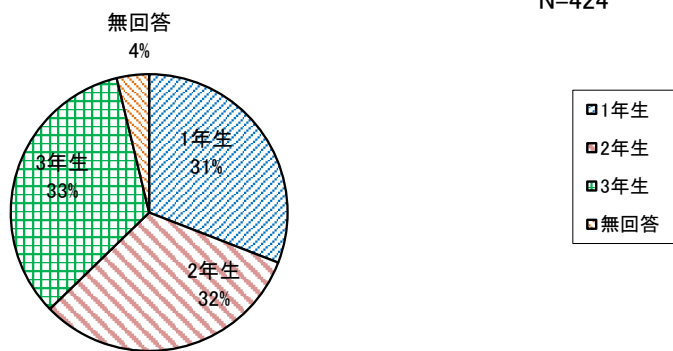
(2) 高校生の部

回答者数 424

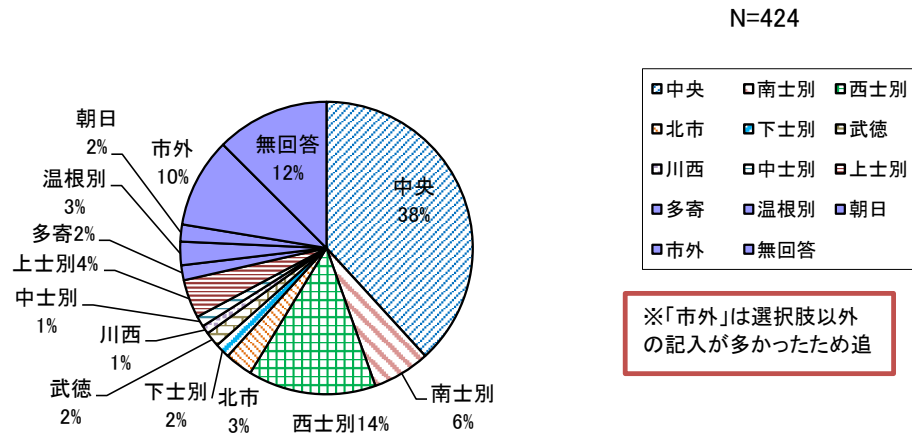
問1. 性別をお答えください。
性別



問2. 学年をお答えください。(1つ)
年齢

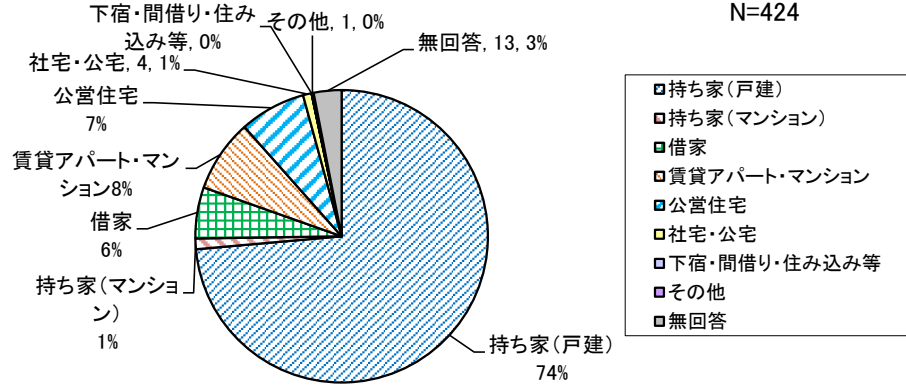


問3. 居住地域(地区名)についてお答えください。(1つ)



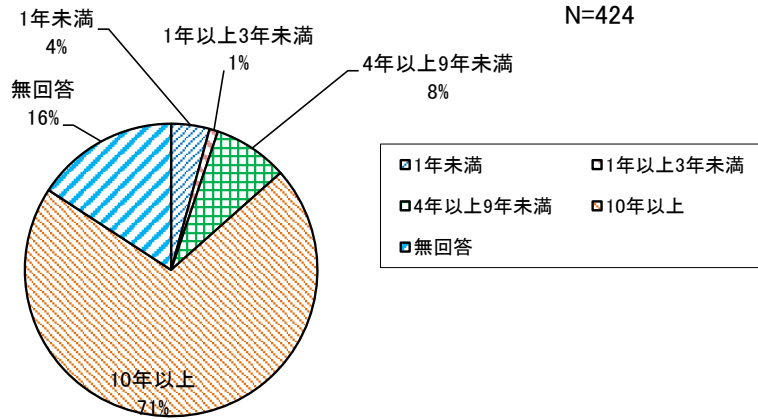
問4. 居住形態(住居種別)についてお答えください。(1つ)

N=424



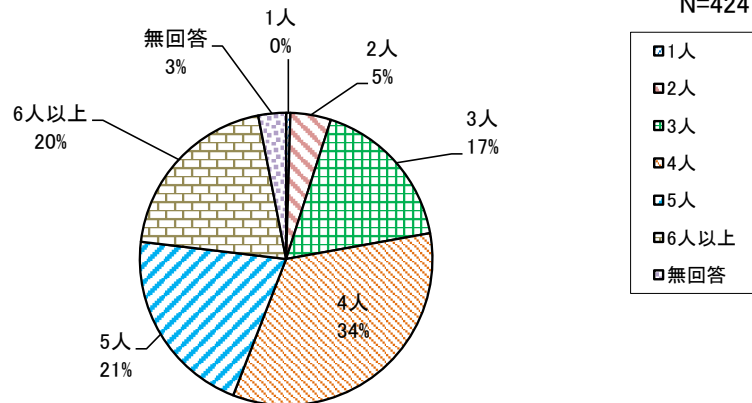
問5. 現在の士別市区域内での通算居住年数をお答えください。(1つ)

N=424



問6. 世帯構成(あなた自身を含めての世帯人数)について、お答えください。(1つ)

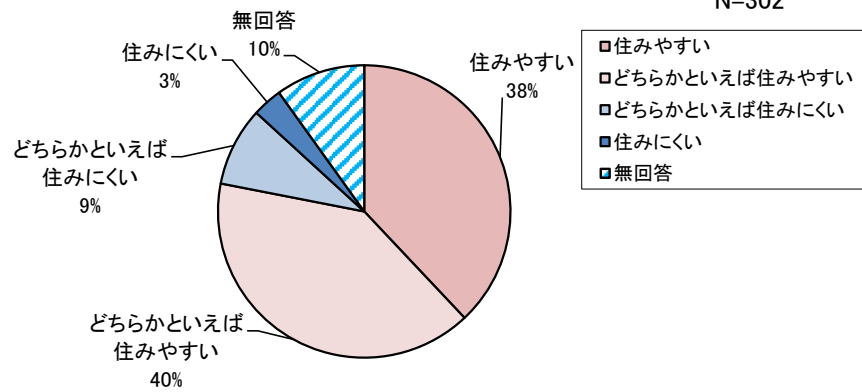
N=424



■士別市の住み心地について■

問7. あなたにとって士別市は住みやすいまちですか。(1つ)

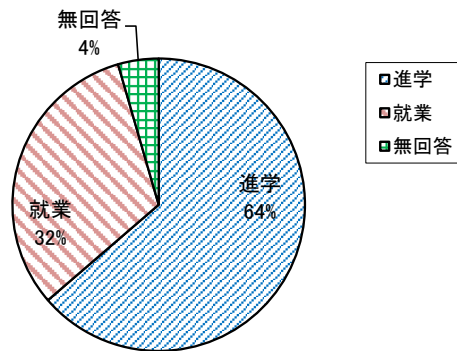
N=302



■現在考えている高校卒業後の進路、将来的な市内居住意向・理由について■

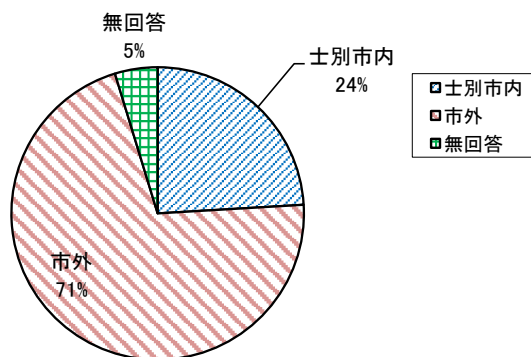
問8. あなたの高校卒業後のご意向をお答えください。(1つ)

N=424



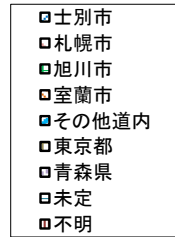
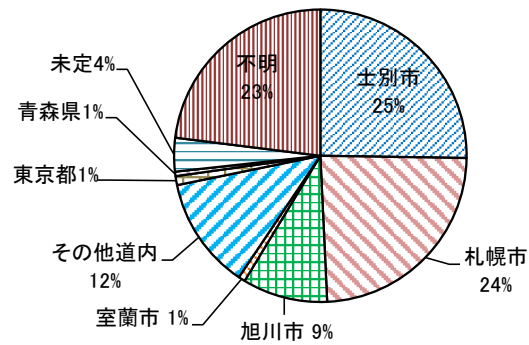
問9. 進学/就業時に希望される居住地をお答えください。(1つ)

N=424



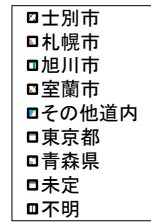
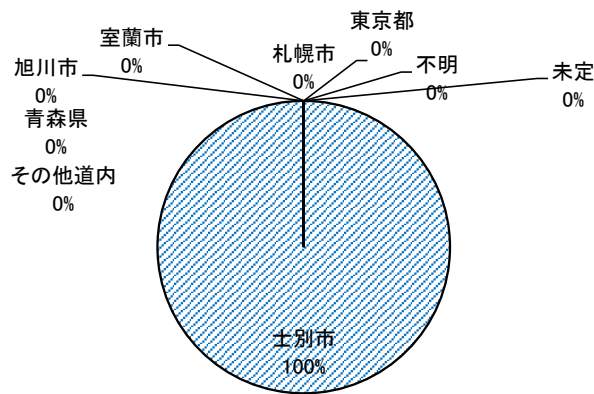
具体的なまち

N=404



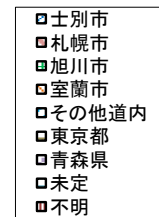
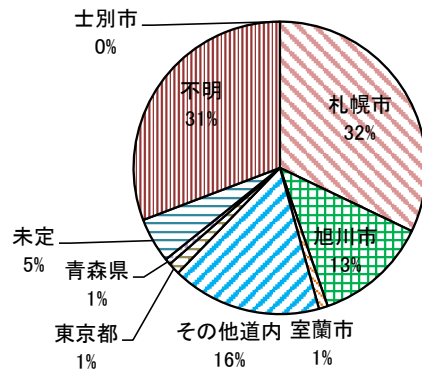
うち 進学を選択した回答者

N=102

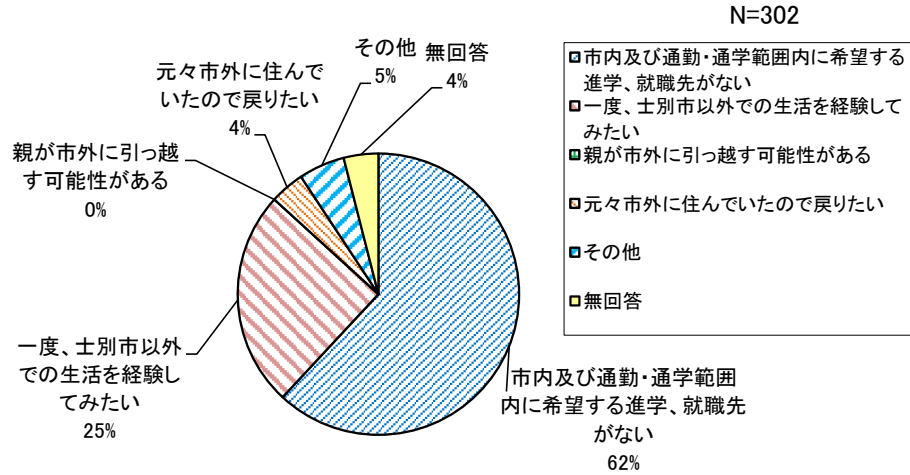


うち 就業を選択した回答者

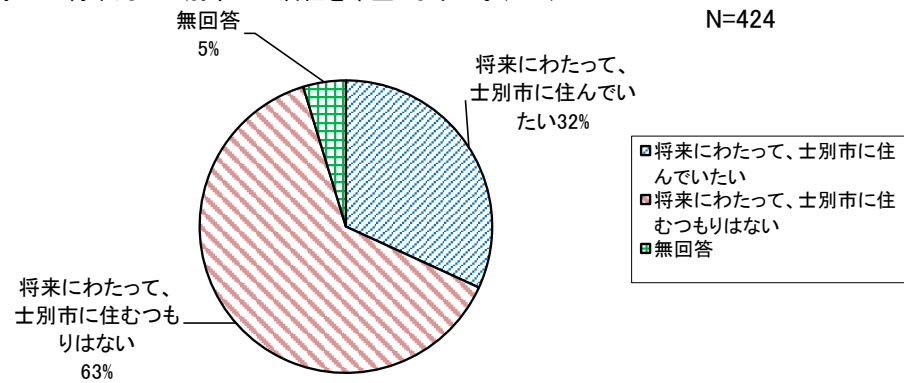
N=92



問 10. 市外をご希望される要因は何ですか。(1つ)

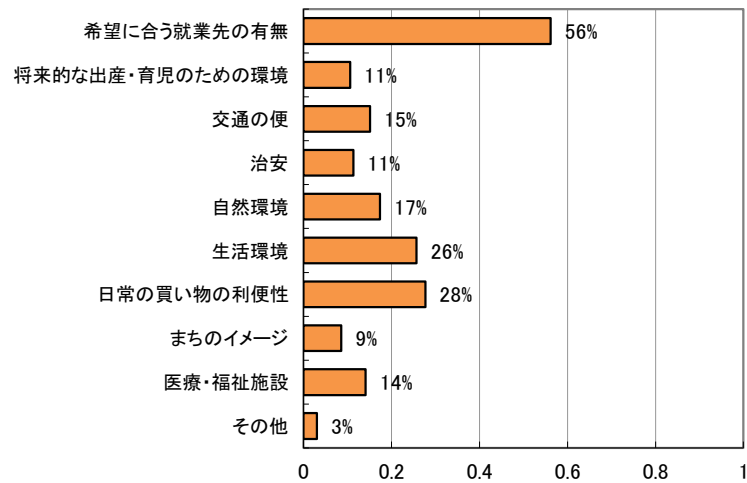


問 11. 将来的に土別市での居住を希望しますか。(1つ)



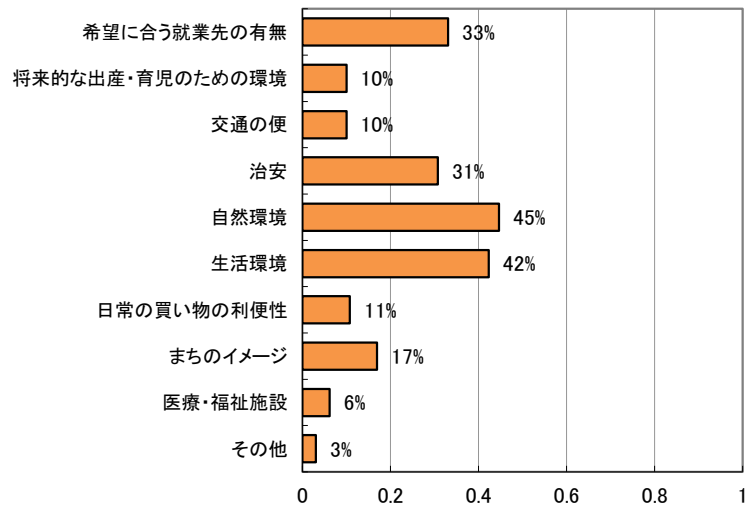
問 11-1. 将来的に土別市での居住を希望する/しない要因は何ですか。(3つまで)

N=397



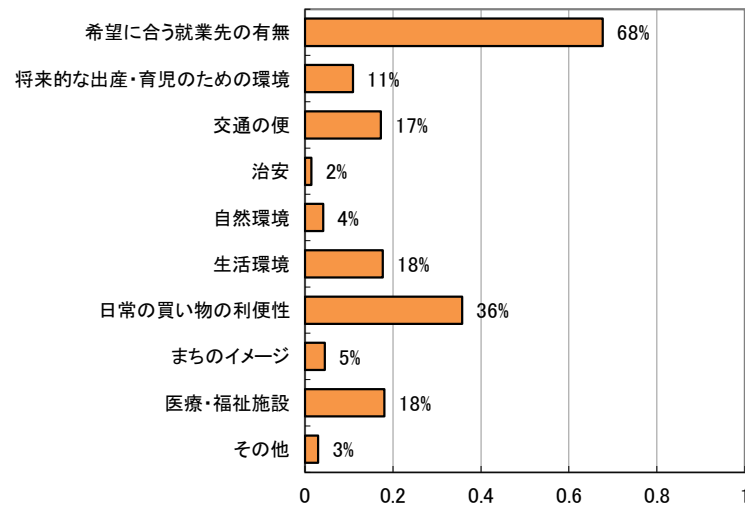
「将来にわたって、士別市に住んでいたい」の回答者
 居住を希望する要因

N=130

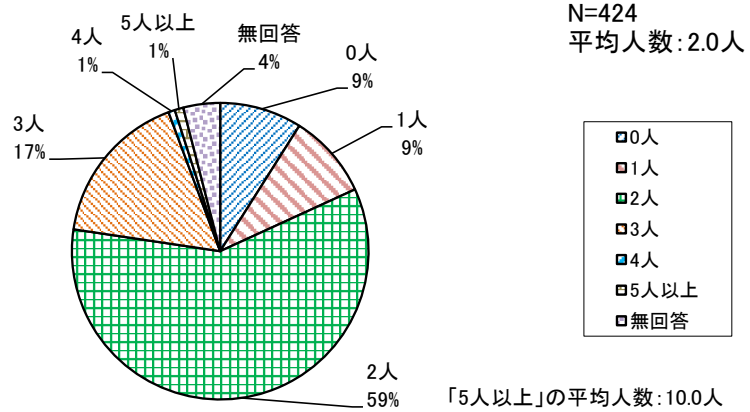


「将来にわたって、士別市に住むつもりはない」の回答者
 居住を希望しない要因

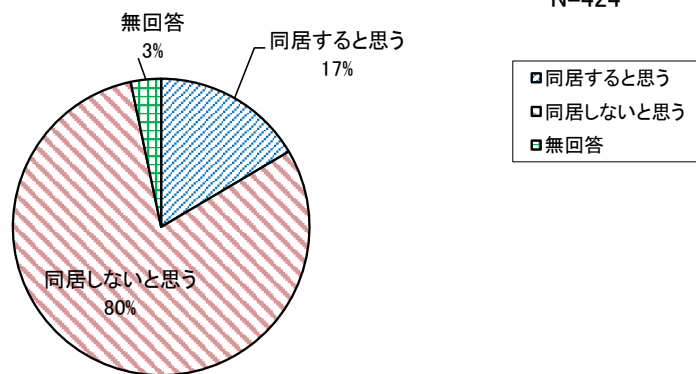
N=266



問 12. 将来、希望する子どもの人数は何人ですか(1つ)

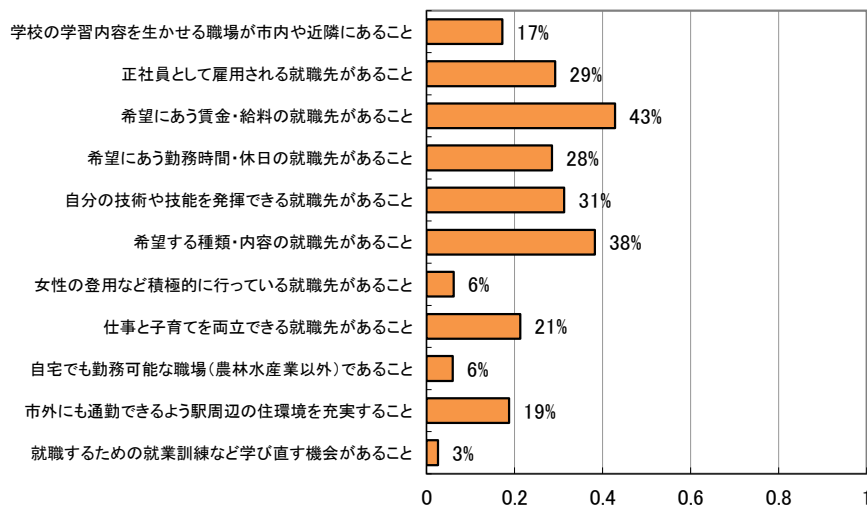


問 13. 将来、親御さんと同居すると思いますか。(1つ)

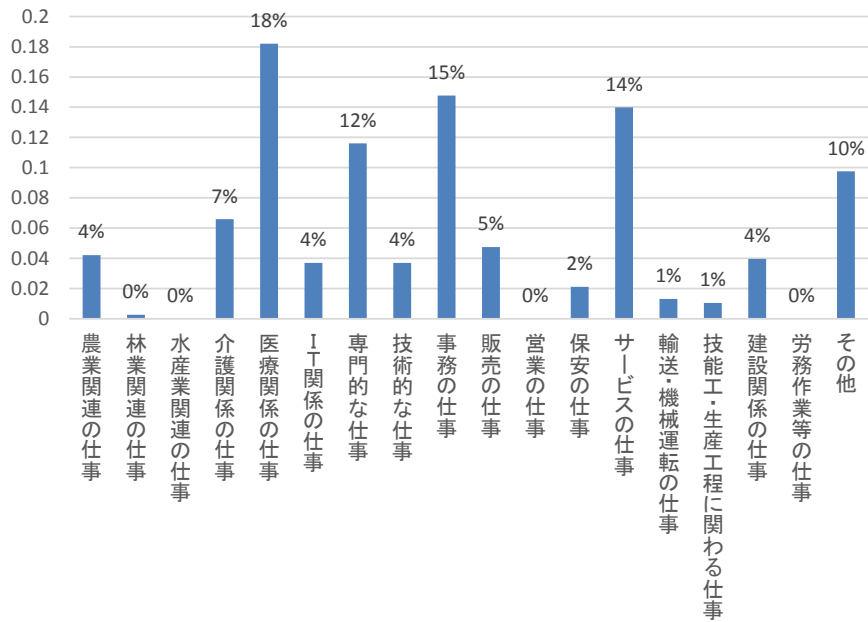
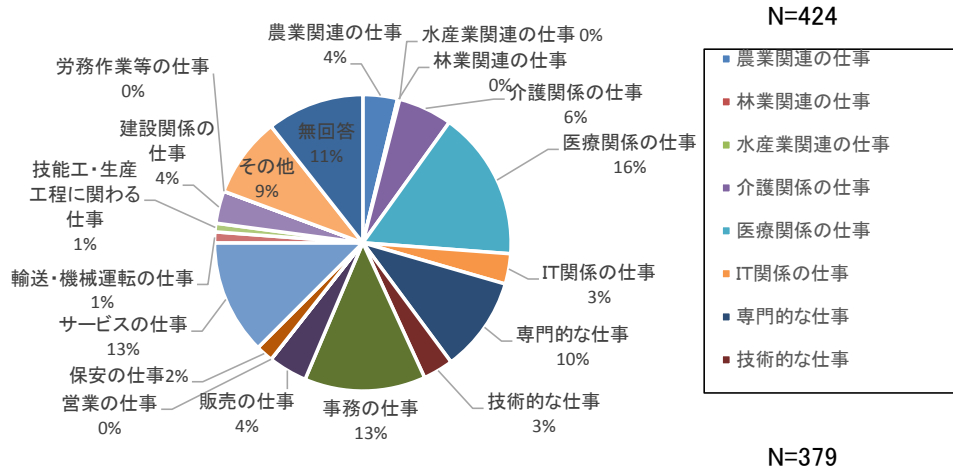


■将来的に士別市に住むために求めるものについて■

問 14. 仕事の面からみて、あなたが本市に住み続けるために必要な取り組みは何ですか。(3つまで)
N=390



問 15. 学校の勉強を生かせる、自分の技術や技能を発揮できる、希望する種類・内容の就職先とは、どのような業態のことだとお考えですか。



2. 各種データ

(1) 士別市人口推計の概要

	2010年	2012年	2014年	2015年	2020年	2030年	2040年	2050年	2060年	
推計	国立社会保障・人口問題研究所	21,787		20,249	18,772	15,697	12,813	10,283	8,110	
	日本創成会議	21,787		20,249	18,531	14,893	11,458			
実績	総人口	21,787	21,404	H27.9末 20,293	19,173	16,768	14,493	12,408	10,593	
	2010年を1.0とした 指数	1.000	0.982	0.931	0.880	0.770	0.665	0.570	0.486	
	合計特殊出生率	1.45	1.36		1.50	1.80	2.10	2.10	2.10	
	出生数	113	97	114	112	110	113	99	84	
	死亡数	258	276	254	292	309	306	282	241	
	自然動態計	△ 145	△ 179	△ 140	△ 151	△ 180	△ 193	△ 183	△ 157	
	転入数	653	600	563	587	617	466	399	340	
	転出数	933	791	815	945	895	676	579	494	
	社会動態計	△ 280	△ 191	△ 252	△ 358	△ 278	△ 243	△ 210	△ 180	△ 154

(2) 交流人口の内訳

交流人口の内訳

項目	年度	区分	人数
交流人口	H24	地域間交流	144
		自動車試験	28,086
		合宿者	20,439
		観光	359,508
		合 計	408,177
	H25	地域間交流	114
		自動車試験	29,683
		合宿者	21,195
		観光	388,536
		合 計	439,528
	H26	地域間交流	107
		自動車試験	28,717
		合宿者	21,577
		観光	348,423
		合 計	398,824
	H31	地域間交流	1,700
		自動車試験	30,000
		合宿者	25,000
		観光	400,000
		合 計	456,700

(3) 各施策に関連する重要業績評価指標（KPI）の年度別計画

各施策に関連する重要業績評価指標(KPI)

【農業未来都市創造】

重要業績評価指標(KPI)	計 画				
	2015	2016	2017	2018	2019
農業学習履修時間 延 205時間	35	35	40	45	50
新規就農者 延 45人	11 (うち酪農 1)	7	8	9	10
移住体験者 延 3,600人	500	600	700	800	1000
羊新規飼養者 延 6戸	1	1	2	1	1
羊(繁殖雌)飼養頭数 800頭	550 (5戸)	600 (6戸)	700 (8戸)	750 (9戸)	800 (10戸)
農業体験者 延 1,700人	200	300	300	400	500
ふるさと給食実施回数 延 38回	7	7	8	8	8
6次産業化支援数 延 7件	1	1	1	2	2
新規販路開拓 延 7件	1	1	1	2	2
ICT農業研修者数 延 750人	100	100	150	200	200
イベント参加者口 延 90,700人	17,700	16,000	19,000	17,000	21,000

【合宿の聖地創造】

重要業績評価指標(KPI)	計 画				
	2015	2016	2017	2018	2019
合宿者数 延 115,000人	21,000	22,000	23,000	24,000	25,000
新規招致チーム数 延 16チーム	2	2	3	4	5
海外チーム招致数 延 8チーム	1	1	2	2	2
ナショナルチーム招致数 延 15チーム	3	3	3	3	3
スポーツ教室参加者数 延 1,800人	250	300	350	400	500
新規メニュー開発 延 15品目	2	2	3	3	5
イベント参加者数 延 25,000人	4,000	4,500	5,000	5,500	6,000
障がい者スポーツの合宿者数 延 94人	12	12	20	20	30

(4) 各施策に関連する実績表

各施策に関連する実績表

【農業未来都市創造】

重要業績評価指標(KPI)	実 績			
	2012	2013	2014	2015
農業学習参加者 (人)	—	—	—	937 (8校)
新規就農者 (人)	14 (うち酪農2)	7	2	11 (うち酪農1)
移住体験者 (人)	395	836	440	
羊新規飼養者 (戸)	0	0	0	1
羊(繁殖雌)飼養頭数 (頭)	977 (7戸)	1,118 (7戸)	1,133 (6戸)	
農業体験者 (人)	87	85	52	197
ふるさと給食実施 (食)	10,308 (6回・18校)	10,518 (6回・15校)	9,635 (6回15校)	(7回14校)
6次産業化支援企業数 (件)	—	—	2	
新規販路開拓 (件)	—	—	—	
ICT農業研修者数 (人)	86	132	128	—
イベント参加者口 (人)	11,000	15,000	17,000	

【合宿の聖地創造】

重要業績評価指標(KPI) (H31)	実 績			
	2012	2013	2014	2015
合宿者数 (人)	20,439	21,195	21,577	
新規招致チーム数 (チーム)	5	5	12	
海外チーム招致数 (チーム)	0	1	4	1
ナショナルチーム招致数 (チーム)	1	1	2	3
スポーツ教室参加者数 (人)	121	160	212	
新規メニュー開発 (品目)	—	—	—	3
イベント参加者数 (人)	3,802	3,580	3,798	
障がい者スポーツの合宿者数 (人)	0	0	9	

(5)士別市の気象概況

士別市の気象概況

年 間	気 温 (°C)			日 照 時 間 (h)	降 水 量
	平 均	最 高 気 温	最 低 気 温		総 量 (mm)
平成 22年	7.0	33.0	-24.6	1,374.1	1,165.0
23年	6.3	32.7	-27.4	1,503.3	1,098.0
24年	5.9	32.6	-28.7	1,518.0	1,170.5
25年	6.2	33.8	-26.7	1,403.8	1,157.0
26年	6.2	36.3	-31.2	1,667.7	1,142.5

(平成26年月毎)

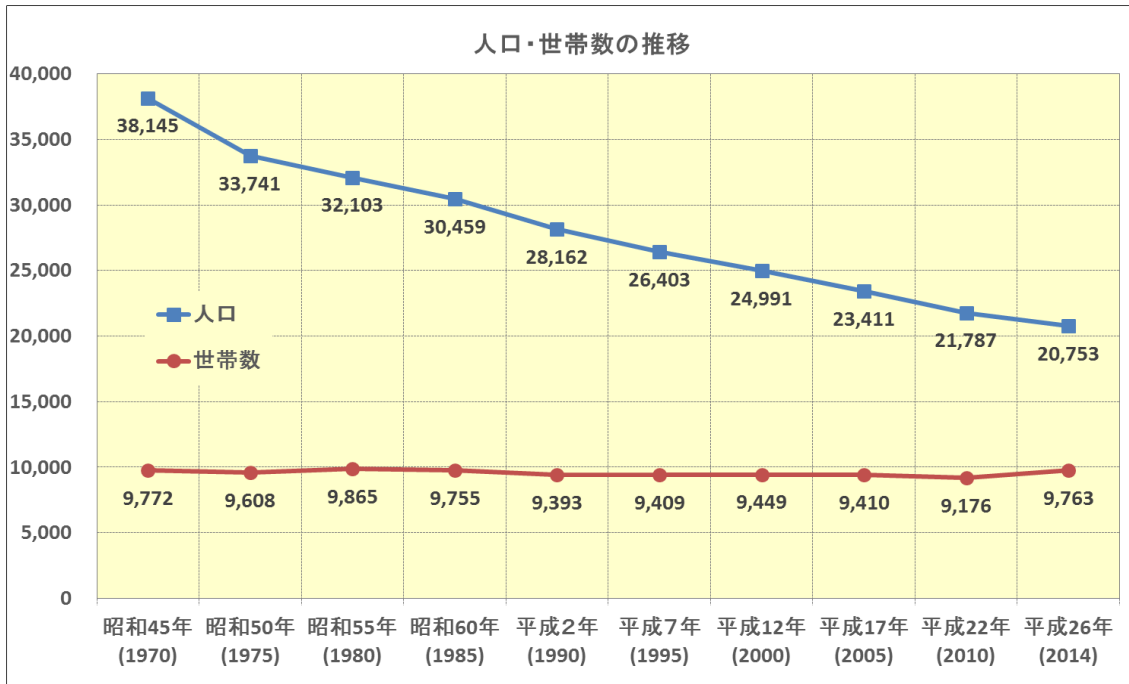
1月	-9.5	3.5	-26.5	64.2	108.5
2月	-8.1	6.3	-31.2	96.7	18.0
3月	-3.6	12.0	-21.7	164.7	30.0
4月	3.4	22.0	-8.7	225.5	26.0
5月	11.9	29.0	0.5	181.0	35.0
6月	18.3	36.3	8.1	191.4	75.5
7月	20.8	30.2	9.9	195.2	130.0
8月	20.3	30.8	9.2	148.9	268.5
9月	14.8	27.8	3.0	147.4	128.5
10月	7.9	21.4	-2.7	124.0	90.0
11月	2.7	16.3	-8.7	78.6	113.5
12月	-5.1	5.4	-23.3	50.1	119.0

年 間	風 速 (m/s)		積 雪 量	
	平均風速	瞬間最大風速	累計降雪量 (cm)	最大積雪深 (cm)
平成 22年	1.9	21.2	411.0	94.0
23年	1.8	17.5	857.0	136.0
24年	1.8	17.1	781.0	148.0
25年	1.8	17.2	722.0	147.0
26年	1.8	19.8		

(平成26年月毎)

1月	1.5	13.4		
2月	1.7	13.4		
3月	2.2	14.9		
4月	2.0	17.2		
5月	2.2	15.2		
6月	1.7	14.5		
7月	1.5	12.1		
8月	1.4	13.5		
9月	1.4	13.8		
10月	1.7	14.0		
11月	1.8	19.8		
12月	2.0	16.4		

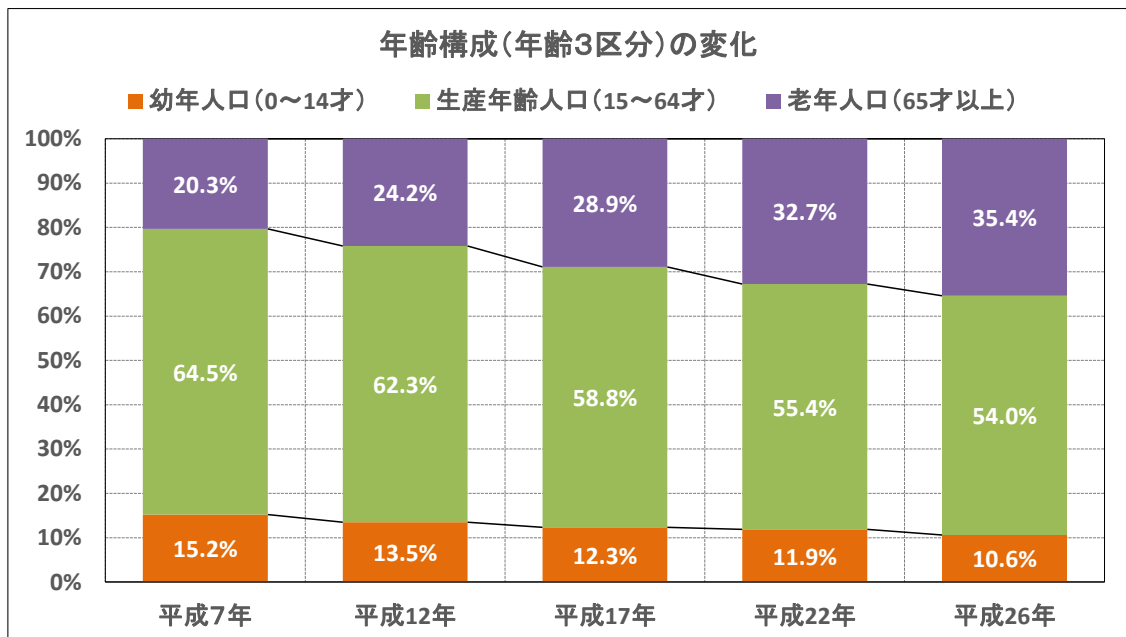
(6)人口・世帯



※平成 17 年以前の数値は、旧士別市・旧朝日町を合算。

※平成 26 年の人口・世帯数は、10 月 1 日における住民基本台帳の数値。それ以外は国勢調査の数値を用いている。

(7)年齢構成の変化



(国勢調査・住民基本台帳)

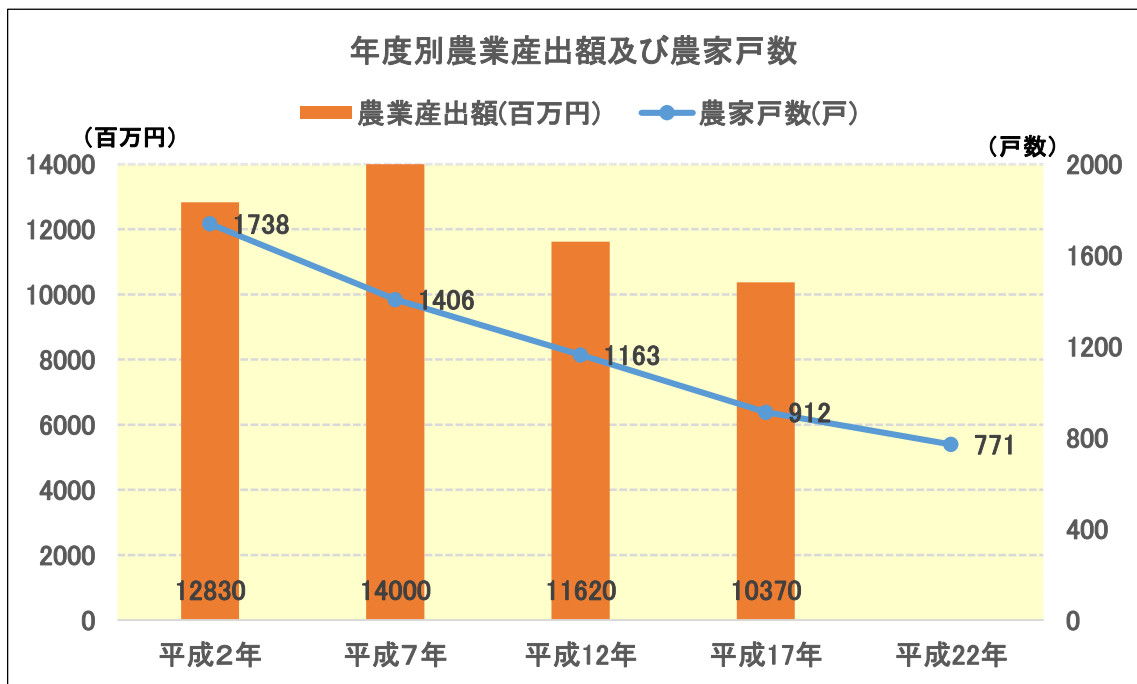
(8)耕地面積・農家世帯・農家人口の推移

耕地面積・農家世帯・農家人口の推移

年次	耕地面積		農家世帯 (戸)	農家人口 (人)	
	田(ha)	畑(ha)			
平成 21 年	16,322.49	9,898.71	6,423.78	801	3,084
22	16,265.10	9,892.10	6,373.00	794	3,069
23	16,350.91	9,889.05	6,461.89	765	2,968
24	16,186.32	9,875.87	6,310.36	731	2,767
25	16,085.23	9,844.47	6,240.76	720	2,395

(市農業委員会資料)

(9)年度別農業産出額・農家戸数

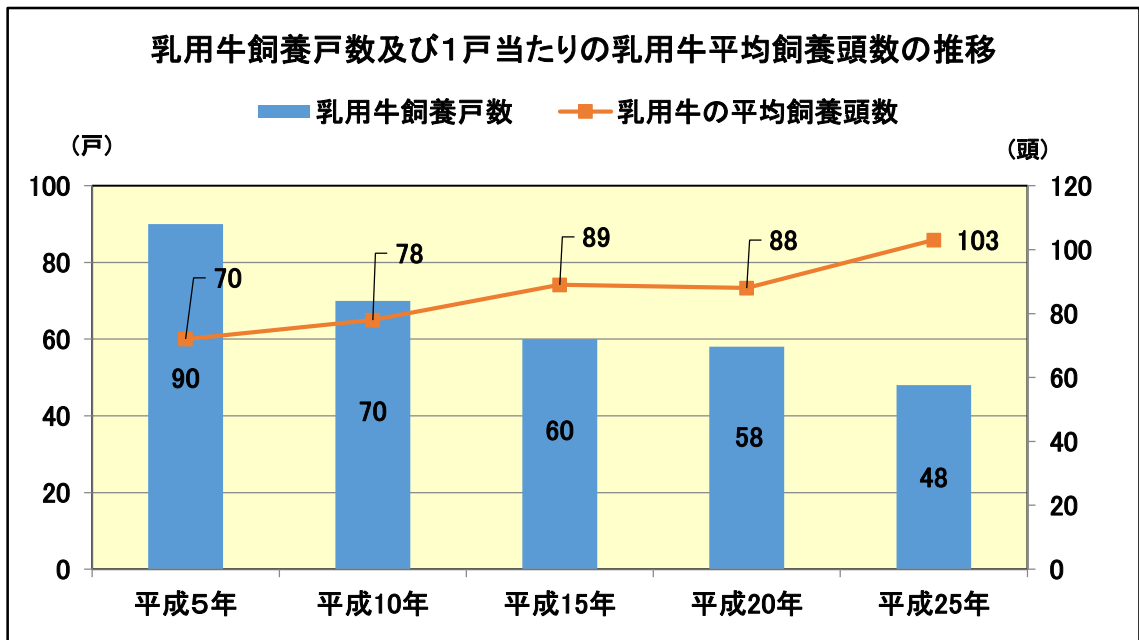


(農家戸数：農林業センサス)

(農業算出額：生産農業所得統計)

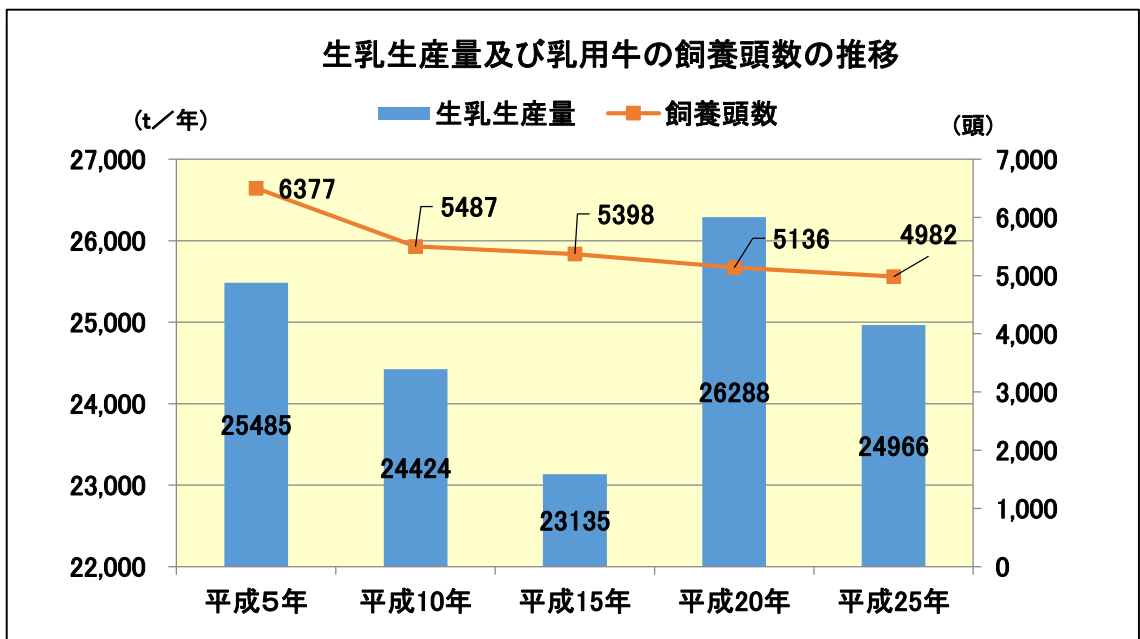
※H22の産出額は都道府県単位のための集計のため数値なし

(10)乳用牛飼養戸数及び1戸あたりの平均飼養頭数の推移



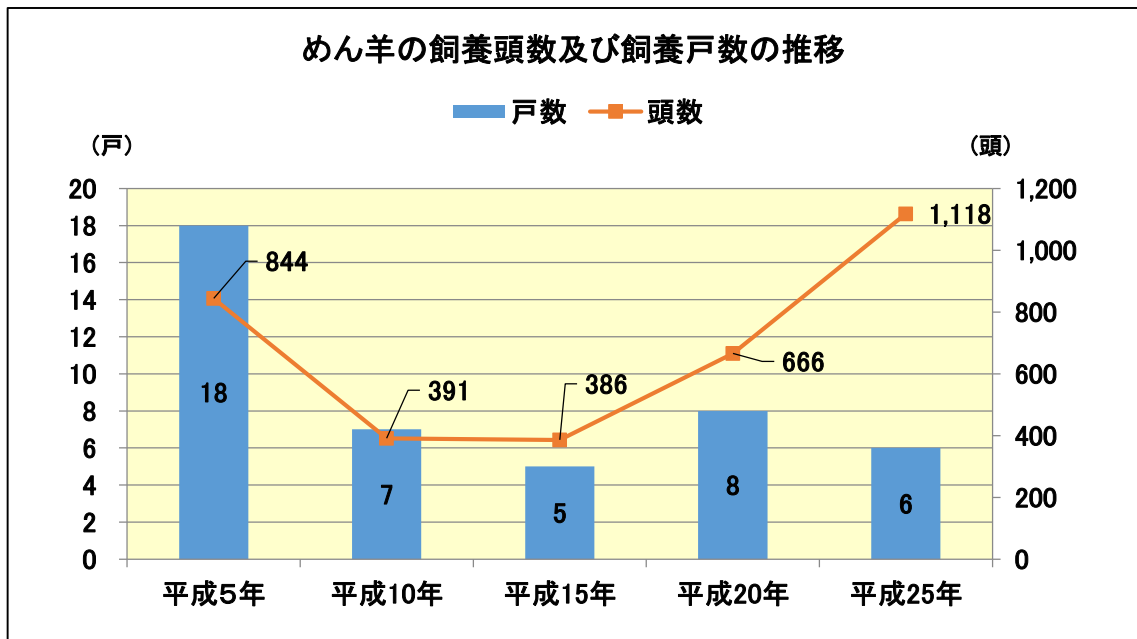
(市経済部資料)

(11)生乳生産量及び乳用牛の飼養頭数の推移



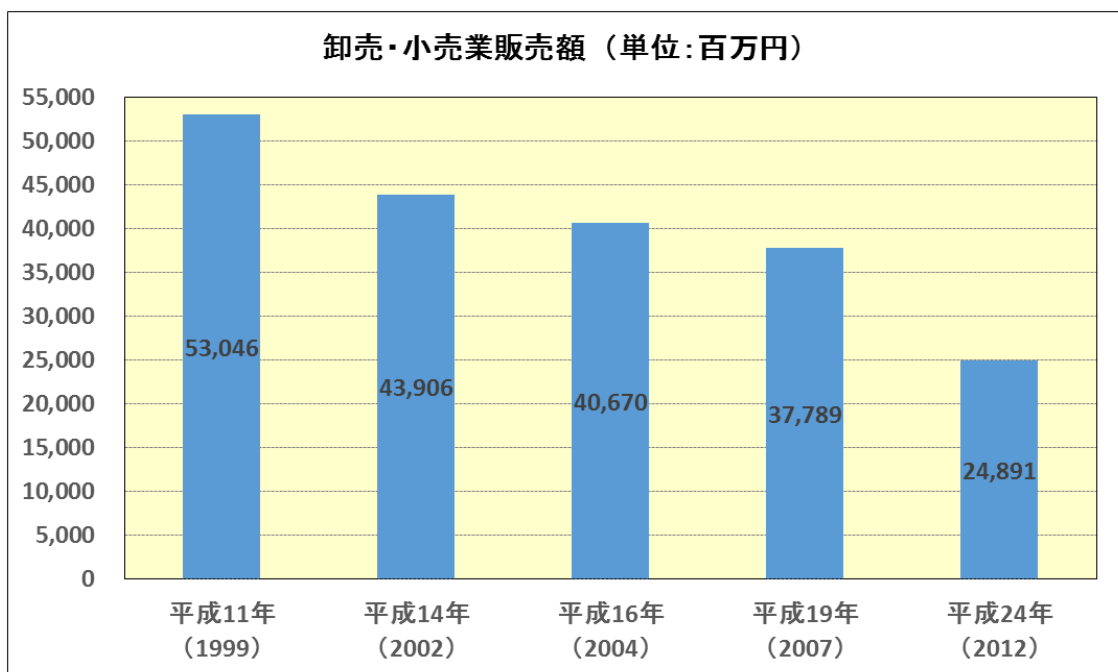
(市経済部資料)

(12)めん羊の飼養頭数及び戸数の推移



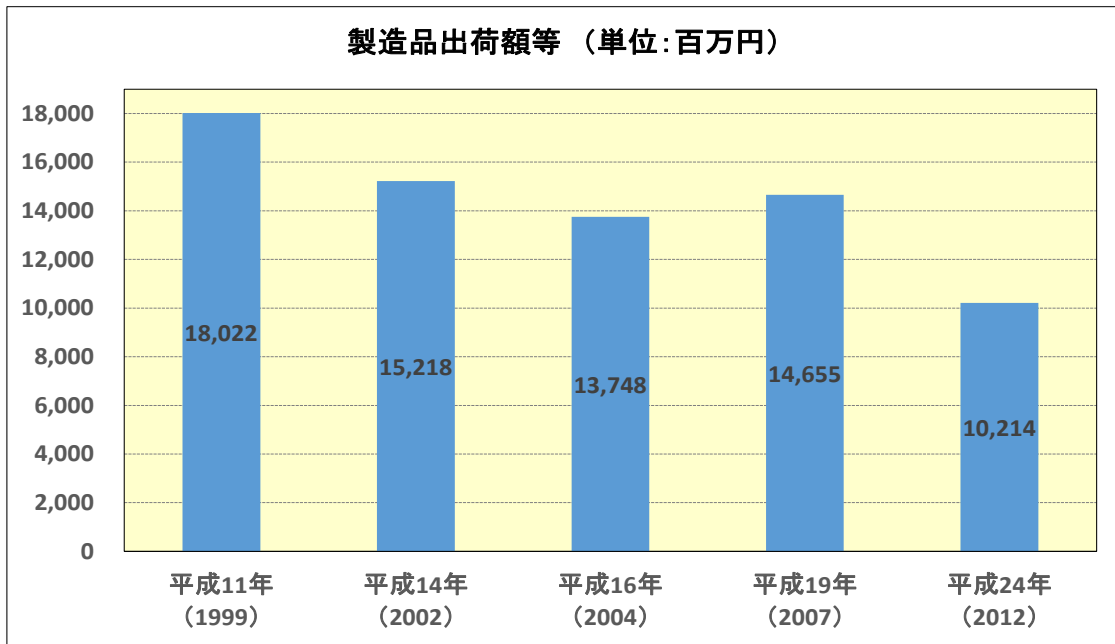
(市経済部資料)

(13)卸売・小売業販売額



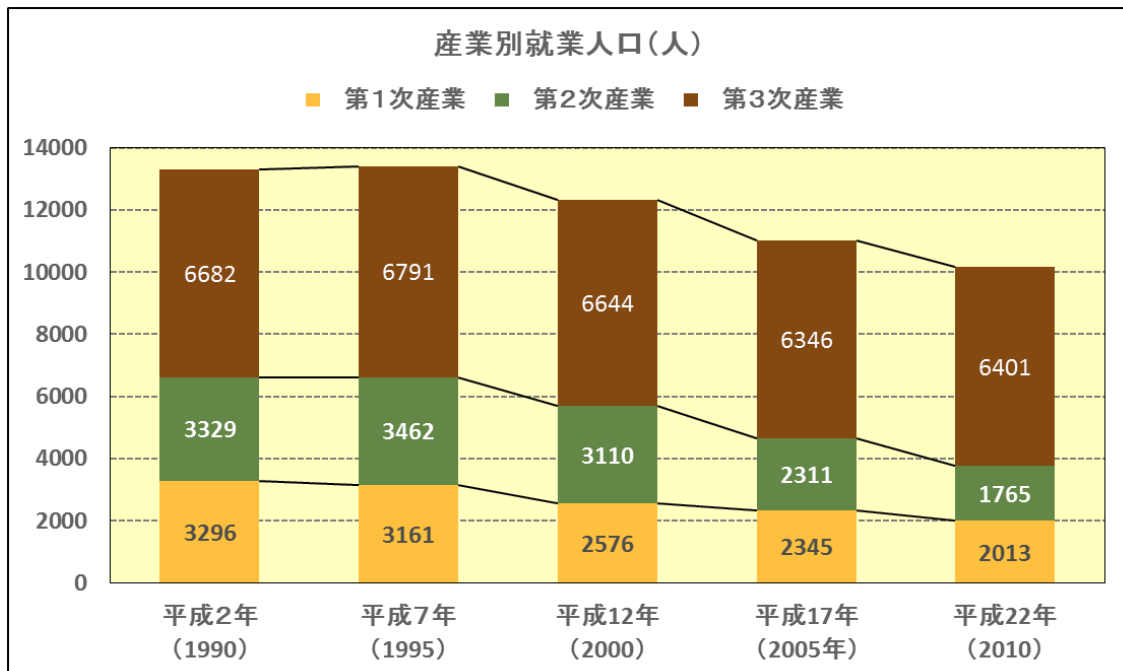
(商業統計・経済センサス)

(14)製造品出荷額等



(工業統計)

(15)産業別就業人口



※平成17年以前の数値は、旧士別市・旧朝日町を合算 (国勢調査)

(16)合宿受入状況

合宿受入状況(市内宿泊数)

種目	平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	団体数	延人数	団体数	延人数	団体数	延人数	団体数	延人数	団体数	延人数
陸上	111	8,369	113	8,659	118	8,904	104	8,057	105	9,003
実業団	76	5,307	86	5,891	82	5,767	68	5,168	68	5,374
大学	20	2,249	13	1,902	20	2,230	18	1,905	22	2,621
高校	15	813	14	866	16	907	18	984	15	1,008
ウエイトリフティング	8	183	5	185	5	333	5	150	9	210
スキー	164	4,500	127	5,225	172	5,518	183	5,471	178	5,210
その他	120	7,019	128	8,105	140	7,319	131	6,761	139	6,772
合計	403	20,071	373	22,174	435	22,074	423	20,439	431	21,195

(市教委スポーツ課資料)

(17)海外チームの合宿受入状況

海外チームの合宿受入状況

年度	海外チーム	主要目的
平成26年度	中国吉林省通化市ジャンプチーム	選手強化
平成26年度	香港トライアスロン ナショナルチーム	ITUトライアスロンアジアカップ(大阪)直前合宿 アジア競技大会(仁川)直前合宿
平成25年度	韓国ジャンプチーム	ジュニア選手強化
平成22年度	中国ジャンプナショナルチーム	女子ジャンプ選手強化
平成20年度	ドイツ陸上ナショナルチーム	北京オリンピック直前合宿
平成19年度		世界陸上(大阪)直前合宿
平成16年度	中国ウエイトリフティング 黒竜江省選抜チーム	北海道・中国黒竜江省親善スポーツ交流
平成5年度	韓国ウエイトリフティング ナショナルチーム	広島アジア大会直前合宿

(市教委スポーツ課資料)

(18)士別市で合宿を行ったチームの主な成績(2014 年度)

士別で合宿を行ったチームの 2014 年度の主な活躍

選手・チーム名	主な成績
青山学院大学陸上競技部	第90回東京箱根間往復大学駅伝競走 往路優勝・復路優勝・総合優勝
トヨタ自動車(株)陸上長距離部	第58回全日本実業団対抗駅伝競走大会《成績》優勝口
(株)デンソー女子陸上長距離部	第34回全日本実業団対抗女子駅伝 優勝 (2連覇)
佐藤 優香	第20回日本トライアスロン選手権 優勝
伊藤 有希	2015/ルディック世界選手権(スウェーデン・ファルン) 女子ノーマルヒル 銀メダル

(市教委スポーツ課資料)

(19)士別市で合宿を行った「2015 世界陸上」マラソン代表選手

士別で合宿を行った「2015 世界陸上競技選手権」マラソン代表選手

種 目	選手名	所属チーム名
男子マラソン	今井 正人	トヨタ自動車九州陸上競技部
男子マラソン	前田 和浩	九電工陸上競技部男子部
女子マラソン	伊藤 舞	大塚製薬陸上競技部
女子マラソン	重友 梨佐	天満屋女子陸上競技部
女子マラソン	前田 彩里	ダイハツ陸上競技部

(市教委スポーツ課資料)

(20)過去に士別市で合宿した主な夏季オリンピック選手

過去に士別で合宿を行った主な夏季オリンピック出場選手

種目	選手名	主な成績
陸上女子マラソン	木崎 良子	2012ロンドンオリンピック 出場
陸上女子マラソン	尾崎 好美	2012ロンドンオリンピック 出場
陸上女子マラソン	土佐 礼子	2008北京オリンピック 出場 2004アテネオリンピック 5位
陸上女子マラソン	野口 みずき	2004アテネオリンピック 金メダル
陸上女子マラソン	高橋 尚子	2000シドニーオリンピック 金メダル
陸上女子マラソン	有森 裕子	1996アトランタオリンピック 銅メダル 1992バルセロナオリンピック 銀メダル
陸上女子マラソン・長距離	福士 加代子	2012ロンドン・2008北京・2004アテネ 出場
陸上女子マラソン・長距離	洪井 陽子	2008北京オリンピック 10000m 出場
陸上女子マラソン・長距離	赤羽 有紀子	2008北京オリンピック 10000m・5000m 出場
陸上男子マラソン	藤原 新	2012ロンドンオリンピック 出場
陸上男子マラソン	尾方 剛	2008北京オリンピック 出場
陸上男子マラソン	油谷 繁	2004アテネオリンピック 5位
陸上女子投てき	室伏 由佳	2004アテネオリンピック 出場
ウエイトリフティング女子	三宅 宏実	2012ロンドンオリンピック 銀メダル 2008北京オリンピック 6位 2004アテネオリンピック 出場
柔道女子	上野 順恵	2012ロンドンオリンピック 銅メダル
柔道女子	上野 雅恵	2008北京オリンピック 金メダル 2004アテネオリンピック 金メダル
柔道女子	恵本 裕子	1996アトランタオリンピック 金メダル

(市教委スポーツ課資料)

(21)過去に士別市で合宿した主な冬季オリンピック選手

過去に士別で合宿を行った主な冬季オリンピック出場選手

種目	選手名	主な成績
スキージャンプ	葛西 紀明	2014ソチオリンピック 男子ラージヒル個人 銀メダル 男子ラージヒル団体 銅メダル
スキージャンプ	伊東 大貴	2014ソチオリンピック 男子ラージヒル団体 銅メダル
スキージャンプ	清水 礼留飛	2014ソチオリンピック 男子ラージヒル団体 銅メダル
スキージャンプ	竹内 択	2014ソチオリンピック 男子ラージヒル団体 銅メダル
スキージャンプ	栃本 翔平	2010バンクーバーオリンピック 男子ラージヒル団体 5位
スキージャンプ	原田 雅彦	1998長野オリンピック 男子ラージヒル個人 銅メダル 男子ラージヒル団体 金メダル
スキージャンプ	船木 和喜	1998長野オリンピック 男子ノーマルヒル個人 銀メダル 男子ラージヒル個人 金メダル 男子ラージヒル団体 金メダル
スキージャンプ	岡部 孝信	1998長野オリンピック 男子ラージヒル団体 金メダル
スキージャンプ	齋藤 浩哉	1998長野オリンピック 男子ラージヒル団体 金メダル
スキージャンプ	八木 弘和	1980レークプラシッドオリンピック 男子ノーマルヒル個人 銀メダル
スキージャンプ（女子）	高梨 沙羅	2014ソチオリンピック 女子ノーマルヒル個人 4位
スキージャンプ（女子）	伊藤 有希	2014ソチオリンピック 女子ノーマルヒル個人 7位
ノルディックコンバインド	渡部 暁斗	2014ソチオリンピック 複合男子ノーマルヒル個人 銀メダル 複合男子ラージヒル団体 6位
ノルディックコンバインド	加藤 大平	2010バンクーバーオリンピック 複合男子ラージヒル団体 6位
ノルディックコンバインド	荻原 健司	1994リレハンメルオリンピック 複合団体 金メダル
ノルディックコンバインド	阿部 雅司	1994リレハンメルオリンピック 複合団体 金メダル

(市教委スポーツ課資料)